

聖徒の道

6
1998

末日聖徒イエス・キリスト教会



Brigham Young

聖徒の道



表紙

表紙——いちばん最後に撮られたものとして知られている、ブリガム・ヤング大管長の写真。1877年に大管長が死亡する少し前に撮影された。C・R・サベジ撮影。サインは、1875年、ブリガム・ヤング自身によるもの。グレゴリー・P・クリストファーソンの厚意により掲載。
裏表紙——左から、新聞に掲載されたブリガム・ヤング大管長の銅版画、ブリガム・ヤングが制作したライティングデスク（1832年ごろ）と彼の大工道具、教会歴史美術館の厚意により掲載。セントジョージ神殿。ユタ州歴史協会の厚意により掲載。

こどものページ

写真/レベッカ・トッド

一般

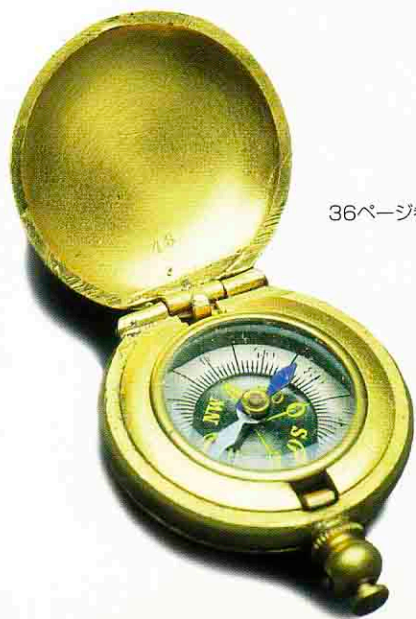
- 2 大管長会メッセージ——第二の誕生
第二副管長ジェームズ・E・ファウスト
- 8 違いを生み出すのはあなた——一人の力 リーグモル・ハイスタの模範
ジャン・U・ピンボロー, マービン・K・ガードナー
- 16 子孫の心に約束を植え付ける ブルース・C・ヘーフェン
- 25 家庭訪問メッセージ——イエス・キリストに対する信仰
- 26 生ける預言者の言葉
- 28 赦す心^{ゆる} ロデリック・J・リントン
- 36 写真で見るブリガム・ヤングの生涯
- 44 ナアマンのバプテスマと清め トラビス・A・アンダーソン
- 48 初等協会——大きな喜び フローレット・ラナイブジョン

青少年

- 7 夕焼けから学んだこと サラ・バートン
- 14 二人でささげた祈り シャーン・オーウェン・ベッシー
- 34 どうして教会に行きたくなかったか

こどものページ

- 2 たんけん——わたしたちの預言者^{よげんしや}がバプテスマ^うを受けた場所^{ばしょ}
ウィリアム・ハートレー, レベッカ・トッド
- 4 ばらのように花さく^{はな} デニス・ページ
- 8 分かち合い^{わかちあひ}の時間^{じかん}——しゅをしんらいしなさい シドニー・レイノルズ
- 10 おもちゃばこ
- 11 開拓者のししゅう^{かいたくしや} ジュリー・ウォーデル
- 14 友だちになろう——アメリカのアラスカ州^{しゅう}
ビッグレークに住む^すアーネスティン・
ドナルドソン レベッカ・トッド



36ページ参照



16ページ参照



48ページ参照

本誌は、末日聖徒イエス・キリスト教会の日本語版公式刊行物です。

大管長会: ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン、ジェームズ・E・ファウスト
十二使徒定員会: ボイド・K・バッカー、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイリング
編集長: ジャック・H・ゴーズリンド
顧問: ジェイ・E・ジェンセン、ジョン・M・マドセン

教科課程管理部責任者

実務部長: ロナルド・L・ナイトン
企画・編集ディレクター: プライアン・K・ケリー
グラフィックスディレクター: アラン・R・ロイボーク

国際機関誌スタッフ

編集主幹: マービン・K・ガードナー
編集主幹補佐: R・バル・ジョンソン
編集副主幹: デビッド・ミッチェル、ディーン・ウォーカー
編集補佐: ジェニファー・グリーン・ウッド
工程管理: メアリーアン・マーティンデール
出版補佐: ベス・デーリー

デザインスタッフ

機関誌グラフィックスディレクター: M・M・カワサキ
アートディレクター: スコット・バン・カンペン
デザイナー: シェリー・クック
制作主幹: ジェーン・アン・ピーターズ
制作: レジナルド・J・クリステンセン、デニス・カービー、マシュー・H・マックスウェル
予約購読スタッフ
ディレクター: ケイ・W・ブリッグズ
配送部長: クリス・クリステンセン
マーケティング部長: ジョイス・ハンセン

●定期購読は、「『聖徒の道』 予約申し込み用紙」でお申し込みになるか、または現金書留か郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●『聖徒の道』のお申し込み・配送についてのお問い合わせ…〒113-0057 東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター ☎03-5668-3391
発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106-0047 東京都港区南麻布5-10-30
電話 03-3440-2351

印刷所

株式会社 リック
定価 年間予約/海外予約2,400円(送料共)
半年予約1,200円(送料共)
普通号/大会号200円

英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月
原題—International Magazines June, 1998.
Japanese, 98986 300

June 1998 no. 6. SEITO NO MICHI (ISSN 0385-7670) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150. U.S.A. subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$14.00. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; changes cannot be made unless both old and new address are included. Send U.S.A. and Canadian subscriptions and queries to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone.

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.



靈感を受けた預言者

長い間、わたしは数々の質問に対する答えを探していました。そして、ついに1996年9月号の『リアホナ』(ポルトガル語版)に掲載された、ゴードン・B・ヒンクレー大管長のメッセージ、「真理を守り」の中に必要な答えを見つけました。天の御父が、靈感豊かな預言者を与えてくださったことに感謝しています。わたしは、理性と信仰によって、末日聖徒イエス・キリスト教会が真実であることを知っています。ブラジル・モギミンステーク、コスモポリスワード
グレイシー・クリスチーネ・デ・アシス

福音の種まき

わたしは末日聖徒イエス・キリスト教会の新会員です。読書も好きで、『リアホナ』(スペイン語版)を初めて読んだときからずっと、熱心に購読しています。特に、大会特集号はわたしにとって、御霊を受ける源となっており、教会の召しやほかの務めを果たすときに、御霊を与えてくれます。

息子とわたしは、教会員でない友達に教会の機関誌を紹介しています。数人の友人が興味を持ち、「自宅で読みたいので貸してもらえないか」と言ってくれました。この小さな福音の種が根を張り、やがては生い茂るように、天の御父が助けてくださるよう祈っています。

アルゼンチン・チビルコイ地方部、
ブラガード支部
アナ・エスター・バラブエ

待つことへの報い

『バルケウス』(フィンランド語版。「光」の意)が届くまで、2週間余分に待ったかきがあって、その機関誌に掲載される絵や喜びに満ちあふれた人々の写真を見て感激しました。わたしは書かれた記事を読んで、それが読まれる世界中の地域に思いをはせ、たぐいまれなこの機関誌について聖霊が証されるのを感じ、喜びをかみしめました。フィンランド・タンペレステーク、
トゥルク第1ワード
ヨルマ・カリオ

**神はわたしたちに
心に向けておられる**

宣教師から福音を学ぶうちに、『モルモン書』は人類に与えられた啓示であることが分かりました。『モルモン書』は、地上に天国を築くためにしなくてはならないことを教えています。『モルモン書』は、神がわたしたちに心に向けておられるもう一つの証拠です。わたしは教会員として、そう確信しています。神の教会は永遠の幸福をもたらします。
マダガスカル・アンタナナリボ地方部、
アンタナナリボ第2支部
ナディア・スゼット・ラメリアソア

真理を学ぶ方法

わたしは『リアホナ』(英語版)を読むとき、世界中から寄せられた様々な記事に、喜びを感じます。これらの記事を読むと、主の御霊があたかもわたしに働きかけるようです。真理を学ぶ手段として、『リアホナ』があることに感謝しています。
フィリピン・アバリ地方部、
ラルロー支部
ルイ・A・アルカンヘル



第二の誕生

第二副管長

ジェームズ・E・ファウスト



わ たしたちは第二の誕生を遂げると、すなわち再度目覚めを経験すると、崇高な善なるものを永遠に求めるようになります。多くの人がニコデモのように、この第二の誕生はどうすれば得られるのかと尋ねます（ヨハネ3：4参照）。その答えは今も同じです。「だれでも、水と霊とから生れなければ、神の国にはいることはできない。」（ヨハネ3：5）

好奇心の強いトマスは、意味の深い質問をしています。「主よ、……どうしてその道がわかるでしょう。」それに対する不朽の答えはこうでした。「わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない。」（ヨハネ14：5-6）

霊的に神から生まれることの意味は、次のアルマの問いかけに肯定的に答えが出せるということです。「あなたがたは心の中に、この大きな変化を経験したか。」（アルマ5：14）再び生まれるとは、揺るぎない信仰を持ち、容易には道をそれないことです。

多くの教会員は、自分のもとに来た^{さかす}苦い杯を飲むとき、その杯はほかの人から渡されたものだという誤った考えを持ちます。ナザレのイエスは、西大陸の民に語りかけられた最初の言葉の中で、御父から与えられた苦い杯について強く心に訴える話をしておられます（3ニーファイ11：11参照）。どのよう

現在の救い主のメッセージは、かつて井戸端や麦畑、ガリラヤの海辺で語られたものと同じです。天の王国は天にあると同じように地上にもできるというメッセージであり、また主の業を自身に引き受ける人々は2度生まれ、心と霊が更新されるというメッセージです。

な人にでも、飲むのが難しい苦いものが何かあります。道にそれた子供を持つ両親は、言葉にならない悲しみを知るようになります。残忍な夫、あるいは思いやりのない夫を持つ女性は、毎日、心痛を味わいます。結婚相手のいない教会員は、悲しみと失望を味わうかもしれません。しかしながら、苦い杯を飲んで、現状を受け入れ、さらに高く、また遠くに手を差し伸べなければならないときがあるものです。ハロルド・B・リー大管長はかつてこう言いました。「自己憐憫や自暴自棄で、正しいと分かっている道から外れることはやめましょう。」救い主は進むべき方向を定められました。わたしたちは霊と心において再び生まれなければなりません。

何年前にも、ポニー・マッキーン・ジーオク夫人が、国内車いす装飾コンテストで優勝しました。ソルトレーク在住のこの母親は、多発性硬化症を患っており、車いすに乗りながら夫と5人のかわいい娘の世話をしなければならませんでした。彼女は、自分を見る子供たちが自分について障害以外のことを何か話題にできるよう、車いすをラゲディー・アン（合衆国で人気のある人形）のように飾りました。そして、同じような障害を持つ友人と「わたしたち、車いすを持っていてラッキーじゃない？」と語り合ったそうです。ある断食日にそのことをみんなに話してくれました。

『ニューヨークタイムズ』(New York Times)紙の政治解説者のジェームズ・リストン氏はこう述べています。「G・K・チェスタートン氏は、非凡な生涯を閉じるに当たって自伝を残しました。彼はその中で、自分が学んだ最も大切な教訓は、『物事は当然のことと思わずに、感謝して受け入れることである』と述べました。」リストン氏はまた、長年のつらい経験から物事をいかに悲観的に見るようになっていても、それは問題ではないと言っています。そして、「実に、そのようなときに、いや、そのようなときだからこそ、あなたは個人的な友情と心からの愛、すなわち、あなた個人の生活における率直で正直な交流を放棄することもできますし、またそれに心を向けることもできます」と述べています。シェークスピアの『ハムレット』の中で、ポローニアスは息子にこのような助言を与えています。「こいつはと思った友だちは、鎖で縛りつけても離すな。」(第1幕第3場、福田恆存訳、新潮文庫、31)

トマスが問うたように、どのようにすればその道が分かるのでしょうか(ヨハネ14:5参照)。信頼の置けるあ

る友人がこう述べています。「自分のことばかりを考えること、つまり自分の心にしがみつ়くことには危険が伴うと心に留める必要があります。自分の心に固くしがみつ়いて離れないでいると、人生で得られる喜びを遠ざけてしまうこととなります。」自分自身の望みや必要を過度に考えすぎることには、大きな危険が伴います。新たに生まれる機会が失われてしまうのです。再び霊的に生まれるという事実には、議論の余地はありません。使徒パウロはローマ人に言いました。「肉の思いは死であるが、霊の思いは、いのちと平安とである。」(ローマ8:6)

この人生は受身の人生ではありません。神の言葉は絶えずわたしたちに活気と行動と力のイメージを与えてくれます。神の慈悲深い導きの下でわたしたちは人生の方向を定め、人生をコントロールしていくことができます。「陶器を造る者は、同じ土くれから、一つを尊い器に、他を卑しい器に造りあげる権能がないのであろうか」とパウロはローマ人に問いかけました(ローマ9:21)。十二使徒会補助のトマス・E・マッケイ長老は、兄デビッド・O・マッケイについてこのように述べました。「わたしたちは、子供のころ、ハンツビル近くの冷たい川で泳ぎました。冷たい水に最初に入るのはいつもデビッドで、彼は川岸にすくんで立っているわたしたち残りの者にこう叫んだものです。『入っておいでよ。水は大丈夫だよ。』冷たいと分かっている水の中に飛び込まなければならない時が、必ず来るのです。

例えば、女性が、人生は結婚からのみ始まると考えることは間違いです。女性は、独身であろうと結婚しようとして、個性があり、人の役に立ち、自分は大切に必要存在であるという気持ちを抱かなければなりません。また、自分には何か人に与えるものがあるという思いを持たなければなりません。シェークスピアは『ヴェニスの商人』の中で、ポーシャを通じてこう述べています。「わが身ひとりのためにございましたら、これ以上の自分をと、そんなに欲ばりはいたしません。でも、あなたのための私なら、今の二十倍も……よくありたい……。」(第3幕第2場、福田恆存訳、新潮文庫、80)

神聖な贖い主はそのメッセージの中で、すべての人に希望を、また両親や、時折心の貧しさを感じる人、虐げられている人、愛されていないと感じている人に大きな力を与えておられます。それは新たな誕生に伴う無上の希望であり、御霊により生まれる人々には、大きな自由を与えてくれます。彼らは「思いのままに吹く」風によ



写真/クレグ・ダイヤモンド

神聖な贖い主はそのメッセージの中で、すべての人に希望を、また両親や、時々心の貧しさを感じる人に大きな力を与えておられます。

うであるかもしれません。だれも、「それがどこからきて、どこへ行くかは知らない」のです（ヨハネ3：8）。このように、人々は2度生まれるときに、自己憐憫や疑念、失望、孤独といった束縛のかせから解放され、気高く崇高な道に上げられるのです。主を待ち望む人は新たな力を得、わしのように翼を張って上ることができます。彼らは走っても疲れることなく、歩いても弱ることはないのです（イザヤ40：31参照）。

現在の救い主のメッセージは、かつて井戸端や麦畑、ガリラヤの海辺で語られたものと同じです。天の王国は天にあると同じように地上にもできるというメッセージであり、また主の業を自身に引き受ける人々は2度生まれ、心と霊が更新されるというメッセージです。主が与えてくださる水を飲む人々は、「いつまでも、かわくことがないばかりか」、この水は、その人の中で「泉とな

り、永遠の命に至る水が、わきあがる」のです（ヨハネ4：14）。

ほかの人々の重荷を自分の身に負う人々は、言葉に尽くせない喜びを見いだすでしょう。この無上の幸せは、すべての人、すなわち最も卑しい、人に見放された人でさえも得ることができます。それは万人の手の届く範囲にあります。わたしたちは主の子供たちを通して創造主に至るのです。のどの渇いている人に1杯の水を与える人は、それを救い主に差し上げているのです。そして、その水を受ける人は、救い主を遣わされた永遠の御父を受けるのです。

ほかの人々へのこの働きかけは、わたしたちの民にのみ限ってはなりません。わたしは、若い宣教師のときに黄疸にかかったのを思い出します。それは「宣教師の病氣」として知られていました。病状は重く、死にたくないと恐れたほどです。ところが、わたしたちの教会の会員ではない一人の善良な女性が看病してくださり、わたしは健康を取り戻しました。文字どおり彼女によって命を救われたと思いました。わたしに対するそのすばらし



正しい精神で行うならば、ほかの人への金銭で得られない奉仕以上に気高い礼拝はありません。

い奉仕は、金銭では得られないものでした。彼女は何のお礼も受け取らなかったのです。わたしが彼女のいる場所に行くのがふさわしければ、次の世界で、彼女にお会いしたいものです。

正しい精神で行うならば、ほかの人への金銭で得られない奉仕以上に気高い礼拝はありません。それは、信仰や信念、社会的階級にかかわりのないものです。世の救い主は簡潔にこう言われました。「わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである。」(マタイ25:40)

恐らく、笑顔や思いやりのある言葉を投げかけることなどは、わたしたちが人に贈るものの一つとして、簡単で努力を要さないものでしょう。世話をする人からの、簡単ではあるもののとても大切な語りかけが、孤独な人を鼓舞し、悩みを抱いている人を立ち上がらせるでし

う。わたしたち全員が第二の誕生にあずかり、わたしたちのできるすべての善行の一つ一つに再び目覚めるよう、わたしは心からお祈りしています。□

ホームティーチャーへの提案

1. 第二の誕生を遂げた人、すなわち再度目覚めを経験した人は、崇高な善なるものを永遠に求めるようになります。
2. 再び生まれるとは、揺るぎない信仰を持ち、容易には道をそれないことです。
3. 御霊により生まれる人々に対しては大きな自由があります。自己憐憫や疑念、失望、孤独といった束縛のかせからの自由、キリストのような生活の気高く崇高な道に上げられる自由です。
4. 救い主の業を自身に引き受ける人々は2度生まれ、心と霊が更新されます。

夕焼けから学んだこと

サラ・バートン

日も暮れかかったころ、母とわたしは祖父母の家へと車を走らせていました。わたしは考え事をしながら、窓の外を眺めていました。

「きれいな夕焼けね」と母が言いました。

「そうねえ」と相づちを打ちながらも、わたしはそのとき初めてすばらしい夕焼けに気がついたのです。

「デイビーが何て言っているか、知っている？」母が尋ねました。急に興味がわいてきて、振り返って母の方に目を向けました。母の親友だったエロイズは癌がんと闘いましたが、2年前に4人の子供を残して亡くなりました。その末の子供が、7歳のデイビーでした。

「夕日を見るとお母さんを思い出す、って言っていたわ。」母は涙をこらえながら言いました。「まるで、お母さんが自分にほほえんでいるみたいなんですって。」

わたしは夕暮れの空に目を移しました。デイビーの言葉のおかげで、新しい観点から夕焼けを見られるようになりました。夕焼けは、空に描かれる赤や黄色の複雑で美しい模様以上のもの、つまり、エロイズや亡くなったそのほかの人々、そして残された人々への彼らの愛を思い出させてくれるものなのです。

その後は言葉を交わすこともなく、わたしは辺りが夕闇ゆふぐみから夜に変わっていくのを車の窓から見ていました。そうしているうちに、突然、以前にも増して木々や星、月、そして雲の美しさをこれまでになく感じられました。わたしは、天父が日々与えてくださるこれらの美しい贈り物に感謝しています。そしてまた、何げない夕焼けの景色に天父の愛を感じることもできる、幼いながらも賢明な少年に感謝しています。□

一人の力

リーグモル・ ハイスターの 模範

ジャン・U・ピンボロー、マービン・K・ガードナー

「このようにして、主は小さな手段によって大いなることを成し遂げられることが分かるのである。」(1 ニーフアイ 16:29)

時々、わたしたちは周囲で起きる様々な問題を宿命論的な考え方でとらえることがあります。「物事とはそういうものなんだ」などと論じるのです。「一体どうすればそれを変えられるのだろう。」しかし主は、わたしたち各々の小さな領域の中で、わたしたちの中の最も小さい者を通じてさえ、大いなることを成し遂げることがおできになるのです。ノルウェーに住む78歳のある女性の生涯をのぞいてみましょう。その女性の名はリーグモル・ハイスター。彼女の経験は、一人の人がどれだけ大きな力になり得るかを証明しています。これは、その生涯を主のためにささげた一人の女性の物語です。

あらし 「嵐のとき」

この物語の始まりは、リーグモル・ハイスターがすでに43歳になっていたときのことで、時は1963年、いろいろな面で、リーグモルは日々の生活に満足していました。著名な外科医と結婚し、3人のいとしい子供たちにも恵まれていました。また、大部分のノルウェー人と同様、ノルウェーの国教会であるルーテル教会に所属していました。さらに、二つの聖書研究グループにも参加していました。

しかし、すべてがうまくいっているわけではありませんでした。家族は健康上の問題で悩まされ、結婚生活にもほころびが生じていたのです。

ジョン・スツールハイム長老とジョン・マーシャル長

老が彼女の家を訪ねたとき、リーグモルはすぐに何かを感じました。二人の長老のメッセージが心に響いたので、そのときから、その教えは真実であると感じ始めました。宣教師たちとの話し合いを通じて、ずっと抱いていた幾つかの疑問にも答えが与えられました。そして、新しい疑問もわいてきました。彼女は自分の疑問を、参加していた聖書研究グループに投げかけてみました。ところが、リーグモルの新しい疑問を快く思わなかった一つのグループの指導者たちが、グループの集会にもう来ないように、彼女に要請したのです。ほかの友人たちは、もう宣教師に会わない方がいいとしきりに言います。夫も彼女の改宗には反対です。こうしたプレッシャーは大変重くのしかかり、とうとうリーグモルは宣教師たちにもう訪問しないでほしいと告げました。一人ひそかに、宣教師たちから学んだ真理を忘れないようにしようと決意していたのです。

数か月の間、リーグモルは、友人たちが言うようにもしこの末日聖徒の教会がほんとうに悪魔の教会であるとしたら、この教会のことを忘れられるようにと祈りました。しかし、祈れば祈るほど、教会のことが忘れられなくなってしまったのです。やがてある日、彼女は自分の所属している教会のある集会に出かけて行きました。その

リーグモルの出版した比較宗教学に関する本を読むリーグモル・ハイスター(右)とアストリー・マンズルー。リーグモルは、ノルウェーでこの教会について理解を深めてもらう数多くの活動を行ってきたが、この本の出版もその一つである。





左—ハイスタ姉妹の著書『我らの信仰』(This We Believe)
 上—彼女は著名な末日聖徒とノルウェーの人々との友好の促進に大きな貢献をした。この写真は、十二使徒定員会のダリン・H・オクス長老とジューン夫人がオスロ大学哲学教授のガトールム・フロイスターとキーシュタン夫人を訪ねたところである。

右上—フロイスター教授

(左) とブリガム・ヤング大学のトルーマン・マドセン教授を訪ねたリーグモル。

右—広報活動についてスタイン・ペダーシャン長老と協力する。

右下—オスバル・ビャレング。

下—1995年、末日聖徒の青少年たちに語りかけるノルウェーの教育・研究・宗務大臣ガードマン・ヘルネス氏。



集会では、以前タバナクル合唱団のレコードで聞いた覚えのある賛美歌が2曲演奏されていました。牧師が立ち上がり、会衆に向かって「神の言^{ことば}をあなたがたに語った……者たちのことを、いつも思い起しなさい」（ヘブル13：7）と説いたとき、リーグモルは、自分に神の言葉を語ってくれたのはあの宣教師たちだった、と心から思いました。こうして、彼女は、その代価がいかなるものであろうとも、自分が見つけ出した新しい信仰に従って生きる決心をしたのです。

リーグモルの夫は、ノルウェーの高名な神学者であるアイナー・モーランが著した書物の中にある、末日聖徒の教会に関する不正確かつ否定的な記述に感化されました。そのため、最初はリーグモルのバプテスマに反対し、最終的には、しぶしぶ許可を出したのです。リーグモルがバプテスマを受けたのは、1964年のことです。そしてその3年後に、二人は離婚しました。

こうして、リーグモルは様々な厳しい環境に身を置くことになりました。住み慣れた家を去り、小さなアパートに引っ越しました。経済的にも自活する必要に迫られ、職を探さなければなりません。職に就くなどということは、最初の子供が生まれたときからこのかた、ずっと遠ざかっていたことでした。しかし、預言者ジョセフ・スミスが記したように、ごく小さな船^{かいかい}であっても、しっかり機能していれば、「嵐のときに」非常に大きな船を安全に導くことができます。そして、もしわたしたちが「わたしたちの力のかぎりすべてのことを喜んで行おう」とするならば、最終的には、主の強大な救いの力がわたしたちの生活に現されることを、「この上ない確信をもって」待ち望むことができるのです（教義と聖約123：16-17参照）。

力のかぎりすべてのことを行う

英知と精力と決意を込めて、リーグモルは力のかぎりすべてのことを行いました。しばらくの間は店員として働き、それから、高校で臨時教師として職に就きました。1940年にはノルウェーをナチスが占領したために、彼女の大学での勉強も中断していました。そこで、リーグモルは再び大学に入学し直し、正規の教師になるための訓練を受けることにしたのです。そして、ここを舞台として、彼女の生涯にわたる、教会の親善大使としてのすばらしい伝道活動が開始されたのです。

1967年のある日、倫理学のクラスでの出来事でした。若き神学教授であったインガ・レンニング（後年、オスロ大学の学長や『ノルウェー神学ジャーナル』〔*Norwegian Theological Journal*〕の編集員を務めた）が、ノルウェーの国民は宗教面では、選択する自由を完全に享受していると述べたときのことです。リーグモルはすぐに

発言を求めました。そして、「それは国教会の信者にしか当てはまりません」と言ったのです。「ほかの宗教を信じてみてください。」

その後、クラスの休憩時間に、リーグモルはレンニング教授に、アイナー・モーランの書いた本の中に教会について誤った情報が記載されていたために、前の夫は誤った先入観を持ってしまったことを説明しました。レンニング教授がアイナー・モーランとはよく昼食を一緒に取ると言ったところ、リーグモルはぜひモーランと面会できるよう取り計らってほしい、と申し入れました。

こうして、改宗してからまだ数年しかたっていないリーグモル・ハイスタが、ノルウェーのトップクラスの神学者のオフィスを訪れることになりました。部屋に入ると、教授の方からあいさつをしてくれました。「ハイスタさん、おはようございます。カトリック教会やメソジスト教会、バプテスト教会に改宗する人がいるというのは理解できますが、モルモン教会に改宗する人がいるというのは、どういうものでしょうか。」

その問いに、いかにも彼女らしい、敵意のない、ユーモアにあふれた率直さで、リーグモルはこう答えました。「もしわたしがこの教会について教授より深く学んでいなかったら、改宗までは行き着かなかったでしょうね。」そして、こう尋ねました。「教授の本に書かれているこんな無意味な情報は、どこから手に入れられたんですか。」モーラン教授が大学図書館にある文献から入手したことを説明すると、リーグモルは、正確な情報なら伝道部長から簡単に入手できることを説明しました。伝道本部は、教授のオフィスから100メートルほどの所にあったのです。そして彼女は、その誤った情報のために自分の家庭がいかに大きな痛手を被ったかを説明しました。

モーラン教授はその話^{ことば}に心を痛め、次の改訂のときには、この教会に関する記述を訂正すると約束してくれました。1977年、モーラン教授は、約束どおり、改訂版を出すに当たって、末日聖徒イエス・キリスト教会の部分の校閲を、ジョン・ラングランド伝道部長やハイスタ姉妹、そのほか数人に依頼しました。改訂版は1978年に出版されました。あの重要な面会の時間を思い起こして、ハイスタ姉妹はこう言っています。「あのときほど御霊^{みたま}に強く動かされたことはありませんでした。モーラン教授のオフィスを出るときには、わたしたちは一番の友達になっていました。」

友情と理解の輪

リーグモルは教員養成の大学を卒業し、高校で正規の教師として教え始めました。さらに、特殊教育に関する3年のコースを修了し、失読症の人々を教える専門家になりました。1980年には、8年生と9年生（訳注——それ

ぞれ日本の中学2年生と3年生に相当する)のために社会学のコースを設置する責任を託されました。また、ブリガム・ヤング大学を訪ね、発達心理学に関する研究調査を行い、その学習指導要領の作成にも携わりました。さらに、1988年、68歳になったリーグモルは、キリスト教に関する研究で、ノルウェーの国立神学校から学位を受けました。この神学校は、ルーテル教会の大半の聖職者たちが教育を受ける機関です。

末日聖徒の教会についての教育は、ノルウェーでは特に必要なものです。ノルウェーでは長年にわたって、公式の国教会だけが法的に唯一認可された教会でした。1845年には、いわゆる非国教会法案の成立によって、わずかな数のキリスト教会が「非国教会」派の教会として認可されました。しかしながら、末日聖徒の教会は、中心となる幾つかの教義を理由に、1960年代までは認可される資格がないと判断されていました。そして、1988年になって初めて、教会は法的に登録されることになったのです。ハイスタ姉妹はこう言っています。「今では、教会の存在は認めてもらえるようになりましたが、まだまだ、末日聖徒はクリスチャンではないと考えている人が大勢います。」

そこで、神学校で彼女を教えた教師の一人である哲学のガートルム・フロイスター教授が、学生たちに何か良い研究のテーマはないかと尋ねたときに、リーグモルは、これは教会について勉強してもらうまたとない機会だと考えたのです。リーグモルは、クラスでモルモンの教えの哲学的な基盤について研究したらどうかと提案してみました。教授はその提案に賛成し、末日聖徒の学者で、当時ブリガム・ヤング大学エルサレムセンターのディレクターをしていたトルーマン・マドセンが招請を受けて、オスロ大学で講義を受け持つことになったのです。マドセン博士が1986年にノルウェーを訪れたのがきっかけとなって、ノルウェーとブリガム・ヤング大学の教授間で、定期的な交換プログラムが導入されることになりました。この交換プログラムでノルウェーの学者として初めてユタを訪れたのが、ガートルム・フロイスターです。その後、リーグモルのためにモーラン教授との面談を設定してくれたインガ・レンニング(現オスロ大学学長)が2人目となりました。オスロ大学からブリガム・ヤング大学を訪問した3人目の教授は、ノーベル賞選考委員会の議長であるフランシス・サイエルステッドです。4人目は、ノルウェーの教育・研究・宗務大臣であったグードマン・ヘルネスでした。

こうして始まった友情の輪は、絶えず広がっています。あるとき、ノルウェー聖書協会の冊子の中で、児童生徒の必見の視聴覚教材として、この教会を^{ひょう}誹謗するある映画が推薦されていることを知ったリーグモルは、すぐに

協会の事務局長に電話をかけました。そして、ぜひその映画について再検討し、また、この映画の内容の間違いを指摘した教会員たちの書いた本を読んでほしいと要請したのです。この人物は、以前トルーマン・マドセンに会ったことがあり、その献身的な人柄が強く印象に残っていたために、リーグモルの要請に喜んで応じてくれることになりました。その数か月後、彼は協会のカタログからその映画を削除し、さらに、ノルウェーのすべての学校からその映画を排除するために大きな助けとなったのです。

仕事の面でも、リーグモルは比較宗教学のクラスを通じて、数多くの若人に、この教会について紹介してきています。ある学生たちに、この教会について報告する課題が割り振られると、彼女は決まって自宅に招待し、ジャム付きワッフルをふるまっただけで教会のことを教えました。さらに、8年にわたって、数千人の教師が参加する教育課程研究会が開かれる度に、教会に関する展示を行ってきました。

恐らく、リーグモルの最大の貢献の一つは、1994年に出版された『我らの信仰』(This We Believe)と題する比較宗教学に関する本を編さん・校正したことでしょう。リーグモルは、37の教派の代表で構成される委員会の長を務め、各宗教グループの代表たちに、その本のためにそれぞれの教派について1章ずつ書くよう要請したのです。ハイスタ姉妹はこう言っています。「それぞれの教派の代表たちは、自分たちの信じていることについて書く絶好の機会が与えられたと、とても感謝していました。わたしと同様に、彼らも、それぞれの教会について誤った情報が流されていることに、心を痛めていたからです。」

さらにリーグモルは、1994年に開催されたノルウェーの学校における宗教教育に関するセミナーに、少数教派の代表として出席しました。そのセミナーにおいて彼女は、教室で異なった宗教について教える際には正確な情報のみを利用することが大切である、と訴えました。この話題は今なお大きな関心の的になっています。それは、1997年に、ノルウェーの学校で、ほかの宗教について学ぶことが義務づけられる法律が制定されたからです。

「ここにもわたしにできることがある。」

ハイスタ姉妹の強い自信は、確信から生まれたものです。「福音は地上で最も優れたメッセージです。どんな人でも、わたしと会ったら、5分とたたないうちに、わたしがどういう人物であるかが分かります」と姉妹は言っています。

でも、リーグモルは、喜んで話をしたいという自分の気持ちだが、特に勇敢なこととは考えていません。彼女の話聞いてみましょう。「別に勇気なんて要らないんで



現在78歳になったリーグモル・ハイスは、主の業がノルウェーで成就されるよう、力を尽くしてすべてのことを行っている。

妹にぜひ会いたいと申し出てきました。その結果、彼女は数時間にわたってリーベル・モーン長官に教会について説明することになったのです。ハイス姉妹はこう語っています。「主はわたしについて二つのことを御存じなのだと思います。まず、主は、わたしが人を恐れなことを御存じです。怖がる必要なんてほんとうにないですから。……そして、もう一つは」とほほえみながら、こう付け加えました。「主は、わたしが話せることも御存じなんです。」

リーグモルは自分の生涯を振り返ってこう語っています。「子供たちも結婚し、それぞれに子供もいます。〔娘の一人と数人の孫が最終的には教会に加入しました。〕わたしは今、自分の時間を思いどおりに使えます。それを、教会のために使っているだけです。別に自慢するわけではありません。これまでどれほどすばらしい経験をさせてもらったか、考えてみてください。一人で過ごすのはとても大変です、だから、孤独を感じれば感じるほど、チャレンジを引き受けるようにしているんです。」

こう言って、彼女は居間にかかっている1枚の絵を指さします。それは、キリストがいばらの冠をかぶってられる絵です。「わたしは、自己憐憫を家庭に持ち込まないようにしているんです。そういう気持ちを感じ始めたら、このキリストの絵をじっと見ることにしています。そして、絵に向かってこう言うんです。『ごめんなさい。わたしがあなたのために傷つく以上に、あなたはわたしのために傷ついてくださったのですね。』」

現在78歳になったリーグモル・ハイスは、主の業がノルウェーで成就されるよう、力を尽くしてすべてのことを、元気に着実にを行っています。□

す。ただ、『ああ、ここにもわたしにできることがあるわ』と考えるだけなんです。」例えば、ある日、彼女は新聞を読んでいて、ある興味深い記事が目にとまりました。それは、ノルウェーのゲオルグ・フレデリック・リーベル・モーン司法長官が、ノルウェーの家族生活の現状と文化の衰退を嘆いているという記事でした。長官はその記事の中で、物への関心が高まりすぎると国家を滅ぼすことになるかと警告し、国教会に対して、権威をもって正しい価値観を教えるよう求めたのです。

ハイス姉妹は、司法長官も、彼が懸念しているようなことにすでに対応している教会が存在し、その教会の名称は、末日聖徒イエス・キリスト教会であることを知る必要があると考えました。そこで、彼女は司法長官にあてて1通の手紙を書いたのです。

1週間後、司法長官が自ら電話をよこし、ハイス姉

おねがい

リーグモル・ハイスのように、世界中に、それぞれの地域社会で、違いを生み出す働きをしている教会員が大勢います。それが限られた地域での場合も、国全体に影響を及ぼす場合も、あるいはまた、国際的な影響があったりする場合もあるでしょう。そういう人たちの経験を読者の皆さんに紹介したいと考えています。もし、ほかの人々の人生に影響を与えたような人物（年齢を問いません）を御存じでしたら、本誌あてにお知らせください。手紙や記事のあて先は、You Can Make a Difference, International Magazines, 50 East North Temple Street, Floor 25, Salt Lake City, Utah, USA 84150-3223 です。できれば、その人の写真を少なくとも1枚は同封してください。

二人で ささげた祈り

シャーン・オーウェン・ベッシー

高校3年の地理の見学旅行で、クラスメートたちと一緒にウェルシュ山脈にあるタナリンロ

ッジに泊したときのことで。わたしは、友達のルイズと同じ部屋になれたので喜んでいました。

寝支度を整えるまでには少し時間がかかりました。部屋の中の一つしかない小さな洗面台と、それよりもっと小さな鏡を交替で使い、明日のための洋服を、ハイキングブーツや厚手の靴下とともに準備しなくてはなりません。ルイズは、わたしより早く準備を終え、ベッドにもぐり込みました。

すべきことを全部終え、後は祈るだけになったとき、わたしはベッドの横でためらいました。ルイズは教会員ではなく、わたしが毎晩お祈りをするなど思ってもいなかったからです。

とっさに思いついたのは、ルイズのようにベッドにもぐり込み、寝たふりをしながら心の中で祈ることでした。でもそうすると、二つの問題が予想されました。一つ目は、ルイズが話しかけてくると分かっていたので、邪魔をされずにはお祈りを終えられないだろうということ、二つ目は、明日の厳しい日程が少し不安だったので、ひざまずいて熱心に祈り、慰めを得る必要があることでした。

どうしたらいいか決められずに迷った末、わたしはルイズの方を向いて「これからお祈りするわ」と言いました。彼女は少し驚いた様子でしたが、わたしは、何かを言われる前にベッドの端にひざまずき、頭を垂れ、目を閉じ、心の中で個人的な祈りをささげました。立ち上がったときルイズは、まだわたしを見詰めたままでした。

わたしもベッドにもぐり込んだものの、少し気詰まりな沈黙があり、必死に何かを言おうと言葉を探しているとルイズの方から「シャーン、毎晩そうやって祈るの?」と聞いてきました。

「ええ」

少し間を置いた後、こう尋ねられました。「祈りではどんなことを話すの。」

わたしはびっくりしました。祈り方を知らない人がまさかいるなんて、思いも寄らなかったのです。わたしはルイズに、こう説明しました。「まず、天のお父様と呼びかけ、受けた祝福に感謝し、次に助けを求め、イエス・キリストの御名によって祈りを終えるのよ。」

また、しばらくの沈黙が続き、その間、わたしの胸の鼓動が早くなっていくのを感じました。勇気が残っているうちに、思い切ってルイズに聞いてみました。「一緒に祈ってみる?」

「いいわよ」と、彼女は好奇心いっぱいの声で答え、



「どうすればいい？」

と、聞いてきました。

わたしたちは一緒にベッドの横にひざまずき、わたしが声に出して祈りました。祈り終わった後、どう感じたか聞いてみました。

彼女は恥ずかしそうにほほえみ、こう言いました。「祈りを聞いていて、考えさせられたわ。」

その後、ベッドに横になってから、ルイーズがどのように感じていたかは分かりません。でもわたしは、感謝の念に満たされていました。暗い部屋の中に横たわりながら、天父がいらっしゃって、わたしたちを愛し、祈りを聞いてくださっているという、御霊による確信を得ました。ルイーズもそう感じてくれたことを願っています。□

子孫の心に 約束を 植え付ける

七十人

ブルース・C・ヘーフェン

数年前に、我が家の10代の息子が遠方へ旅行をすることになりました。あまりにも距離が離れていたため、お互い十分に言葉を交わせませんでした。そこで、「アルマ書第37章35節から37節を読むように」という簡単なメッセージを書いて息子に送りました。アルマはここで次のように述べています。「わが子よ、忘れずに若いうちに知恵を得なさい。……あなたの必要とするあらゆる助けを神に呼び求めなさい。……まことに、あなたの心の愛情をとこしえに主に向けるようにしなさい。……そうすれば、主はあなたのためになる指示を与えてくださる。」

息子は返事をよこしましたが、同じようにただ一言「教義と聖約第2章2節を読んでください」と書いてありました。ここにはモロナイがジョセフ・スミスに語った言葉が記されています。「主の来臨に先立って、エリヤの手に

より神権が現され、エリヤは『先祖に与えられた約束を子孫の心に植え、子孫の心はその先祖に向かうであろう。』

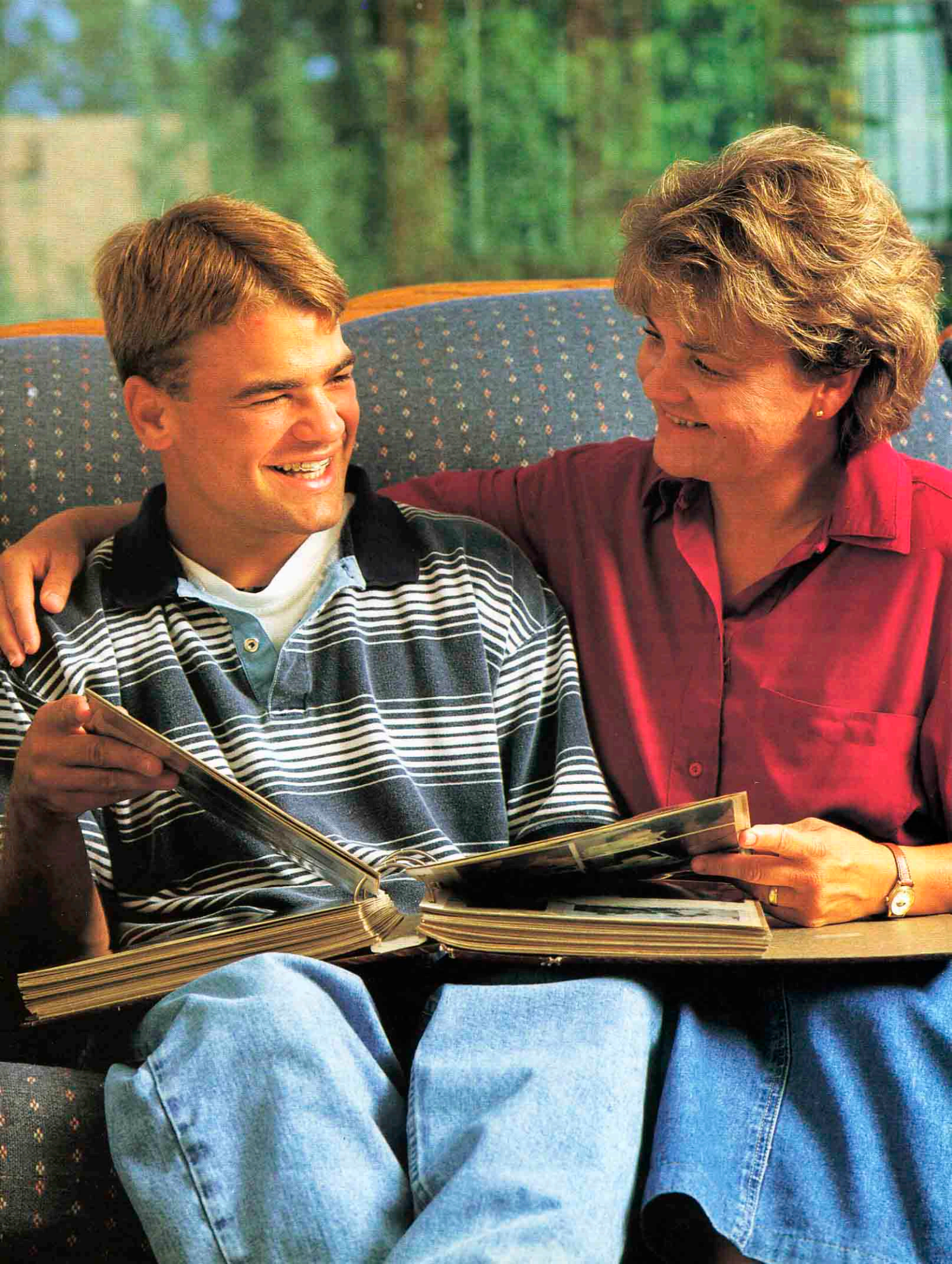
そうでなければ、主の来臨の時に、全地はことごとく荒廃するであろう」とモロナイは約束しています（教義と聖約2：2-3）。

わたしは息子のよこした返事に感動しました。息子はこの聖句の意味をどれほど深いところまで理解しているのだろうかと考えましたが、彼は、十戒の第5の戒めである「あなたの父と母を敬え。これは、あなたの神、主が賜わる地で、あなたが長く生きるためである」という戒めを実践しているようでした（出エジプト20：12）。

ただ単に両親に対して尊敬の気持ちを表すことも大切なことですが、モロナイが示したマラキの預言（マラキ4：5-6参照）はそれをはるかに超えて、第5の戒めの精神と約束にまで解釈を広げています。エリヤの霊、すなわち家



十戒の第5の戒めが持つ精神と約束は単純に父母を敬うことだけにとどまるものではない。この戒めが持つ完全な意味を理解してそれを守るならば、わたしたちは家族に永遠の祝福をもたらすだけでなく、不朽の社会を築くことができる。



族を一つに結び合わせる神権の力は、主がアブラハムに与えられた約束を手にしたと思う気持ちを子孫の心に植え付けるとモロナイは約束しています。末日聖徒の多くの子供たちの両親は、神殿においてこれらの約束を受けているのです。これらの約束が成就されると、家族だけでなく、「全地」が「荒廃」から救われます。

心を向けるという奇跡

これらのすばらしい祝福を心から望み、あこがれる気持ちを子供たちの心に芽生えさせることは並大抵のことではありません。文字どおり奇跡と言っても過言ではありません。教会の多くの両親は子供たちの心にこの望みを植えられるようにと毎晩祈っていると思います。わたしたち夫婦も例外ではありません。

わたしがなぜ息子の返事に感動したのかを説明するには、わたしの父が亡くなって間もなく生まれた先ほどの息子の兄についてお話ししなければなりません。この兄に、わたしたちは祖父の名前をミドルネームとして与えました。彼は古くさいこのミドルネームが気に入らず、幼いころは使おうとしませんでした。けれども高校生になると討論クラブに入って、自分の祖父が1920年代に討論大会で優勝した有名な人物であったことを知ってから、祖父の名前に関心を持ち始めました。ところで、わたしの父は成人してからずっと日記をつけていました。ある日、わたしは父が討論大会で弁舌をふるった様子をつづった日記を息子に見せまし

た。そして、息子が読むだろうと思って、日記を預けておきました。

彼は良い息子でしたが、育てるのは大変でした。わたしたちはそんな息子に対して忍耐できるようにと祈りました。信仰の種が息子の心の中で根を張るように祈りました。もちろん、それを強制できないことは十分に分かっていました。わたしはそうした日々を過ごしている間、暴走する思春期に事故で亡くなったわたしの兄のことが頭にちらつくようになっていました。わたしの両親は彼のためにどれほど祈り、また嘆き悲しんだことでしょうか。しばらくして、ある日の夜、息子は簡単な走り書きをわたしにくれました。「ぼくは、お父さんのお兄さんとおじいさんやおばあさんを苦しめたようなことをして、お父さんとお母さんを苦しめるようなことはしません。」1世代前の、しかもあまり人に話していないことを息子はどのように知ったのだろうかと思いました。わたしは日記のことを思い出しました。けれども、息子にそれ以上尋ねることをしませんでした。

数週間後のある晩遅くに、特別なつらい経験を何とか乗り越えた息子は、わたしたちに事情を説明しに来ました。「お父さん、ぼくはヘーフェンおじいさんに会ったことはないけれど、おじいさんが近くにいると助けてくれるのを感じたよ。」わたしは息子を抱き締め、そしておじいさんについて多くのことを話しました。

息子が宣教師の召しを受けることについてどうするかを決めたのはそれから間もなくしてでした。わたしたちが、

ヘーフェン一族の集まりの開かれたユタ州南部地方を訪れていた時のことです。ある日の午後、息子はだれにも事情を説明せずに、一人で車を運転して、かつて祖父が馬に乗って散策するのが好んだ人気のない小さな峡谷へ行きました。実はその場所は祖父が命を落とした場所でもあります。息子は日記を読んでこの峡谷のことを知っていました。遠くから眺めたことはあったのですが、実際に行ったことはありませんでした。人目につかない場所を選んでひざまずくと、自分の信仰、伝道、人生についての疑問を整理して考えられるように主の助けを求めて祈りました。そして、伝道へ旅立つ歓送会が開かれたとき、彼はその神聖な体験をした日のことについて触れ、祖父が亡くなった峡谷で得た自分の行く道に関する強い確信について話しました。それから数年を経た現在、子供を持つ父親となった彼は、その確信と行くべき道に従って人生を歩んでいます。祖父が感じているに違いない喜びをわたし自身も感じるすることができます。

父が神と交わした約束が、わたしの心に植えられたように、わたしの子供たちの心にも植えられたことを確信しています。そこには幕を隔てて内側と外側にいる世代を一つにつなぐきずながあり、そして帰属意識が生まれます。このきずなはわたしたちに自分が紛れもなく家族の一員であることを感じさせ、そして目的意識を与えてくれます。永遠の世界とのきずなが突然、現実味を帯びてきます。そして人生の目的が明らかにされ、高い理想を目指して歩



古代の預言者であるわたしたちの父祖は幕を隔てて内側と外側にいる世代を一つにつなぐきずながあり、そして帰属意識が生まれることについて書き残した。

む力もたらされます。

父と母に心に向けることによって彼らを敬うならば、わたしたちは「主が賜わる地で……長く命を保ち、さいわいを得ることのできる」民になる、と主は約束しておられます(申命5:16)。この約束はどのような形で実現するのでしょうか。わたしたちは「長く命を保」つだけでなく、心安らかに、また幸せに、そして意義のある生活を過ごすという祝福を受けることができます。個人として「さいわいを得る」だけでなく、わたしたちの社会も平和と自由を享受できます。個人と同様に社会が永続するためには、子孫がその心を先祖に向けて、先祖が蓄積してきた知恵から学ぶかどうかが鍵となります。

家族のきずなの断絶

今日、親戚関係や結婚と呼ばれるこれらの基本的な人間関係は崩壊しつつあります。多くの子供たち、両親、伴侶はその心を相手にではなく、自分の必要とする事柄だけに向けています。「彼らは……主を求めようとせず、すべての人が自分の道を、自分の神の像を求めて歩む。その像は俗世の形で

……ある。」(教義と聖約1:16)

恐らく、わたしたちは第5の戒めに
関する約束について、違背した場合の
側面だけを目にしているのかもしれま
せん。つまり、主の来臨の時に、地が
「ことごとく荒廃する」という約束で
す。なぜならば「先祖と子孫の間に…
…固いつながりがなければ、地はのろ
いをもって打たれる」からです(教義
と聖約128:18)。のろいも祝福と同じ
くマラキの預言の一部です。家族のき
ずなの断絶によって地がのろわれて荒
廃することを予告する預言はほかにも
あります。「終わりの時には、……
人々は自分を愛する者、……親に逆ら
う者、恩を知らぬ者、神聖を汚す者、
無情な者……となるであろう。」(2テ
モテ3:1-3)「また不法がはびこるの
で、多くの人の愛が冷えるであろう。」
(マタイ24:12)

この問題がもたらす結果の幾つかが
統計に現れています。少年犯罪、未婚
の親、離婚、家庭内暴力が軒並みに増
加しています。けれども、このような
統計をもたらす原因を作っている人々
の姿勢は、統計に示される数字以上の
ことを明示しています。だれが書いた
かは不明ですが、1通の手紙から引用
してみましょう。わたしたちが現在目
にしているのは、「本来人々の間のき
ずなを強めるはずであった社会が、
人々に対して無関心な状態であれば上
等であって、それよりもひどい状況に
変わりつつあります。人々をつないで
いる多くの大切な結び目がほどこて、
まるで、ぼろぼろになった網のよう
になっています。結婚という結び目はこ

のようにほどこつつある結び目の一つ
にすぎません。」このような崩壊をも
たらしている原因に共通する事柄を一
つ挙げるとすれば、それは「個人の解
放と自己実現に価値を置きすぎている
ことです。このような価値観に立つと、
昔から大切にされてきたきずなはも
はや人を豊かにするものではなく、人
を縛りつけるものでしかありません。
わたしたちの間には、人生を孤獨な冒
険旅行でしかないと考える風潮が見受
けられます。」¹

個人の孤立化に加えて、この流れは、
社会を存続させ、文化を維持するため
に次代の人々が持っていなければなら
ない大切な知識である「集団で体験す
る思い出」をわたしたちから奪い去ろ
うとしています。人と人との結びつき
が失われると、一つの世代から次の世
代に引き継がれるはずの知識と会得し
たことがそこで切れてしまいます。
「わたしたちの社会が存続するため
には、人々が共通の信念を持ち、共通
の規則を守り、そして、……相互に依
存して生きていることを認めることが
最低限必要です。」²この意味において、
両親を敬うことと地上で長く生きるこ
ととの間には特に強い結びつきがある
と思われま。

まことの親近感

第5の戒めが親子の関係を重視して
いることを考えれば、「子供の権利」
を主張する現在の風潮に無関心でい
ることはできません。この運動によっ
て、幼児虐待がいかに深刻な問題であ
るかを社会に気づかせ、政府機関と学校が

子供の権利について真剣に考えるよう
になりました。しかし、この運動は先
祖に与えられた約束を子孫の心に植
えるのではなく、むしろ両親やほかの成人
に対する従属意識から子供たちを解放
し、さらには大人との結びつきを子供
たちにとって無意味なものにすること
を追求しているように思われます。

子供たちに「権利」を与えるこの運
動は実際のところ、子供たちに自分た
ちが見捨てられたという気持ちを与
えています。子供たちにとって最も大切
な「権利」は、子供たちを尊重し、守
ってくれる両親と社会によって愛さ
れ、教えられ、はぐくまれることです。
子供たちに両親を敬うこと、自分たち
の社会の利益を尊重することを教える
方法はこれ以外にありません。このよ
うにお互いを尊重することつまり帰属
感があってこそ、第5の戒めの約束を
実現させることができるのです。

皮肉にも、子供たちの「権利」を考
えるとき、大人たちは自分たちの利害
が相反する状況に直面することになり
ます。両親と社会は、子供を育てるた
めに膨大な時間、エネルギー、そして
財政資源を要求されます。子供たちに
「権利」を与えることは大人の本心を隠
す見せかけにすぎません。なぜならば
この「権利」を与えることによって、親
たちはこれらの義務を回避することが
できます。つまり、長期間にわたって
子供を養い育てる責任から解放される
わけです。「子供たちの自由を尊重し
て」、「子供たちの好きにさせようでは
ないか」とする考え方は、子供たちを
放り出すことによって自分たちの都合



戒めを守り、父祖アブラハム、イサク、ヤコブに与えられた約束を尊ぶならば、わたしたちは彼らと同じ霊的な力と祝福が与えられる、と約束されている。

を優先させようとする親たちの姿勢を正当化させる手段に使われやすいのです。このような親たちは、子供たちをしつけるために求められる忍耐と挫折感に何の価値も見いだすことができません。

この誘惑に屈服した人は、個人の成長にとってかけがえのない機会を失います。子供、^{はんりよ}伴侶、両親、兄弟、姉妹に対する責務を無条件で全うすることにより、ほとんど犠牲を要求されない関係では決して得られないような事柄を学び、成長することができるのです。

わたしはかつて、このような方法によって学習が行われた現場に居合わせたことがあります。我が家の小学校4年生の子供が大変難しい課題を与えられて学校から帰って来ました。ある宿題をどうしても翌日までに完成させなければ、大変なことになると言うのです。夕食が終わると妻のマリーは、息子を助ける方法を考えついたと言いました。そこで、わたしはほかの子供たちを食堂から連れ出しました。こうして、妻と息子は、工作の課題に取り組み始めました。

4年生の子供が、「ぼくの思いついたものしか作りたくない」と言い張る声が時折、台所から聞こえてきました。そこで

わたしは、彼を自分の部屋へ行かせて、宿題のことはあきらめるように言おうとしました。すると、妻は「ここはわたしに任せて」と穏やかに言いました。

3時間ほどして、ほかの子供たちを寝かせようとしていたところに、息子と妻が子供部屋に入って来ました。息子はまるでバースデーケーキを持っているかのように得意げな顔で完成した工作を抱えていました。そしてほかの子供たちに作品を見てほしいと言いました。

息子はすべてを自分でやり遂げました。息子は作品を棚に乗せると、寝る準備を始めました。そして、母親の方を振り返ると、男の子らしい笑みを満面に浮かべ、走って行って、両手を母親の腰に回して抱き締めました。そのとき二人は一緒に体験した者だけが分かる視線を交わしました。息子がベッドに入ると、わたしたちは子供部屋を出ました。

「一体どうしたんだい」と妻に尋ねました。「どうやって完成させたんだい。」

マリーの答えはこうでした。妻は息子が何をしようと、何を言おうと、絶対に大声を出したり、かんしゃくを起こしたりしないと決心したのです。さらに、たとえ宿題を仕上げるのに一晩中かかるとしても、息子のそばについてあげよう、と決心しました。そして、次のような意義深い言葉を述べたのです。「でも、わたしにやり遂げられるかどうか分からなかったわ。」

妻は、忍耐力と持久力が自分にあることを発見しました。ほんとうの親近感から生まれる固い決意がなければ、

それは見いだすことのできないものでした。帰属意識というものは、状況が良いときにも悪いときにも必要です。この例では帰属意識が困難な状況で功を奏したことを示しています。他人に対してこのような揺るぎない誠実さを示すことによって、わたしたちはどのように愛を示すべきか、言葉を換えれば、どうすれば救い主のようになるかを学ぶことができます。

社会と家族

両親と子供は互いにどのような義務を負っているのかについて社会は混迷しているように思われます。一部の人々は十戒の第5の戒めにあるような何世紀も昔の親族関係とか結婚関係というものをはたしていまだに存在するのと言って疑問を投げかけています。また、ある人々は法律上の「家族」においては、二人またはそれ以上の人々が資源や責務を分かち合わなければならないとする規定に対して論争を展開しています。ある法律学者は、「親密な関係」においてはすべからず、一般的に法律が親族関係や結婚に対して認めていると同じ優先権を持つ立場に当事者を置くものでなければならぬと主張しています。

日増しに高まるこのような疑問に加えて、社会的繁栄を得るためには親族関係や異性との結婚という永続的な関係に基づく制度が不可欠だとする従来 of 考えに批判的な意見を述べる人々が増えています。しかしながら、何についても黙認する社会は最終的にすべてを失うことをわたしたちは記憶してお

なければなりません。

わたしは、伝統的な家族という機構を維持することによって社会的利益に貢献する4つの要素を挙げてみたいと思います。今日の社会では個人の利益を主張することが一般的に行われていますが、これは十戒の第5の戒めの精神に反映されている社会的利益よりも優先させるべきものではありません。家族の安定を維持することが、究極的には、個人にとって価値のある自由を保証するための最良の方法なのです。

第1の要素は、単純に子供たちの必要を満たすことです。安定した環境ならびに成人との関係で安定している状態は子供の正常な精神的発育に不可欠であることが研究の結果明らかになっており、この点については論議の余地はありません。この事実だけでも、伝統的な家族というものに対して法律が優先性を持たせている根拠になり得るのです。

第2の要素は、社会的な美德を生み出す源は家族生活にあることです。家族生活には、権威に従うこと、責任を引き受けること、義務を果たすことなど、個人の自由と相反すると思われるような事柄が要求されます。これらの非常に根本的な原則が守られないと個人の自由はあり得ません。これらの防波堤がないと、家族と社会は崩壊し、個人の自由は長続きしません。家族がそれぞれに十戒の第5の戒めを守ろうと決意するときに、子供と両親は権威、責任、義務が必要であることに自分気がつきます。

歴史学者クリストファー・ラッシュ



^{しんせき}親戚関係の中にその典型を見いだすことができるよう、互いに対して帰属意識を持つことは、神の永遠の家族の一員となることの予表です。愛する人々に対する責務を優先させる気持ちは天父の家族の一員となるための準備となるのです。

はこのように述べています。「家族の必要性について論議が展開されているが、子供たちは〔両親のもとで〕精神的に強いきずなで結ばれた状態で育てられるのが最も良いという結論に達している。……愛と懲戒が入り交じった二面性を持つ両親の感情に直面し、そこで葛藤を経験しなければ、子供たちは激怒する感情を抑制し、権威を恐れる気持ちを学び取ることはできない。子供たちに看護婦やカウンセラーの専門家ではなく、両親が必要とされるのはこの理由によるのである。」この基本的な経験をしている子供は父母を敬うことを学び、それによってほかの権威ある者に対しても実りある対応ができるようになるのです。そして最終的に、子供は「道徳的な規範を良心の中に組み入れることが」できるのです。³

第3の要素は、子供たちに価値観を教えるには法に基づいた正規の家族が絶対的に必要とされることです。(分離独立した)個人ではなく家族を単位とする制度は、子供たちにどのような価値観を教えるべきかについて政府が過剰に管理するのを抑制する力を持っています。結婚そのものが外部からの不当な

干渉から家族を守る役割を果たします。

第4の要素は、結婚には社会の安定を維持する働きがあることです。結婚と親族関係にはそれらの関係を存続させるという当事者の決意が込められています。これによって彼らはほかの人間関係にはまったく存在しない異なった状況に置かれることになります。これらの関係が無限に続くことに価値を置く人々は、個人としてささげる犠牲に見合う利益と祝福が将来得られるという確信に基づいて、時間と労力を投資します。夫または妻としての忠誠を果たさないような関係を選んだ人々はこれらの投資をしようとはしません。したがって、彼らはグループの必要を満たすために個人の欲求を犠牲にすることによってもたらされる長期的な満足を見いだすことができないのです。

親戚関係の中にその典型を見いだすことができるように、互いに対して帰属意識を持つことは、神の永遠の家族の一員となることの予表です。愛する人々に対する責務を優先させるために個人的な欲求を抑制する気持ちは天父の家族の一員となるための準備となるのです。

平和を宣言する

主は教義と聖約第98章16節で、聖徒たちに対して「戦争を放棄して、平和を宣言しなさい。そして、子孫の心をその先祖に、また先祖の心を子孫に向けてるように熱心に努めなさい」と指示しておられます。十戒の第5の戒めをエリヤの業の精神と関連づけて考えると、平和と、両親の心と子供の心を互い

に相手に向けることの間にある関連性を理解することができます。わたしたちが宣言している平和とは、このようにして見いだされ、わたしたちの思いと家庭と社会を祝福し、強めるのです。

わたしは最初に、先祖に与えられた約束を子孫の心に植えることによって、どのように世を超え、死の幕さえも超えて子孫と先祖を愛によって一つにするかを説明するために家族の話を紹介しました。その結果、青年は自分が何者であってどのように生活すべきかを明確に知ることができました。青年はこの発見によって祝福を得ただけでなく、社会の中にあっても広範囲にわたって祝福をもたらすことになったのです。

この話を終えるに当たって、もう一つの話を紹介しましょう。それはエリヤの業の精神がどのように血縁関係という境界線を越えて、親子の間に尊敬の気持ちをはぐくんだかという物語です。わたしは最近、幼いころに末日聖徒の家庭に養女としてもらわれてきた一人の女性と話をしました。自分が養女であることを知った時期を尋ねると、彼女は4歳のときに父親が家庭の夕べで救いの計画についてレッスンをしたときに知らされたと答えました。父親はレッスンの中で、子供が生まれることを心から望んでいてもこの世ではそれがかなえられない親がいることを説明しました。そのような人たちは、生みの親が育てられない特別な子供を見つけることができるように、断食して主にお願いと説明しました。それから父親は彼女を両腕に抱いて、天

父はそうにして彼女を両親のもとへ送ってくださったことを説明しました。この心温まる話を聞いたわたしは、この女性を養女に迎えた両親に対して主が交わされた約束が、彼女の心に植えられたに違いないと感じました。彼女はこうして心に平安を得て、家族との一体感を抱いて人生を過ごしてきたのです。

非常に多くの親子が互いに離ればなれになっているこの世界において、わたしたちは「平和を宣言し……そして、子孫の心をその先祖に、また先祖の心を子孫に向けてるように熱心に努め」ようではありませんか（教義と聖約98：16）。そのようにするとき、わたしたちは「あなたの子孫の中で罪悪が行われないうち、この地の面で栄えるのを損なったり障害したりする者は、とこしえにないであろう」と言われた主の約束が成就するのを目の当たりにすることでしょう（2ニーファイ1：31）。□

注

1. "Talk of the Town" *New Yorker* 「町のこぼれ話」【「ニュー Yorker」で引用された作者不詳の手紙、1976年8月30日、21-22
2. アルストン・チェイス、*Group Memory: A Guide to College and Student Survival in the 1980s* 『集団の記憶——1980年代における大学入学及び学生生活ガイド』284
3. *Haven in a Heartless World: The Family Besieged* 『冷酷な世界における避難所——包囲された家族』123

イエス・キリストに対する信仰

ジョセフ・スミスはこのように教えています。「信仰の原則がなかったならば、世界は創造されなかったでしょう。また、人間もちりから造られることはなかったでしょう。まさに信仰の原則によって、エホバはその働きを成し遂げ、信仰の原則を通して、永遠の事柄のみならずあらゆる世俗的な事柄を支配する力を行使しておられるのです。」(Lectures on Faith『信仰講話』16)

もしイエス・キリストにわたしたちの生活の中で力を行使していただきたいと望むなら、わたしたちは主に対する信仰を行使しなくてはなりません。もし信じるならば、「[主]の心になうことを何事でも行う力を持つであろう」と救い主は約束しておられます。聖霊がわたしたちの心の中に宿られ、天の御父はわたしたちと交わした聖約を成就する力をお持ちなのです(モロナイ7:32-34参照)。

信仰は、信頼、従順、義にかなった行いによって増す

イエス・キリストに対する信仰は、神の言葉に対する信頼、真理に対する従順、善い行いをする勤勉さによって培われる神聖な賜物です(アルマ32:27-43参照)。ブリガム・ヤング大管長はこのように教えています。「福音の原則を信じて、神の賜物である信仰を得るならば、神はあなたの信仰を増し、信仰に信仰を加えてください

ます。……[わたしたち]は真理を信じ、真理に従い、真理を実行して、信仰と呼ばれる神の力を手に入れなければなりません。」(『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』62-63)

ある日、ジーン・ショー姉妹は若い娘のイレインと話していて、「自分の信仰は自分のものだ」ということは、きっと両親が死ぬまでは分からないでしょう、と告げました。数年後、母親が亡くなったとき、イレインはこの言葉を思い出しました。悲しみの中にあっても、主に対する自分の信仰が確かにあることが分かりました。教えられたとおりに真理を信じ、福音の儀式を受け、聖約を守るように努力してきたイレインは、救い主に対する信仰を培ってきたのです。彼女の信仰は次第にはぐくまれ、今では両親がいなくても自分で進むべき道を見だし、自らを支え、慰められるようになりました。

イエス・キリストに対する信仰により、わたしたちを通して主の業が行われる

わたしたちが信仰を増すにつれて、

イエス・キリストはほかの人々を祝福するために、わたしたちを通していっそう力を行使されるようになります。エービシはラモーナイ王の法廷で「何年も前からすでに主に帰依していた」レーマン人の女性です。彼女はその信仰により神の力を悟り、主の手の中で用いられる器となりました。アンモンがラモーナイ王とその家来たちに福音を教えたとき、彼らは御霊の力に圧倒され、皆、地に倒れてしまいました。「ラモーナイの僕たちが皆、地に倒れ、また自分の主である王妃も王も、またアンモンまでが地に倒れて横たわっているのを見ると、それが神の力であることを知りました。この力をほかの人々にも見てほしいと思ったエービシは、王の家へ人々を集め、レーマン人の間で主の業が開始されるのを助けました(アルマ19:16-17, 28-36参照)。

救い主に対する信仰を持った人々は、主の祝福を受ける力だけでなく、それらの祝福をほかの人々と分かち合う力を持っています。最終的には、贖いとすべての福音の原則と儀式に従う信仰は、神のもとへわたしたちを導いてくれるでしょう。そこでわたしたちは、神の忠実な子供たちの永遠の命をもたらす主の業を行うことになるのです(モーセ1:39参照)。

- イエス・キリストに対する信仰を増すにはどうしたらよいでしょうか。
- 信仰は、善い行いをするうえで、どのようにあなたを鼓舞したでしょうか。□



生ける預言者の言葉

ゴードン・B・ヒンクレー大管長の教えと勧告



バプテスマに伴う責務

「わたしは皆さん一人一人に、すなわち、すでにバプテスマを受けているすべての男女、子供に申し上げたいと思います。皆さんはバプテスマを受けたときに、きわめて大切な責任を引き受けました。生涯、日々福音に従って生活し、本来あるべき男性や女性のようにするという責務を負ったのです。わたしは皆さんに大いなる敬意を抱いています。忠実であってください。誠実であってください。主を愛してください。福音を大切にしてください。朝晩、祈りをささげてください。ひざまずき、天の御父に祈り、貴い祝福を御父に求めてください。」¹

誉れある大義において指導者になる

「わたしは自分の持つありったけの力を込めて、皆さんにお勧めします。わたしたちの毎日の生活で求められる様々な事柄を超えた義務を果たしてください。すなわち、しっかりと立ち、まことに、わたしたちの文明を輝きのあるものとし、わたしたちの生活に慰めと平安を与える大義のために声を上げる指導者になってください。皆さんは指導者になることができます。皆さんは、この教会の会員として、この教会が目指している大義において指導者にならなければなりません。皆さんの努力が恐れに負かされることのないようにしてください。パウロはテモテにこのように書き送っています。「神がわたしたちに下さったのは、臆する靈

ではなく、力と愛と慎みとの靈なのである。」(2テモテ1:7) 恐れは神からではなく、悪魔から来ます。すべての真理の敵は、皆さんの心に、あえて努力はしたくないという気持ちを与えたいと思っています。恐れを退けてください。真理と義と信仰の大義に雄々しくあってください。今、これを皆さんの生き方にしようと決意したら、再びそれを決意する必要はないのです。皆さんは、現在も、これから先の将来にも、どのような状況にあっても神の武具を身に着け、真理を擁護して声を上げることでしょう(エペソ6:11参照)。²

善良であって何かを行う

「皆さんは善良です。しかし、善良であるだけでは十分ではありません。皆さんは善良であって何かをしなければなりません。世界に対して良い貢献をしなければなりません。皆さんがいることで、世界がより良い場所にならなければなりません。皆さんの内にある善良さが、ほかの人々に広まらなければなりません。……

この世は数々の問題で満ち、絶えず暗い邪悪な挑戦に脅かされています。皆さんは中途半端な状態、無関心な状態から脱することができますし、脱しなければなりません。皆さんは正しい事柄に携わり、力強い声で語ることができます。」³

義にかなって子供たちを育てる

「父親、母親の皆さんにとって、命を与えた幼い子供たち以上に貴いものはありません。彼らを大切にしてください。彼らを教えてください。彼らを愛してください。主の薫陶と訓戒によって彼らを育ててください。神はそうしない人々に責任を取るように言われるでしょう。」⁴

人々と教会に誠実である

「兄弟姉妹の皆さん、わたしたちは誠実でなければなりません。傍観者になって互いに批判したり、あら探しをしたりしてはなりません。助け合って互いの重荷を負い合わなければなりません。互いの悲しみを分かち合わなければなりません。互いの勝利を喜び合うようであればなりません。教会に対して誠実であり、教会のすべての敵に立ち向かわなければなりません。」⁵

改宗者を助ける

「わたしたち一人一人は、[改宗者を]フェローシップし、彼らが神の武具を身にまとい、教会で完全に活発になるよう導く責務を負っています。日曜日

に教会に行くだけでは十分ではありません。わたしたちは毎日手を差し伸べなければなりません。バプテスマを受けたすべての男女、子供が忠実であり、活発であるようにと、わたしは心から望んでいます。皆さん全員が新しい改宗者に手を差し伸べて、彼らを助けようと決心するならば、そのようになります。人々にバプテスマを施す宣教師にとっては、人々が少しの間教会に来て、その後去ってしまえば、意味のないことです。皆さんは忠実に残っていますので、感謝申し上げます。しかし、もう一度お勧めします。皆さんは特別な努力を払って、最近バプテスマを受けた人々に手を差し伸べてください。彼ら独りでは忠実さを保つことができません。まだ十分に強くなっていないのです。彼らは皆さんの助けを必要としています。新しい改宗者をフェロシップする皆さんを、神は祝福してください。このことは、と

ても、とても大切です。これはイエス・キリストの福音の一つの原則です。わたしたちはほかの人々を助けるために手を差し伸べるときにのみ、真の末日聖徒になるのです。』⁶

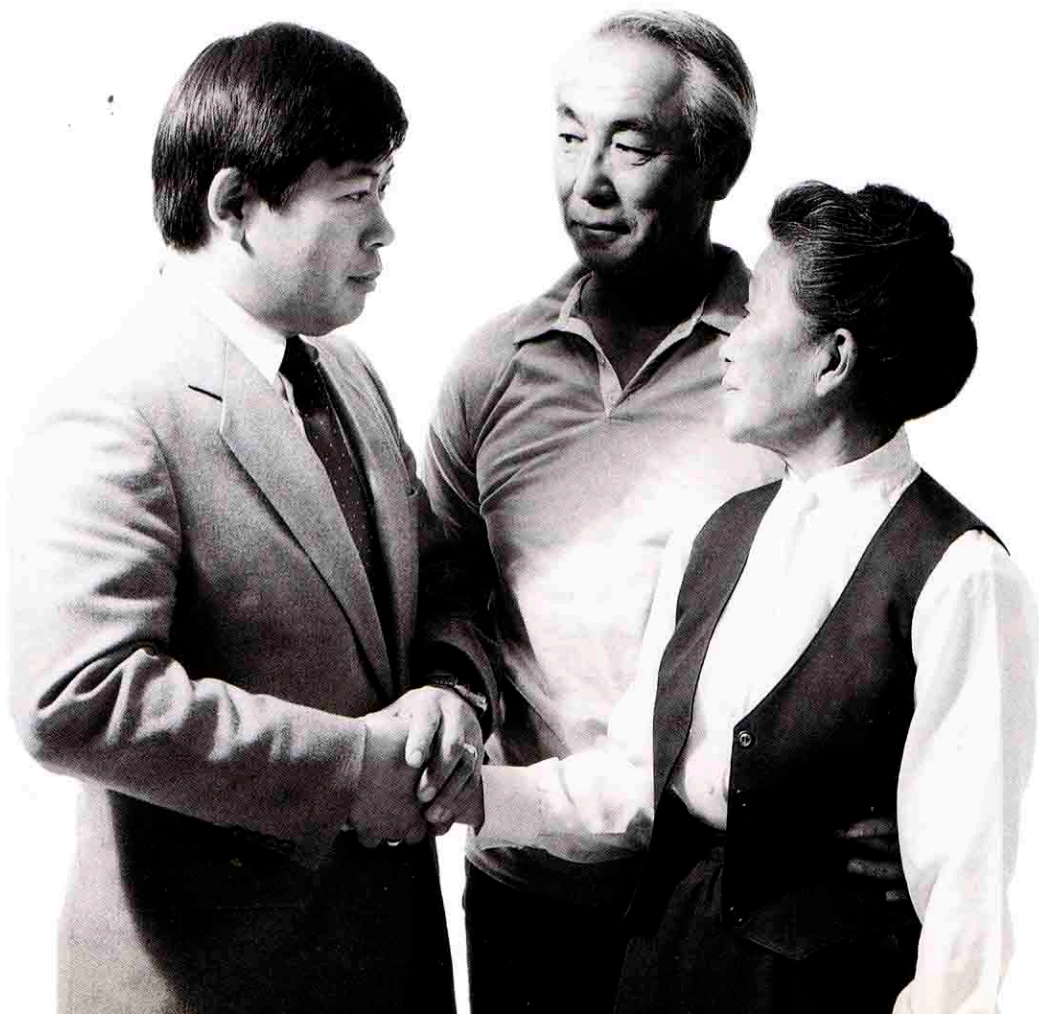
不法な薬物

「皆さんは不法な薬物をもてあそんでなりません。わたしたちには、そのようなものに手を染めている余裕などありません。わたしたちの体はわたしたちの霊の宮です。神聖です。全能者の創造物です。人は神の形に造られました。わたしたちは神の息子として、神の娘として、自分の体を大切にすべきです。薬物にかせをかけられ、奴隷にされないように、子供たちに働きかけ、人々に教えましょう。そのような薬物を手にすると、ついには自分自身を制する力を失い、自分自身の行く末をコントロールできなくなるでしょう。そのような薬物は悪です。良いもので

はありません。』⁷□

注

1. 1997年1月21日、ホンジュラス・サンペドロスラ、ファイヤサイド
2. 1996年9月17日、ユタ州プロボ、ブリガム・ヤング大学、デイボーショナル
3. 1996年9月17日、ユタ州プロボ、ブリガム・ヤング大学、デイボーショナル
4. 1997年1月23日、エルサルバドル・サンサルバドル、ファイヤサイド
5. 1997年2月2日、ユタ州プロボ、ブリガム・ヤング大学、教会教育部ファイヤサイド
6. 1997年1月20日、コスタリカ・サンホセ、ファイヤサイド
7. 1996年2月24日、ノースカロライナ州シャーロット、地区大会神権指導者会



ゆる 赦す心



ロデリック・J・リントン

1991年12月、アメリカ人ジャーナリスト、テリー・アンダーソンが2,455日ぶりに人質の境遇から解放されました。彼は約7年間レバノンで監禁されていたのです。テレビで放映された記者会見の席上、彼は自分をそのような目に遭わせた者たちの捕縛と処罰に協力する意志があるかと聞かれました。それに対してアンダーソン氏は、自分を誘拐した人たちの捜索に関与するつもりはないと答えました。彼はこう言ったのです。「わたしはクリスチャンです。……わたしに求められているのは、**ゆる**赦すことです。たとえそれがどんなに難しいことであってもです。……今はまったく新しい生活をしています。これからは楽しい生活になりますよ。」

テリー・アンダーソンの返事は恐らく、センセーショナルなコメントを求めていた記者たちをがっかりさせたことでしょう。しかし、怒りと復讐心ふくしゅうの満ちあふれた世の中にあっても、赦しの原則を貫く勇気ある人々がいるのだということを、わたしたちに思い起こ

させてくれました。確かに、もっと多くの人々が赦しの心を養うなら、世界中の様々な悲しみが計り知れないほどに軽減されるのです。

物の見方を変える

寛容さは個人的な特質であり、わたしたちが必要に応じて取る単なる行動とは違うものです。赦しの心を持つとは、世の中を違った観点から見ることです。それは相手がどのような人であれ、人を裁いたり、責めたり、排除したり、憎んだりする性向を捨て去ることです。赦す心は、人を愛し、不完全さを忍耐しようとしています。赦す心は、人はだれでもイエス・キリストの贖あがないを必要としていることを理解します。

もし寛容な心があれば、わたしたちの本質はキリストのようになり、親切で、忍耐強く、苦難によく耐え、慈悲深くなることでしょう。余すところなく表現するとすれば、赦しとは慈愛、キリストの純粋な愛と同じ意味を持つものです。それは与える側と受ける側の両方の心の中に、キリストのよう

ゆる
赦す心は、人はだれでもイエス・キリストの贖あがないを必要としていることを理解します。
もし寛容な心があれば、わたしたちの本質はキリストのようになるでしょう。



愛という種をまき、養っていくのです。

赦しの心を拒み、その代わりに憤り、うらみ、復讐心^{ふくしゅう}を抱く人々の目には、この世の中は陰うつなところと映ります。そのような人々はすぐに怒り、常に人々の行動を悪意によるものと考えます。また、人間関係の中に生じる苦痛をより強烈なものとして受け止めます。彼らは、自分とほかの人との間にある違いをなかなか受け入れることができません。そのような人は自分の標準にかなった人を見つけ出すことができず、そのために孤独感を深めていく傾向があります。また、自分自身の失敗に対しては、ほかの人の失敗に対するよりも不寛容になることが多くあります。そして、時には神に対して怒り、自分の生活の中のフラストレーションを神の責任にしようと言います。彼らの心の中には、喜びの宿る場所がありません。

人はだれでも幾分か不寛容な面があります。不寛容は「生まれながらの人」の一般的な傾向だからです。しかし、ベニヤミン王の勧告のように「聖なる御霊^{みたま}の勧めに従うなら、わたしたちは「主なるキリストの贖罪^{しゅくざい}により、生まれながらの人を捨てて聖徒」となることができるのです（モーサヤ3：19）。ベニヤミン王の勧告に従う人々は、赦しはより幸福で霊的に成熟した生活への扉を開くというのを知ることができます。

ポール・ヒュームもそれを知った一人です。1973年11月、カリフォルニア州サンホセに住んでいた彼の10歳の娘ケリーは学校から家へ歩いて帰る途中でした。果樹園を通りかかったとき、ある10代の少年が近寄って来て、彼女に声をかけました。そして、その少年はケリーを強姦^{ごうかん}し、殺害しました。彼はその後間もなく有罪の判決を受け、無期懲役を宣告されました。

ヒューム兄弟は、当時高等評議員の責任を受け、その前には監督の職を務めていました。この事件は彼に大きな痛手を与えました。まだ幼い娘を残忍な方法で殺された彼は、正義に対するそれまでの判断がぐらつき、信仰そのものが危機的な状況に陥りました。愛してやまない娘を失った非常に苦しみにより、彼は怒りと恨みを募らせていきました。彼は、自分自身と悲しみに沈む妻や家族への主の慰めを願い求めました。

ヒューム兄弟は耐える力を求めて祈ったときに、ケリーは天父の愛の手の中において、この世の苦しみから解放されているのを知って、慰めを見いだしました。また彼は、募る恨みをなくしてしまわなければ、それによって心の安らぎと霊的な幸福が危うくなることにも気づき

ました。

ヒューム兄弟は御霊の導きによって、自分の思いが加害者の家族に向き始めるのを感じました。そして、自分の娘は平安で満たされているのを知りました。しかし、彼女の死に対して責任を持つその若い男性はどうだったのでしょうか。彼は赦しと平安について希望を持っていたのでしょうか。彼の家族はどうだったのでしょうか。彼らは自分たちの家族の一人について、心の安らぎとなることを何も知ることなく、慰めもなく苦しんでいただけでした。

ヒューム兄弟は彼らの家を訪ね、自分にできる慰めと助けを与えようと決心しました。彼はその少年の家族と会って、彼らの苦しみを理解していると説明しました。しかし彼は自分の気持ちを伝えながら、自分の伝えたこととその動機が理解されていないと感じました。彼は、この家族が信仰と慈愛というキリストの教えの簡潔な原則に心を動かされた経験が一度もないのだということが分かりました。ヒューム兄弟は自分の訪問がその家族の役に立ったのかどうか確信が持てませんでした。ところが、彼自身の心の中に一つの奇跡が生じたのです。恨みと怒りが解けて、慈愛がそれに取って代わったのです。²

赦す者は赦される

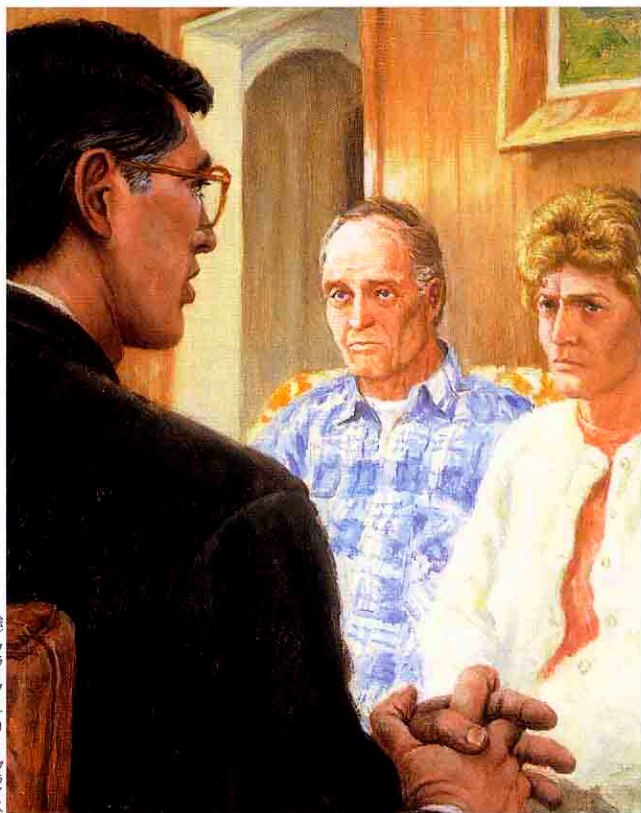
聖文は、赦すことと赦されることとの間にある関係について証^{あかし}しています。イエス・キリストは地上におられたときに、祈りについて弟子たちに教えた言葉の中で次のように言われました。「わたしたちに負債のある者をゆるしましたように、わたしたちの負債をもゆるしてください。」（マタイ6：12）この祈りの後で救い主はこう強調されました。

「もしも、あなたがたが、人々のあやまちをゆるすならば、あなたがたの天の父も、あなたがたをゆるして下さるであろう。

もし人をゆるさないならば、あなたがたの父も、あなたがたのあやまちをゆるして下さらないであろう。」（マタイ6：14—15）

現代においても主は、不寛容な思いを心に抱くことの危険性を再確認されました。「それゆえ、わたしはあなたがたに言う。あなたがたは互いに赦し合うべきである。自分の兄弟の過ちを赦さない者は、主の前に罪があるとされ、彼の中にもっと大きな罪が残るからである。」（教義と聖約64：9）

トルーマン・マドセンは、自分に対してなされた罪よ



ヒューム兄弟が自分の娘を殺害した少年の両親を慰めようとしたとき、奇跡が起こった。恨みと怒りが解けて、慈愛がそれに取って代わった。

りも、人を赦さないことの方がより大きな罪とされることの一つの理由を挙げています。彼は、「人を赦さないことにより、準備された贖いの祝福を拒んでしまうことになる」と語っています。「あなたは、自分自身の罪の赦しを求めて祈ったときに、人生の絶望の淵にあったのかもしれない。しかしあなたは向き直って言う。『でも、あの男は別です。あの男は赦さないでください。わたしは赦しません。あの男はそれに値しない男です。』そしてあなたは愛と思いやりと主の啓示の通り道を閉ざしてしまう。あなたは主が人々のためになされた贖いを無効にしてしまうのである。それは水の流れをせき止めてしまう三層構造の鉄板のようである。』³

「主なるわたしは、わたしが赦そうと思う者を赦す。しかし、あなたがたには、すべての人を赦すことが求められる」と主が言われたのは、このためだったのではないのでしょうか。(教義と聖約64：10)

預言者ジョセフ・スミスの模範

教会歴史の中のある愛にあふれた物語は寛容な心が持

つ力をよく示しています。ウィリアム・W・フェルプスはいわゆるカートランド時代に教会に入り、熱心に預言者ジョセフ・スミスに従うようになりました。彼はミズーリ州でステーキの副会長の責任に召されました。後にフェルプス兄弟は、財政上の幾つかの不都合な問題と自分の過ちを悔い改めようとしなかったことが原因で自ら教会を去りました。そして、心の中に恨みを抱き、自分を預言者の敵であると公言したのです。彼の敵対心は、リルバーン・ボッグズ知事がモルモン教徒撲滅令を出した後に、預言者や教会の多くの指導者が逮捕されたときに形となって表れました。

預言者の命がまさしく危機に瀕していたとき、ウィリアム・W・フェルプスはジョセフ・スミスに敵する証人として法廷に立ちました。そして、彼は聖徒の最大の敵の一人の行動を弁護する証明書に署名することで、自分の裏切りをいっそうひどくしました。

彼の行動は結果的に、預言者をはじめ、何人かの兄弟たちを獄中へと追いやりました。自分が愛し信頼した人々の裏切りを思いながら、預言者が数か月におよぶ獄中生活の中で味わったひどい失意を想像できるような気がします。

その2年後、深い苦しみと後悔の後にフェルプス兄弟は預言者に心からの言葉を込めた1通の手紙を送りました。「ジョセフ兄弟……わたしはまるで放蕩息子のようにです。……わたしはこれまで歩いて来た愚かな道を顧みて、自ら作ってしまった大きな隔たりに身震いしています。」彼は兄弟たちに赦しを乞い、たとえ厳しい懲戒処分があるとしても、彼らのところへ戻りたいと願いました。⁴

預言者がすぐにしたためたフェルプス兄弟あての返事は、赦しと彼の偉大な精神が持つ力のすばらしい例証です。

「親愛なるフェルプス兄弟……

あなたはリグドン長老とハイラム兄弟、そしてわたしの気持ちをおる程度分かってくださったようですね。あなたからの手紙を読んだとき、わたしたちはあなたの決意のほどを知り、心が愛と哀れみによって和らげられました。……

あなたの行動によってわたしたちが大きな苦しみを受けたのは確かです。あなたがわたしたちに背いたときに、苦い杯はすでに人々が飲むに十分なまでに満たされていて、まさにあふれかえるばかりでした。……

しかしその杯はこれまでに飲み干され、御父の御心は果たされて、そして、わたしたちはまだ生きています。

わたしたちはそのことを神に感謝しています。神の憐れみによってわたしたちが邪悪な者たちの手から救い出された今、敵の力から救い出されて、神の愛する子供たちの自由の中に戻され、至高者の聖徒の中に加えられ、熱心な働きと謙遜さと心からの愛によって、わたしたちの神、そしてあなたの神、イエス・キリストの教会の神に受け入れていただくことは、あなたの特権です。

あなたの告白が真実であると信じ、あなたの悔い改めが心からのものであると信じ、交わりの右手を差し出し、戻って来た放蕩息子を喜び迎え、また幸せな気持ちになることができます。……

『さあ、愛する兄弟、戻って来てください。戦いは済んだのですから。

初めに友だった人は、最後にもまた友なのです。』

あなたの永遠の友

ジョセフ・スミス・ジュニア⁵

フェルプス兄弟は新たな決意と覚悟をもって教会に戻りました。彼の預言者に対する愛と新たな機会への感謝の念は深く真実のものでした。ウィリアム・W・フェルプスは預言者の葬儀で話し、後には回復の業をたたえるすばらしい賛美歌の歌詞を書きました。

「たたえよ、主の召したまいし 主と語りし預言者を
末の時を始めたる 業を世、皆崇めよ

天の恵みのいけにえと 彼の血は、世を救わん
目覚めよ、義の戦いに ジョセフを世はまた知る

たたえよ、今彼は天に 争う者もなく
神とともに働きて 今は永遠に滅びず⁶

模範に従い、原則を大切にす

ジョセフ・スミスも手紙の中でウィリアム・フェルプスに次のように書いています。「謙遜な人、悔い改めた人に対する天の御父の数々のお計らいが、堅忍、忍耐、憐れみによるものであるかぎり、わたしはその模範に従い、同じ原則を大切にしたいと思う。またそうすることによって、同胞の救い手になりたい。」⁷

預言者の言葉はわたしたち一人一人に、主の道を学び、その模範に倣うように勧告しています。また、わたしたちはそうすることによって、自分の生活の中に安らぎと満足を引き入れ、人々に救い主のもとへ戻るように働きかけるのです。

預言者ジョセフ・スミスは寛容な心をもって、悔い改めたウィリアム・W・フェルプスに手紙を書いた。「あなたの告白が真実であると信じ、あなたの悔い改めが心からのものであると信じ、交わりの右手を差し出し、戻って来た放蕩息子を喜び迎え、また幸せな気持ちになることができます。……『初めに友だった人は、最後にもまた友なのです。』」

その優しさと憐れみ深い心のゆえに当時の聖徒たちに慕われたジョセフ・F・スミス大管長は、次のように勧告しています。

「わたしたちは、あなたがたが……お互いに赦す気持ちを……抱いて、今後決して互いに悪意を持つことがないように、希望し、祈っている。……神権を持ち、聖霊の賜物を受けている人が、ねたみや悪意、復讐、隣人に対する敵意を持つことは、非常に危険である。わたしたちは心の中でこう言わなければならない。わたしとあなたの間は神に裁いていただく。ただわたしは赦したい。赦すまいとする感情を心に抱く末日聖徒は、罪を犯した人々よりも罪が重く、非難すべき存在であるとわたしはあなたがたに言いたい。家に帰ったらねたみと憎しみを心からぬぐい去り、赦すまいとする感情をなくさない。そして、キリストが十字架の上で『父よ、彼らをおゆるしください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです』（ルカ23：34）と叫ばれた精神を養いなさい。これが、末日聖徒が四六時中持っていなければならない精神である。」⁸□

注

1. ジル・スモロー “The Ordeal: Lives in Limbo” *Time* 「試練——煉獄の生活」『タイム』1991年12月16日、22
2. 自身の体験を発表する許可を下さったポール・ヒューム兄弟に謝意を表します。
3. トルーマン・G・マドセン “On Forgiveness” 「赦しについて」LDS社会福祉事業セミナー、1978年8月3日
4. *History of the Church* 『教会歴史』4：141-142
5. 同上、4：162-164
6. 「たたえよ、主の召したまいし」『賛美歌』16番
7. 『教会歴史』4：163
8. 『福音の教義』248



ROBERT
ALDRICH
MCKAY

どうして教会に行き

匿名

絵/ケリー・ヘンリー

わたしは福音をようやく理解し始める年齢に達すると同時に、福音に対して疑問を抱くようになりました。福音が真実かどうか、いぶかしく思うこともしばしばでした。わたし自身はあまり出席しなかったのですが、両親は、毎週日曜日にドイツのワールドに一緒に出席させようと譲りませんでした。そこで語られることはすべて知っているつもりでしたし、いつも同じようなことの繰り返しで、退屈に感じていました。

教会に行きたくなかったのも、わたしは教会と教会員に対して批判的でした。教会員は常に、自分たちが話や証で述べる言葉のとおり完全に生活すべきだと決めつけていました。しかし、けんかをする親子、うわさ話をする人々、アルコール性飲料を飲んだりたばこを吸ったりする若い人々を目にすることがありました。偏見のために物事を正しく判断できなくなっていたわたしは、時々教会堂に立ち寄るホームレスの人々に対して、とっさに救いの手を差し出さない教会員ばかりが目につきました。「聖文で語られていて、だれもが知っているはずの慈愛はどこにあるんだろう。」わたしは考え込みました。どういうわけか、ほかの人々を助けている人たちのことは見えていなかったのです。

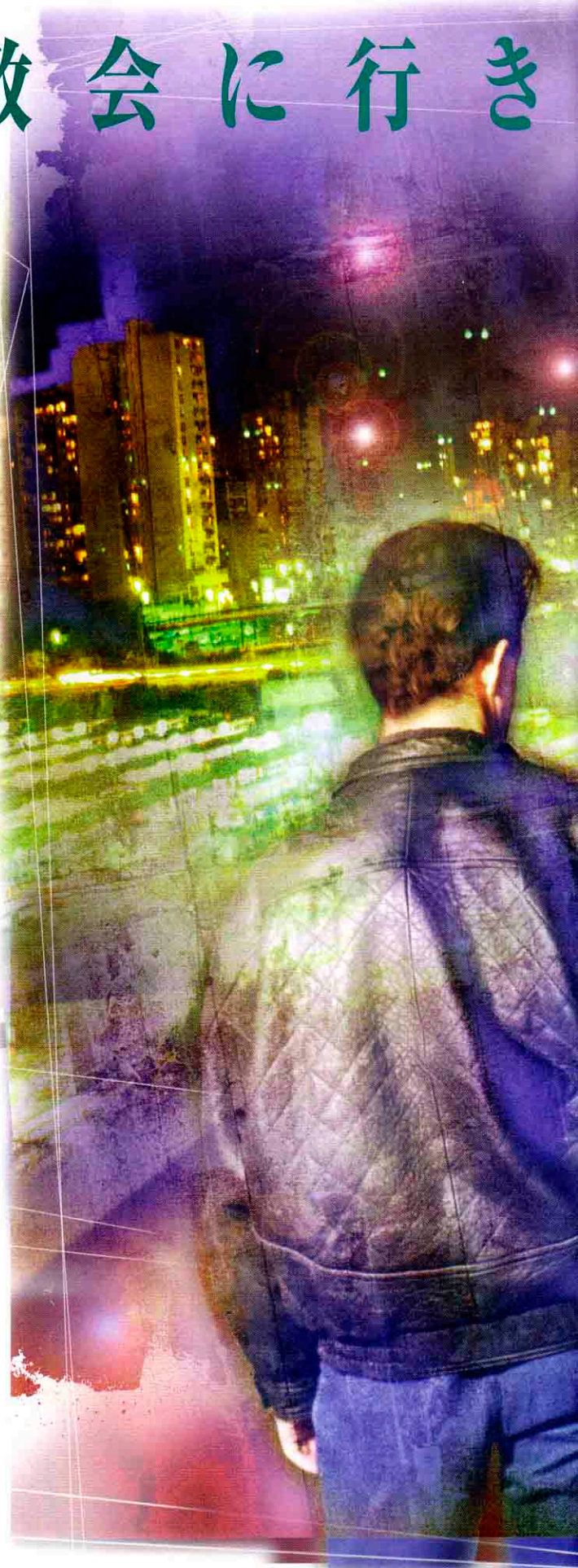
批判の精神にとらわれていたころ、教会員ではない友人たちからたばこやアルコール性飲料を勧められました。そして試してみたのです。しかしそれだけではありません。しばらくするうちに夜遅くまで外出する日が増えました。特に週末はいつも帰宅時間が遅くなりました。こうして、疲れ切っていたわたしは、当然、教会に行く気がなくなりました。

このような友人たちの影響に加え、教会内に偽善が見受けられるように感じていたこと、誘惑に負けてしまったこと、教会が退屈だったこと、自分の高慢さ、そして不従順さも手伝って、教会について何も知りたくなくなりました。

やがてわたしは、裁判所に出頭しなくてはならないような過ちを犯してしまいました。法的な罰を受けて苦しむ自分の姿を想像するにつれ、わたしは自分を見詰め直さざるを得なくなりました。そして生活を変えよう、と決心したのです。

今、教会に対して以前より関心がある理由

信頼できる教会員の友人のもとへ行き、自分の問題に



たくなかったか……

……そして今、どうして行きたいのか

ついて話しました。主はその友人が正しいことをわたしに語れるように促してくださいました。友人のおかげで、自分は分岐点に立たされているのを悟りました。わたしは、主の道に立ち返らなければなりません。そうしなければ、泥沼にはまって沈んでいくだけでした。このことが分かるまでには時間がかかりましたが、それは間違え余地のない明確なものでした。友人はそれからわたしの父と話し、「3人でひざまずいて祈ってもいいですか」と尋ねました。父が祈り、わたしは強く御霊を感じ、目に涙がこみ上げてきました。

そして分かったのです。もし一緒に教会に出席するようにと両親が言っていなかったなら、事態はもっとひどくなっていたかもしれません。完全に教会から離れ去っていたかもしれません。

わたしの助言

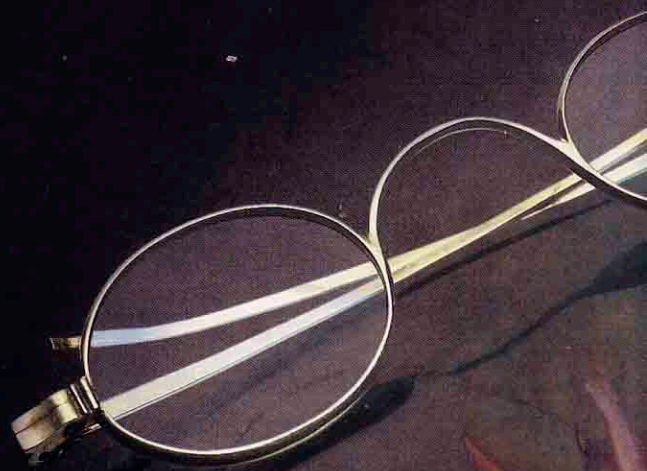
教会員以外の友人を持つことは、もしあなたと同じ標準を持っている良い友人を探すのなら、悪いことではありません。友人が福音に添わないことを勧めてきたら、断るべきです。それでもなおまだ勧めてくるならば、たとえ難しいことであっても、そのような友人から離れるのが最良です。わたしにとっても、やはり難しいことでした。

偽善は今でも嫌いです。しかし今は自分にも改善しなければならない欠点があるのが分かってきました。教会での話はやはり似通ったものですし、集会はいつもと変わりません。しかしもう批判的ではありません。たとえそのような事実があったとしても、教会の集会は興味深いものとなり得るのです。容易にできることではありませんが、話に耳を傾ける努力をしています。教会から離れたくないのです。

わたしは、教会に行くことや戒めを守ることに、より大きな関心を抱くようになってきました。難しいことではありますが、主と両親の助けがあるので、そうできるのです。そしてこれからもそうできるでしょう。愛してくれる両親や教会活動に活発な友人がいることを、ほんとうにうれしく思います。人から理解され、真剣に受け止められ、愛されるのは、すばらしいことです。そして、主がいつもそばにいてくださると感じられるのは、ほんとうにすばらしいことです。□

写真で見ると

フリガム・ヤングの生涯

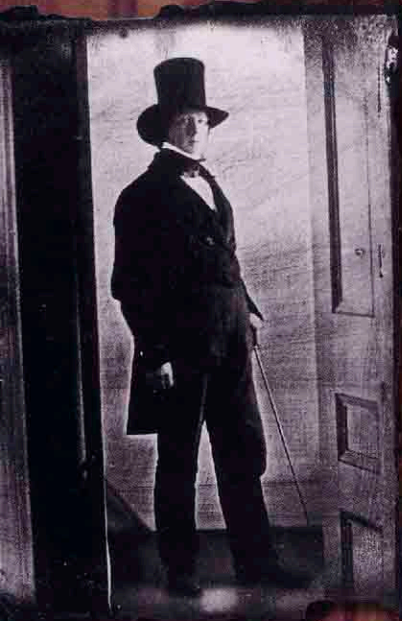


『歴代大管長の教え——フリガム・ヤング』の1ページには次のように書かれています。「フリガム・ヤングは末日聖徒イエス・キリスト教会第2代大管長であり、アメリカ西部における末日聖徒の一大共同社会を開拓し、築き上げた人物である。また、献身的な夫であり父親でもあった。さらに彼は、主イエス・キリストの忠実な弟子であり、使徒である。『イエスはわたしたちの司令官であり、指導者です。』（『Deseret News Weekly』『デゼレトニュース・ウィークリー』）

第2代大管長フリガム・ヤングの生涯とその教導の業を今に伝える写真、絵画、遺品。

1871年5月24日、5) 彼はそう証^{あかし}する。また、『わたしの信仰は主イエス・キリストの上に置かれており、わたしの知識は彼から得たものです』（『デゼレトニュース・ウィークリー』）1855年11月21日、2) と断言した。彼の生涯は、地上における主イエス・キリストの王国を建設しそれを守ることに集約されていたのである。（『歴代大管長の教え——フリガム・ヤング』1）

以下に掲載する写真、絵画、遺品などは、フリガム・ヤング大管長の生涯と人となりを知る助けとなるでしょう。



左ページ—ブリガム・ヤングが使用した眼鏡。教会歴史美術館の厚意により掲載。

上—ブリガム・ヤングの出生地—1913年1月のバーモント州ウインダム郡ウィットティングハム。写真/ジョージ・エドワード・アンダーソン。

左—ブリガム・ヤング, 1845年, 45歳 (推定)。イリノイ州ノーブーで撮影された銀板写真の複製。

背景—「ウォーター・ホールにおけるブリガム・ヤングの隊」ミネルバ・K・タイカート画。





左ページ、上—ライオンハウスとビーハイブハウス。ヤング大管長の事務所兼住居として用いられた、1860年。写真/チャールズ・W・カーター。

右ページ、左—ニューヨーク州メンドンでプリガム・ヤングが制作した。1832年以前の作と思われる。教会歴史美術館の厚意により掲載。1830年3月16日付けでプリガム・ヤングの署名がなされた約束手形には、「1脚50セントで良質の台所用いす」を制作し、それを返済に充当することが明記されている。

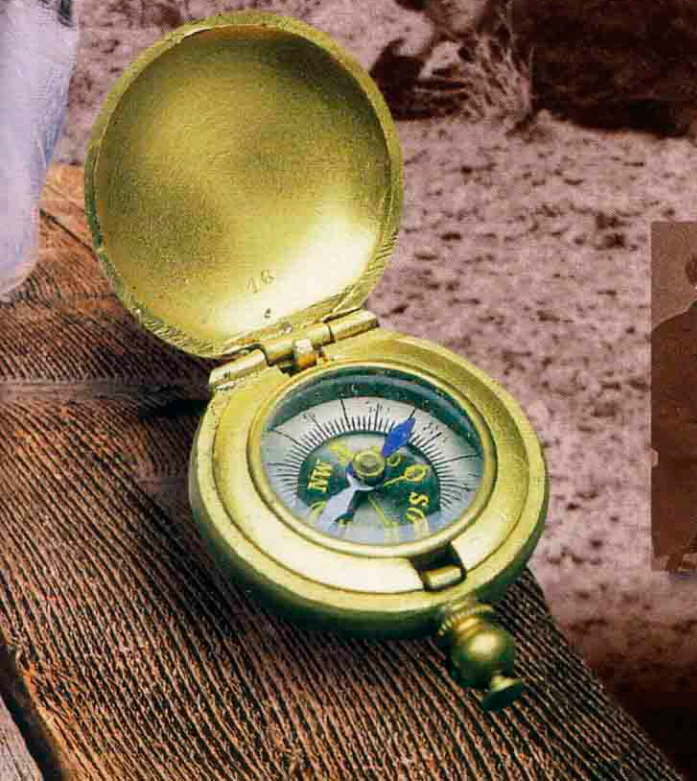
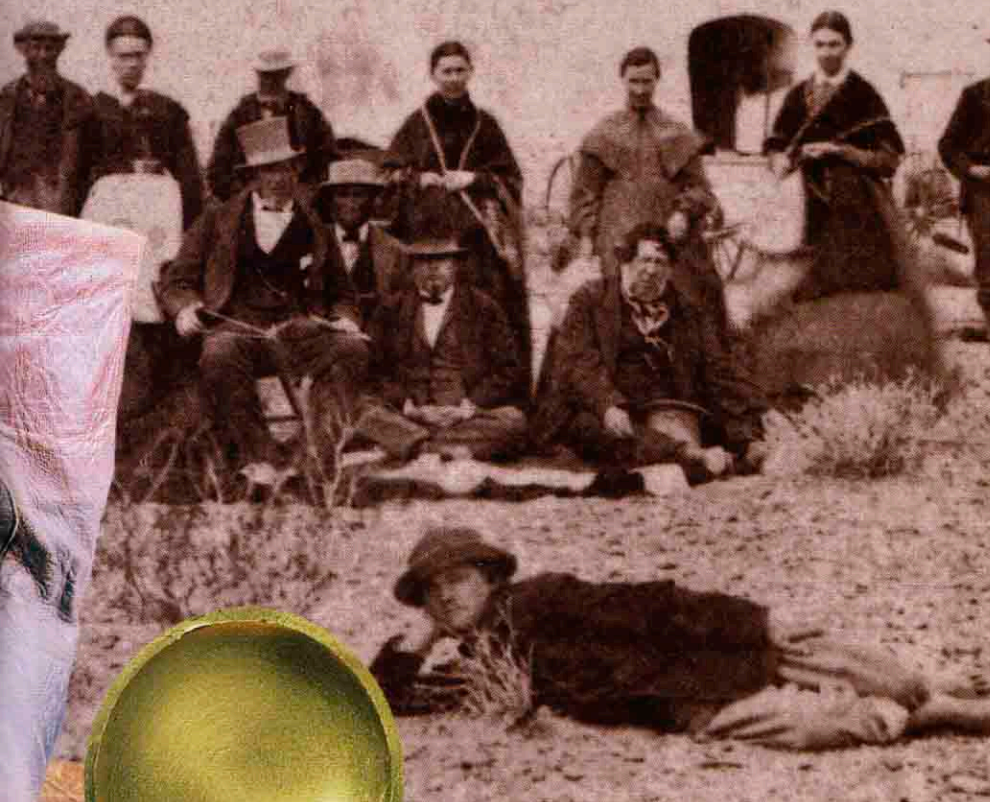
右ページ、右—プリガム・ヤング大管長、1852年、51歳（推定）。

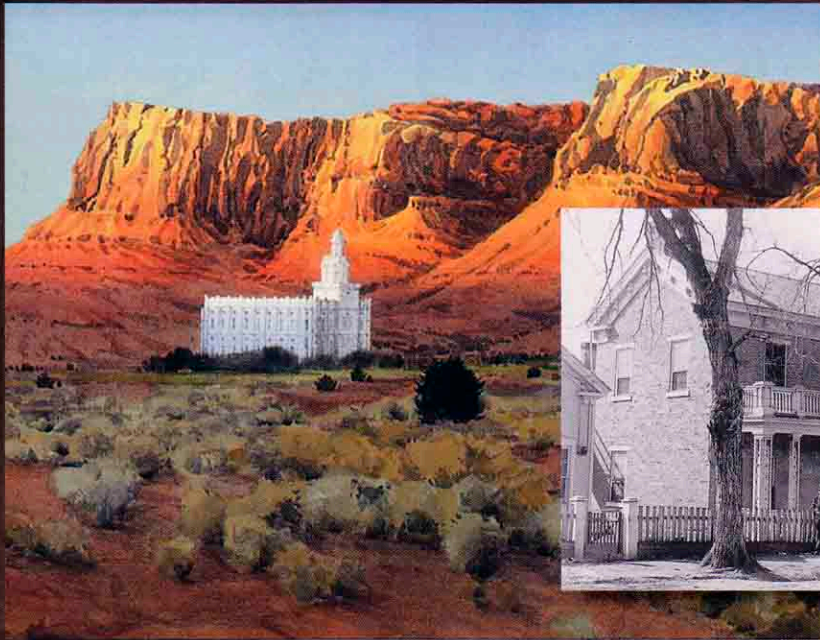
左ページ、下—プリガム・ヤング着用のビーバー毛皮製の山高帽とオーダーメイドの正装用ブーツ。教会歴史美術館の厚意により掲載。

右ページ、下—1847年にソルトレーク盆地へ向かう旅でプリガム・ヤングが使用した羅針儀（コンパス）。教会歴史美術館の厚意により掲載。

右ページ、下—プリガム・ヤング大管長とその兄弟、1870年（推定）。左から、ロレンソ、プリガム、フィニアス、ジョセフ、ジョン。写真/C・R・サベジ。

背景—1870年3月、ユタ州南部を訪問中、コロラド川付近でキャンプをしたときのプリガム・ヤング大管長とその一行。写真/C・R・サベジ。最前列右から二人目、山高帽をかぶっているのがヤング大管長。





President's Office
S. L. C. City, Feb. 6th 1860.

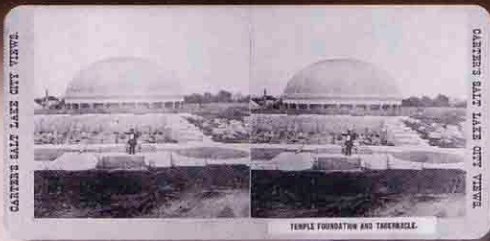
Bishop R. L. Johnson
Fountain Green

Dear Brother

We intend
resuming work upon the temple and
tabernacle soon, and would like to
know what resources we may expect
to count on the work. How therefore
will please inform me, as soon as
possible, how much tithing, in
kind, you have on hand, or expect
to have the coming spring.

Your Brother in the Gospel

Brigham Young



左ページ, 左上——レッド・クリフ, アル・ラウンス画。ヤング大管長はこの地をセントジョージ神殿の敷地として選び, その奉献式を管理した。

左ページ, 中央上——ブリガム・ヤングが冬を過ごしたユタ州セントジョージの別荘。1935年(推定)。

左ページ, 下——1866年のブリガム・ヤング大管長の手紙。ソルトレーク神殿建設推進への新たな決意が示されている。グレゴリー・P・クリストファーソン氏の厚意により掲載。

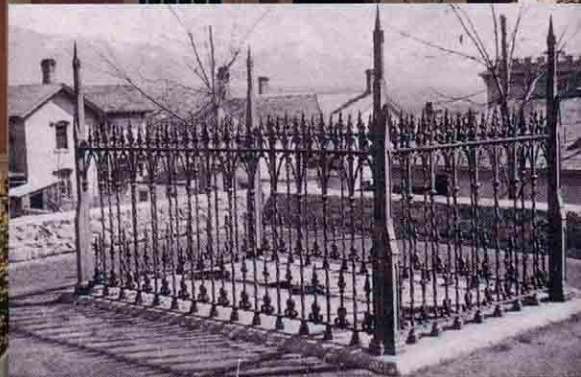
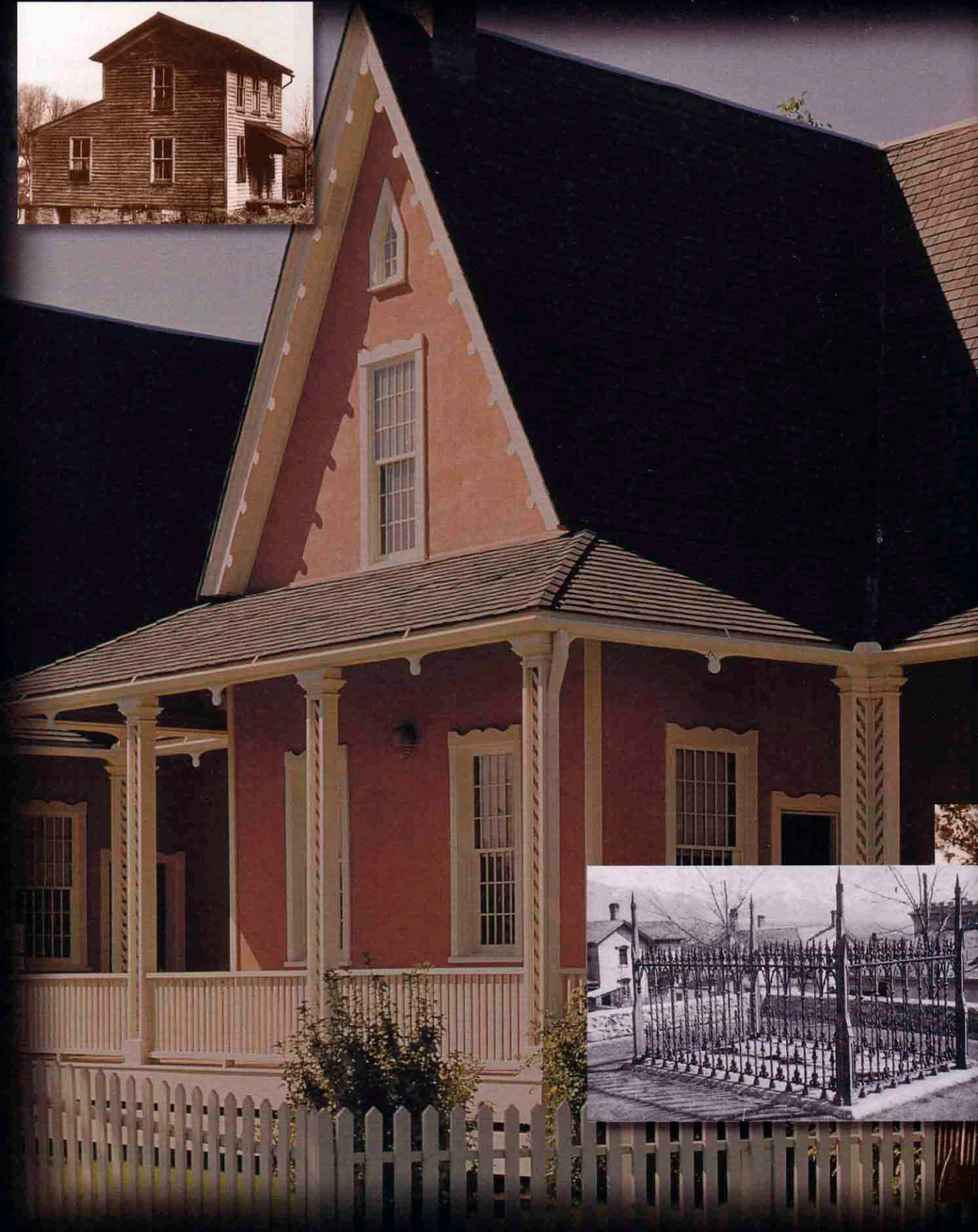
右ページ, 左上——ソルトレーク神殿基礎部の立体写真。

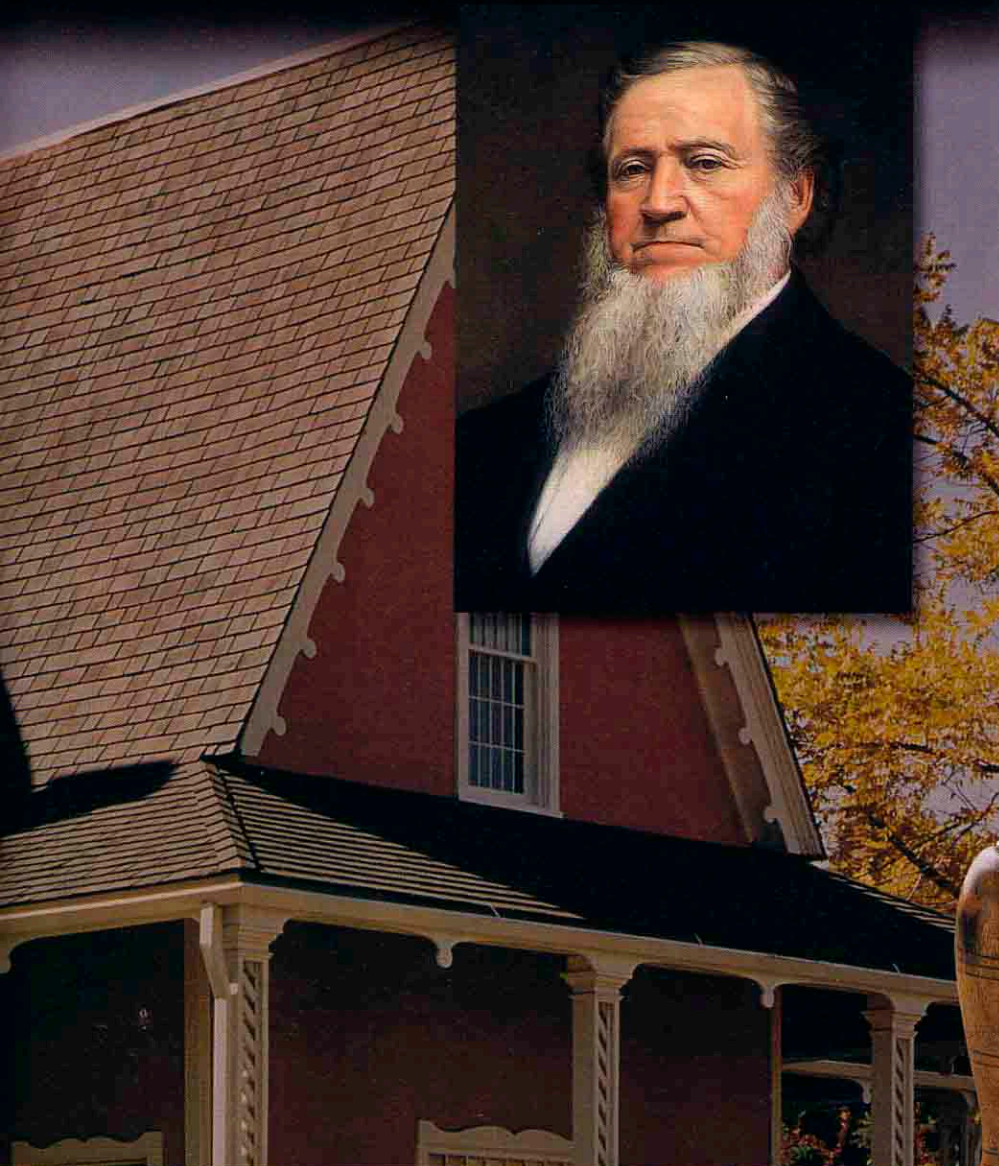
右ページ, 右上——ブリガム・ヤング大管長, 1872年, 71歳(推定)。

右ページ, 下——ブリガム・ヤングのモノグラム(氏名の頭文字などを図案化した組み合わせ文字)を付した傘の先端部。金と真珠貝が用いられている。教会歴史美術館の厚意により掲載。

背景——ソルトレーク神殿建設初期の様子。写真/C・R・サベジ。背景は1875年に奉献されたソルトレークタバナクル。左手には1851年から1852年にかけて開拓者が建設した傾斜式の屋根の旧タバナクルが見える。







左ページ、上——結婚した当時のブリガム・ヤングは、まだ教会員ではなく、ニューヨーク州ポートバイロンのこの家に住んでいた。

右ページ、右上——ブリガム・ヤング大管長の肖像画。ジョン・ウィラード・クロウソン画。

左ページ、右下——ソルトレーク・シティにあるヤング大管長の墓地。1882年ごろ。写真/チャールズ・W・カーター。

右ページ、左下——イリノイ州ノーブーのブリガム・ヤングの住居。1907年撮影。

右ページ、右下——ヤング大管長が、家族を食事や祈りのときに呼ぶために使った真鍮製のベル。教会歴史美術館の厚意により掲載。

背景——1863年に建てられたフォレストファームのヤング大管長の住居。最初はソルトレーク・シティから6キロの所にあった。ヤング大管長はこの家に一度も住んだことがなかったが、この農場は彼の大人数の家族の生活を支えた。特に休日に、彼はよくこの農場を訪れ、実験的な農業技術を訪問客や政府の高官などに披露した。この住居は後に「ディス・イズ・ザ・ブレース州立公園」に移築され、開拓者たちの生活を今に伝えている。



特に記述のあるものを除き、写真は教会歴史部記録保管課の提供による。



ナアマンの バプテスマと 清め

トラビス・A・アンダーソン

悔い改めとバプテスマに関する『聖書』の記述で最も教訓的なものの一つは、列王紀下の第5章ですが、この記述は一見そのどちらにも関係がないように見えます。それは、ナアマンの物語です。

「スリヤ王の軍勢の長ナアマンはその主君に重んじられた有力な人であった。主がかつて彼を用いてスリヤに勝利を得させられたからである。彼は大勇士であったが、らい病をわずらっていた。」(列王下5:1)

古代の世界でらい病は、ほとんどの場合、汚れと関連づけられていました。ナアマンの強さと成功にもかかわらず、その当時の人々の目に、ナアマンは汚れた人として生涯を閉じようとしているように見えたのは皮肉なことです。

らい病の広がりを押さえるためにイスラエルに与えられた指示の中には、特別な儀式と清めの宣言がありました。例えば、レビ記第13章を読むと、祭司はらい病の疑いのある人を7日間隔離し、その後その人の病気がほんとうにらい病なのかを判断するために再検査する習わしになっていたことが分かります。もしらい病でなければ、その人の衣服を洗い、清い者であると宣言されました。もしらい病と診断されると、再び隔離されました。2度目にらい病患者であることが判明すると、その人は汚れている者と宣言され社会から追放されたのです。

もし祭司が病気が全快したと判断したら、らい病患者は癒されたというよりはむしろ清められたと見なされました。同様に、『新約聖書』でらい病患者の癒しについて述べるとき、その癒しの過程を特に清めと記していません(マタイ10:8; 11:5参照)。

儀式による清めに関するこれらの例は、霊的な清めによく似ているところがあります。罪を犯すことによって

わたしたちは霊的に汚れた状態になります。罪は、わたしたちを神と神の義にかなった子供たちとの交わりから切り離します。罪が高じると、霊的な死を招きます。ナアマンのらい病の例に見られるように、わたしたちがこの世でどんな偉大なことを達成しても、罪を犯すことによってそれらのことがすべて水泡に帰してしまうのが分かります。

しかし聖文では、罪が高じてどんなに悪い状態になってしまったとしても、贖いあがなの効力は存在する、と教えています。わたしたちが罪の赦しゆるを得て、さらに恐ろしい霊的な結末から逃れられるように、主が道を備えてくださったからです。主はわたしたち一人一人に手を差し伸べ、バプテスマと悔い改め、そして清めを受ける力を与えてくださったのです。ナアマンがらい病から清められた過程と、人が罪から清められる過程がよく似ているのは偶然ではありません。

サムリアにいる神の預言者ならナアマンの病気を癒せると捕らえた僕から聞くと、ナアマンは預言者エリシャの家に向かって旅立ちました。そこで、彼は自分の財産を携えて行き、主の預言者から直接その汚れを治してもらうことを願ったのです。ナアマンの願いにこたえて、エリシャは使者を送ってこう指示しました。「ヨルダンへ行つて7たび身を洗いなさい。そうすれば、あなたの肉はもとにかえて清くなるでしょう。」(列王下5:10)

ナアマンは、ヨルダン川に7度入りなさいという指示に腹を立て、従うことを拒否しました(列王下5:11—

ナアマンが自分のらい病から清められることを願ったとき、エリシャは僕を送り、ヨルダン川に入るように指示しました。

12参照)。ナアマンは、らい病患者を癒すためにイスラエルで求められる7日間の隔離と、らい病患者が清めの宣言を受けるために必要な儀式の象徴的な意味をまったく知りませんでした。ナアマンは、謙遜、従順、信仰の大切さにも気がつかなかったのです。

ナアマンは、次の二つのことに腹を立てたようです。第1に、エリシャがナアマンに敬意を表して個人的に対応せず、僕を通して話したこと。第2に、預言者の手でもたらされる劇的な奇跡によって癒されるのではなく、ナアマンの簡単な行為が求められたことです。

わたしたちは、ここに再び霊的な類似点を見いだします。ナアマンの例のように、主は悔い改めとバプテスマに関する教えを含む福音のメッセージを自らの口を通して伝えたり、劇的な方法で伝達したりするのではなく、ほとんどの場合むしろ謙遜な僕や御霊の小さなささやきを通して伝えられるのです。主は奇跡的なしるしや個人的な示現を求める人々の虚栄心を満たそうとはされないので。

さらに、ナアマンに与えられたエリシャのメッセージのように、悔い改めてバプテスマを受けなさいという勧告は、わたしたちが考えている以上のこととそれ以下のことの両方をすぐに行うよう求めています。悔い改めてバプテスマを受けることは、非常に大きな犠牲や試練までは必要としません。しかし、偉大な業績を1度だけ行う代わりに、へりくだって主に従い、奉仕していくという生涯にわたる決意が求められるのです。罪の赦しを受けるには、わたしたちもナアマンのように自らへりくだり、わたしたちを清める神の力を信じなければなりません。わたしたちは、権能のある神の僕からバプテスマを受けるために進んで水の中に入るように自由意志を行使しなければなりません。霊的な清めもまた、偉大な奇跡と同様に、目には最も見えにくいものです。それは、人の外見ではなく、人の内面を清めるからです。

ナアマンは、自らへりくだり、預言者の指示に従った後によく清められました。ナアマンが腹を立てて拒絶した後に、僕たちはナアマンがヨルダン川に行くように説得したのでした。

「その時、しもべたちは彼に近よって言った、『わが

父よ、預言者があなたに、何か大きな事をせよと命じて、あなたはそれをなさらなかったでしょうか。まして彼はあなたに「身を洗って清くなれ」と言うだけではありませんか。』

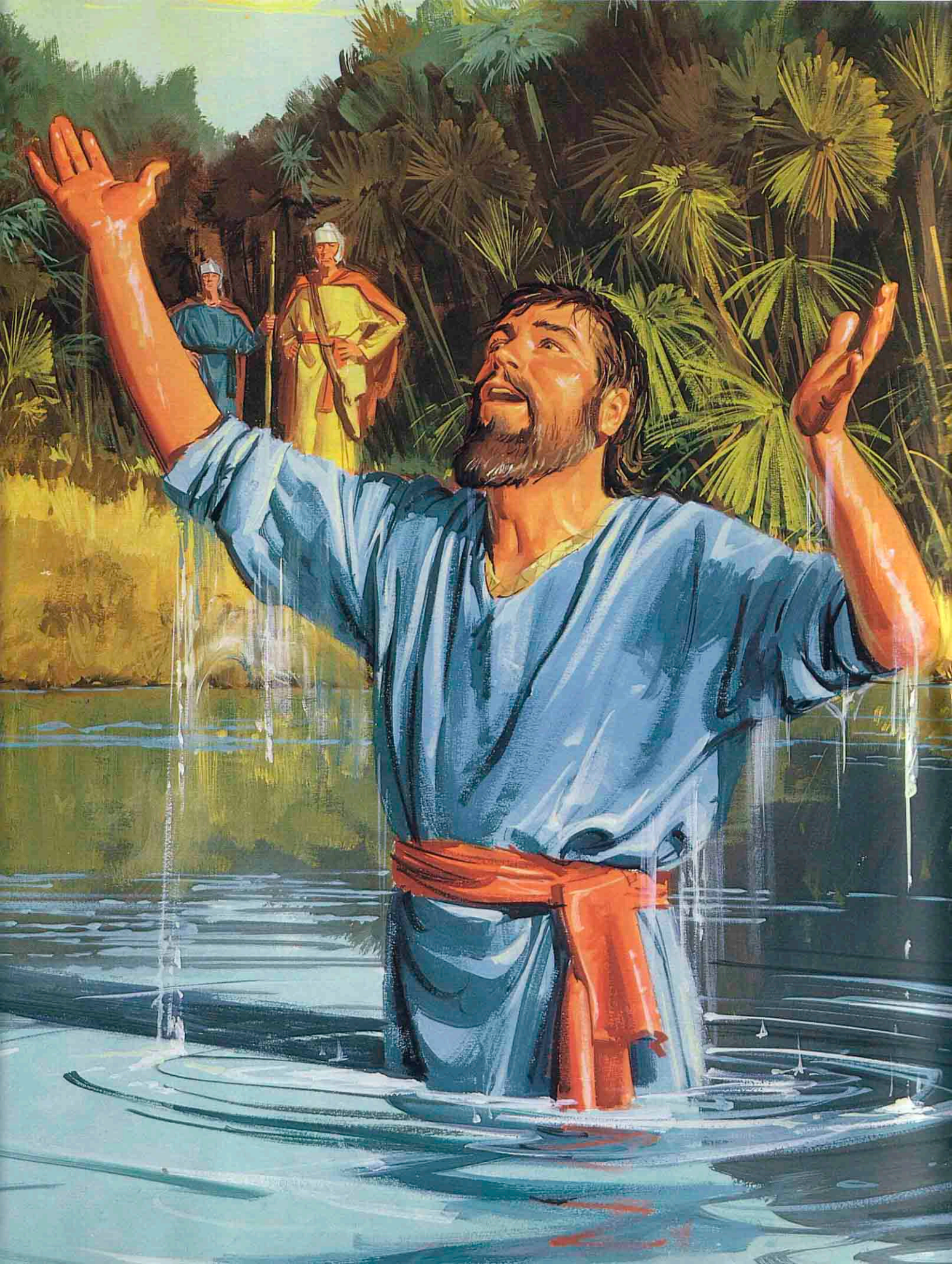
そこでナアマンは下って行って、神の人の言葉のように7たびヨルダンに身を浸すと、その肉がもとにかえて幼な子の肉のようになり、清くなった。」(列王下5：13-14)

ナアマンはイスラエルの水や水に体を浸す行為の中に特別なことがかかっているのを何も見いだしませんでした。そうです。ナアマンは、このような行為そのものによって癒されたわけではありません。神の力により癒されたのです。バプテスマについても同じことが言えます。水に沈めるという定められた方法を通じ、正しい権能を持った神権者により執行されなければなりません。バプテスマそれ自体が人を清めるわけではありません。人を清めるのは、神の力なのです。

水に沈めるバプテスマは象徴です。それは、キリストの埋葬と復活、すなわち罪を犯した人々が復活するために自らの命をささげ、贖いの犠牲の力を通して、霊的に活力のある者へと生まれ変わることを指し示しているのです。パウロはこう説明しています。

「それとも、あなたがたは知らないのか。キリスト・イエスにあずかるバプテスマを受けたわたしたちは、彼の死にあずかるバプテスマを受けたのである。すなわち、わたしたちは、その死にあずかるバプテスマによって、彼と共に葬られたのである。それは、キリストが父の栄光によって、死人の中からよみがえらされたように、わたしたちもまた、新しいいのちに生きるためである。」(ローマ6：3-4) □

バプテスマは象徴ですが、新しい霊的な生活を送るためへの真の入り口でもあるのです。誠実な悔い改めが伴う人に対して、主は儀式を通して霊的な死の陰からわたしたちを解放し、幼子のように清くしてくださるのです。ナアマンがその良い例です。





初等協会

大きな喜び

フローレット・ラナイブジョン

写真/ロナルド・L・ナイトン、マーウィン・ウエイト

わたしは初等協会で奉仕できることに心から感謝しています。子供たちは生まれつき天父の名を賛美し、愛し、ほめたたえることができると感じます。聖文や生ける預言者のメッセージや勧告について話すと、子供たちはとても大きな関心を示します。わたしたち自身の子供も、わたしたちが初等協会で教えている子供たちも、皆、わたしたちに多くのことを期待しています。わたしたちの愛を感じています。

現在、わたしはマダガスカルのアタナナリボ地方部の初等協会会長を務めています。わたしたちの地方部の初等協会の子供たちは、ソルトレーク・シティーの教会歴史美術館が主催した「150周年記念子供の美術展覧会」に参加しました。感謝状を受け取ったときの子供たちの喜びようといったら大変なものでした。

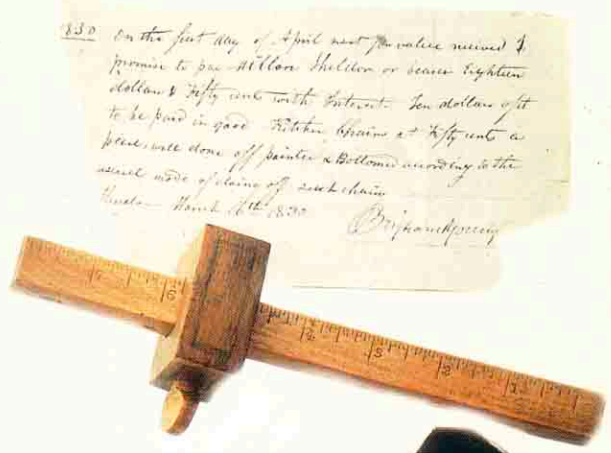
わたしたちの国の教会の開拓者として、わたしは初等協会がこの教会の礎の一つであることを知っています。マダガスカルの子供たちに、そして彼らを通して全世界の人々に、イエス・キリストについて証をするときに感じる喜びはいかに大きいことでしょうか。□

ラナイブジョン姉妹(右上)をはじめ、アタナナリボ第4支部の初等協会に働く会員たち(上、右)は、福音の喜びを自分の教える子供たちと分かち合っている。





「ヨセフ、兄弟たちに自分のことを明かす」 パロン・フランスワ・パスカル・ジェラード画。ムーゼス・ダンジャーズの厚意により掲載。
「ヨセフは兄弟たちに言った、『わたしに近寄ってください。』彼らが近寄ったので彼は言った、『わたしはあなたがたの弟ヨセフです。あなたがたがエジプトに売った者です。しかしわたしをここに売ったのを嘆くことも、悔むこともありません。神は命を救うために、あなたがたよりさきにわたしをつかわされたのです。』（創世45：4-5）



今月号の記事「写真で見るブリガム・ヤングの生涯」(36ページ)に掲載された写真、絵画、遺品の数々を通して、末日聖徒イエス・キリスト教会の第2代大管長の生涯とその教導の業に対する興味深い洞察が得られる。



2902989863004



ガーナ神殿の建設予定発表される

スティーブ・フィデル



アクラの大統領官邸にてジェリー・ローリングス大統領より歓迎を受けるヒンクレー大管長。

写真/スティーブ・フィデル。『チャーチニュース』(Church News)の厚意により掲載。

チャーチ・ニュース

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、ガーナに神殿を建設するという計画を2月16日に発表した。この神殿は西アフリカで最初の神殿となる。新しい神殿に関する発表は、ヒンクレー大管長のアフリカ歴訪中、第2の滞在地であるガーナの首都アクラで行われた。

西アフリカを訪問する教会最初の預言者、ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、神殿の建設に関する発表を行う前に、会員一人一人がいっそう新会員のことを気に留めフェロシップするようチャレンジした。「新会員の肩に手を置き、彼らが教会を身近に感じられるように助けてください。王国の教義を教えてください。ありとあらゆる方法を用いて、彼らの友人となり、彼らを助けてください。もしこのことを実行するならば、この地に神殿が建てられるという祝福を頂くことができるでしょう。」

2月16日の朝早く、ヒンクレー大管長は、十二使徒定員会会員のジェフリー・R・ホランド長老、アフリカ地域会長会長である七十人のジェームズ・O・メーソン長老とともに神殿の建設予定地

を訪れた。

同日の午後、戸外で、約6,700人の会員がアクラのインディペンデンススクウェアに集う中、ゴードン・B・ヒンクレー大管長は次のように語った。「長い間、皆さんは神殿がない状態で過ごしてこられました。5年前に、[大管長会の一員として]こちらを訪問をさせていただいたとき、神殿建設用地を探そうとしました。そのときはどこにも適当な場所を見つけることができなかったのので、この件については、だれにも、何も話しませんでした。」

しかし、2月16日の月曜日にわたしたちが払った努力は、前回になかったような結果をもたらしてくれました。すばらしい神殿用地の購入が、今日の朝、ついに認可されたのです。この用地は1.5ヘクタールで、アクラが目抜き通りに面した住宅地域の一角にあります。」

このニュースを最初に聞いたのは、ガーナの大統領ジェリー・ローリングス氏だった。ローリングス大統領は、正午間もなくアクラの大統領官邸でヒンクレー大管長と会見した。教会の

指導者であるヒンクレー大管長は大統領に次のように語った。「わたしたちは教会の会員を収容できる建物をこの国にもっとたくさん作ろうと考えています。恐らく神殿もこの地に建てることになるでしょう。」

ローリングス大統領はヒンクレー大管長に、教会をこの国に受け入れ教会の目的が達成できるように支援すると語った。末日聖徒が政府に反対する行動を取っているという誤った報道が流されたため、ガーナ政府は1989年に教会を閉鎖した。そのようないきさつがあるだけに、大統領のこの言葉には特別な意味がある。当時、教会は封鎖され、警察の監視下に置かれ、会員は自分の家の中で隠れて集会を開くことしかできず、外国人宣教師はすべて国外へ追放された。

宣教禁止令は、1990年12月1日に撤廃されたが、1998年2月16日にガーナの大統領とヒンクレー大管長の間で行われた会見によって、1989年の出来事に公的な終止符が打たれた。「争いのもととなった要因を取り除いていかなければなりません」とローリングス大統領は語った。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、インディペンデンススクウェアに集った人々に、新しい神殿の完成には数年を要すると語った。「この神殿が完成された暁には、はるばるロンドンやヨハネスブルクまで行かなくても、主の祝福にあずかることができます。」

ヒンクレー大管長は、神殿が完成するまでの間、努力して神殿推薦状を得ることにより自らを備えるよう会員たちを励ました。

ジョセフ・W・B・ジョンソンにとって、この神殿建設の発表は、15年間待ちに待ったニュースだった。ジョンソン兄弟は、西アフリカの教会にあって、開拓者の人物の一人である。1964

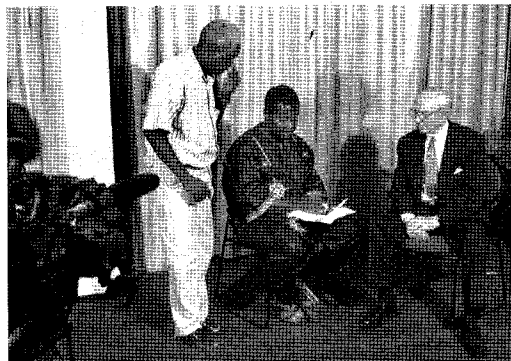
年、末日聖徒イエス・キリスト教会の出版物と『モルモン書』を読んだジョンソン兄弟は、この教会の様式に倣って集会を開いた。非公式な集会に集った人々は、宣教師がガーナに到着した1978年にバプテスマを受けることになった。

ジョンソン兄弟は、バプテスマを受けてから数年後に見た夢を思い出した。その夢の中で、ジョンソン兄弟は過去に亡くなった人々の霊から、自分たちのために何をしてくれるのか尋ねられた。自分に一体何ができるのだろうか。ジョンソン兄弟は、神殿に参入できないでいる状態で、いろいろと思い巡らした。

ヒンクレー大管長の神殿建設に関する発表を聞き、ジョンソン兄弟は次のように語った。「これから先祖のために神殿の御業を始めることができます。」

ホランド長老は、ガーナの聖徒たちを開拓者と呼んだが、現代の開拓者と過去の開拓者の違いを次のように指摘した。

「幾つもの神権時代にわたって、聖徒たちは集合してきました。母国を離れてほかの国に移動したのです。これ



はほとんどの神権時代にも言えることです。ただこの最後の、最も偉大な神権時代は別です。」

「今日、わたしたちは、自分の住む土地、国、地域、国家、町で、つまり、いながらにして成長し、発展できるのです。時と環境がそのように恵まれた時代だからこそ、こうして教会の大管長が自らわたしたちの国まで足を伸ばしてくださるのです。皆さん全員がソルトレーク・シティーまで行く必要はありません。また、世界中のどこの国民であれ、どの国の会員であれ、ソルトレーク・シティーまで旅をする必要はないのです。ヒンクレー大管長がわたしたちの国を訪問し、祝福してくださいとは、何と恵まれた時代にわたしたちは生を受けているのでしょうか。自国にいながら、自らの礎を築き、成長し、発展でき、偉大な末日聖徒の伝統をわたしたちの子孫に連綿と伝え、どこにあっても成長できるのです。」□

『チャーチニュース』(Church News)の厚意により、1998年2月21日付けの記事より掲載。

イギリス・プレストン神殿のオープンハウスと奉獻

新たに完成したイギリス、プレストン神殿のオープンハウスが1998年5月16日から30日の間に行われた。

神殿の奉獻式は、1998年6月7日より6月10日の4日間にわたって行われる。神殿の参入対象区域に住む会員ができるかぎり多く参加できるようにという配慮から、奉獻式は15回に分けて行われることになっている。この神殿の参入対象区域には、スコットランド、アイルランド、北ウェールズ、イングラ

ンド中北部に散在する21のステークが含まれる。儀式執行の部屋が4つ、結び固めの部屋が4つ、バプテスマの部屋が1つあるこの新しい神殿は、複合式建物の一部となっている。同じ建物の中にステークセンター、宣教師訓練センター、配送センター、神殿長夫妻および宣教師用宿舎を完備している。

プレストンの郊外のチャーリーに位置するこの神殿は教会で52番目の神殿となる。イギリスで最初の神殿である

ロンドン神殿は、リングフィールドに位置し、1958年に奉獻された。

プレストン神殿の建設は、1992年、ロンドン神殿の再奉獻の際に当時第一副管長であったゴードン・B・ヒンクレー長老によって発表された。プレストン神殿は白いかこう岩を使って建築されており、まっすぐにそびえる尖塔の先に金ばくの天使モロナイ像が立っているのが特徴である。□

ブリガム・ヤング大学、イスラム教の原書を翻訳・出版する

教会本部対政府広報局
キャサリン・ベイヤー

イスラム教国主要10か国を代表する外交官が、著名な教会代表者とともに、2月3日ワシントンで開かれた晩餐会ばんさんかいに出席し、ブリガム・ヤング大学出版によって手がけられたイスラム教に関する翻訳の初版印刷を祝った。

十二使徒定員会会員のニール・A・マックスウェル長老、ブリガム・ヤング大学のメリル・J・ベイトマン学長、そして国会議員を務める末日聖徒の面々が、12世紀のイスラム教哲学者アル・ガザリ作『哲学者の矛盾点』(The *Incoherence of the Philosophers*) の翻訳・出版を記念するため一同に会した。今後ブリガム・ヤング大学は一連の翻訳を出版していく予定だが、その第1作では、モハメッド以来の哲学者の中で最も偉大と評される一人のイスラム教徒に焦点が当てられている。

「ブリガム・ヤング大学の努力により、アラブとイスラム教の世界においてことのほか大切なこの書物が西欧に紹介されることをほんとうに誇りに思っています」とヨルダン大使のマルワン・ムアシェル氏は語った。

この書物の原書をコンピューターに入力し、編集し、さらには出版するための準備の全行程を監督したブリガム・ヤング大学アジア・中近東学教授のダニエル・C・ピーターソンは、「今回の仕事は、今までわたしが携わった仕事で、最も意義深いものだと言えます」と語っている。この書物を通して、多くの偉大な思想家たちが自分たちの思想を自ら読者に語る機会を与えられた。

マックスウェル長老は、古代イスラム教の原書の翻訳・出版を手がけたブリガム・ヤング大学の努力により学生や学者たちが知識を得られるようになったことを喜んでいる。イスラム教に関する書物の多くは、まだ現代の言葉に翻訳されていないからである。「光と真理は査証がなくとも世界のあらゆる所を進み行くことができ、旅券がなくとも



イスラム教翻訳シリーズ第1作目の出版を祝つとともに晩餐会ばんさんかいに出席するニール・A・マックスウェル長老、ヨルダンのマルワン・ムアシェル大使、合衆国上院議員のハリー・リード兄弟とランドラ夫人、メリル・J・ベイトマン長老。

写真/マーク・フィルブリック。『チャーチニュース』(Church News)の厚意により掲載。

自らを証明することができるのです。なぜなら光と真理は神から来るからです。わたしたちは神と神の業をほめたたえます」とマックスウェル長老は語り、さらに外交官に向けての話が続いて次のように付け加えた。「光のある所には、温かな気持ち、兄弟愛、姉妹愛があふれています。わたしたちは次のことを信じています。神の光を通して物事を見るときに、物事のほんとうの姿が、現在と未来にわたって見えてきます。また、そのとき初めて自分たちのあるべき姿を知ることができるのです。」

ボスニアヘルツェゴビナ、エジプト、インドネシア、ヨルダン、クウェート、キルギス共和国、モロッコ、パキスタン、シエラレオネ、トルクメニスタンを代表する大使と外交官が、合衆国議会に属する8人の末日聖徒と異文化交流の夕べで夕食を共にした。多くの外交官にとってこの晩餐会は、末日聖徒イエス・キリスト教会とその教えに触れる最初の機会となった。

ピーターソン教授は次のように説明した。「世界中に住む10億のイスラム教徒、北アメリカに住む数百万のイスラム教徒には何らかの秩序があります。しかしながら、西欧人のイスラム教に関する知識は非常に限られており、実際、人々

は間違つた知識を多く持っているのです。西欧人のイスラム教に関する理解を増すために最も必要なことの一つは、正確で、信頼でき、またすぐに入手できるイスラム教の書物の翻訳です。」

ベイトマン学長は「世界がわたしたちのキャンパス」というブリガム・ヤング大学の有名なキャッチフレーズを引用して、「イスラム教に関する一連の翻訳書を当大学が出版することになりますが、これはこの大学が世界的規模で研究を行い、地球的規模で物事を理解していく決意の表れです」と語った。現在、それぞれ進行状況は違うが、『哲学者の矛盾点』以外にもイスラム教関連の書物が8冊、翻訳・出版される予定である。翻訳は世界中の数多くの学者が、出版はブリガム・ヤング大学出版、配送はシカゴ大学出版が担当する。

「この書物の翻訳には目を見張るものがあります。また、わたしたちの考え方を知らうと努力しておられるこの教会とブリガム・ヤング大学に対して大いに親近感を覚えます」とパキスタンのシャナズ・コッカー夫人は語った。夫のパキスタン大使リアス・H・コッカー氏も「今や多くの人にわたしたちの文化も彼らの文化とそれほど違わないことが分かってもらえるのではないでし

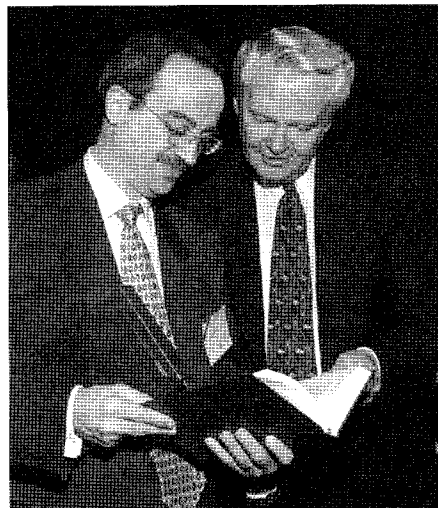
ようか。」と語り、次のように付け加えた。「東西両世界間におけるイスラム教の対話を見たのは、アメリカに来て11か月になります。これが初めての事です。」

イスラム教翻訳シリーズの編集長であるイスラム教徒のバルビス・モアウェッジ博士は、教義と聖約第93章から聖句を引用し、末日聖徒が学問を修め知識を採求することに対して熱心であることを称賛した後、次のように語った。「この団体〔末日聖徒イエス・キリスト教会〕は、キリストの教えを忠実に実践し人々に教え広めている真のキリスト教会だと断言できます。この大学、この教会、またその学者たちは、キリスト教徒やアメリカに住む人の価値観を

変えるばかりではなく、全世界に住む人々に恵みをもたらしてくれます。末日聖徒が示す兄弟愛と思いやりは21世紀に向けて我々の子孫に平和の希望を抱かせ、彼らが平安に生活できる道しるべを示してくれることでしょう。」

カリフォルニアに住む下院議員ロン・パッカード兄弟は次のように付け加えた。「この翻訳シリーズは、古代の文化遺産、すなわちイスラム教世界の哲学者が残していった思想と著作の研究において新たな分野を切り開きました。今日、わたしたちはこの偉大な情報の恩恵にあずかれるようになったのです。」□

〔チャーチニュース〕(Church News)の厚意により、1998年2月14日付けの記事より掲載。



翻訳の一部を見るベイトマン学長とムアシエル大使。
写真/マーク・フィルブリック。
〔チャーチニュース〕の厚意により掲載。

スミス家の丸太小屋、複製が完成

ショーン・D・スタール

ジョセフ・スミスが成人するまで住んでいた丸太小屋は、時の流れと天候と人の手によって、長い間荒らされるに任されていたが、20年に及ぶ調査と時代考証の末、ついに再建築された(スミス宅について、詳しい情報が必要な方は、添付の記事「丸太小屋に8年間住んだスミス家」を参照)。

1月14日、15日の両日、スミス家の丸太小屋が建っていた敷地内に、家の骨組みが建てられた。

3月に完成したスミス宅の複製は、ジョセフが1820年の早春に家のドアを開け、あの聖なる森へ向かって歩いて行ったときのそのままの姿でよみがえった。

教会歴史部の主任調査員でこの建築の行程にも携わったドナルド・L・エンダースは「今日、スミス宅を再建することは意義深いことであり、わたしたちにとって神聖な意味があります。また、この家こそ過去の予言が成就した所です」と語った。

「この家の詳細は、広範囲にわたる調査、時代考証、さらにはバーモント州とニューヨーク州西部にある丸太小屋を30軒以上見て回った結果分かったものです。れんが造り、窓、戸、暖炉、

寝室わきの通路は、歴史的な見地から見て、できるかぎり当時の形が再現されるように復元しました」とエンダース兄弟は言っている。

「歴史に基づいて正確に復元し昔の納屋を再建できる腕の立つ職人を見つけられたのは、教会としては幸いなことでした」と彼は続けた。

この丸太小屋の複製建築は、七十人のマーリン・K・ジェンセン長老の指導の下に、教会史跡委員会が、請負業者、建築家、地元の作業員との調整も含むすべての作業工程を管理運営して行われた。

「わたしたちはこの歴史的な事業に対して霊的な気持ちを感じました。そして最後の丸太が置かれたとき、大きな歓声がわきました」とバルマイラの史跡で妻のバーバラ夫人とともに奉仕している広報宣教師リチャード・ハーバートソン長老は語った。

複製の建築作業はセミトレーラーが丸太を積んでスミス宅があった敷地に到着した1月14日から始まった。

吹雪や凍えるような寒さのため、建築を延期しなければならないような状況に追い込まれたこともあったが、バ

ルマイラ地区の史跡を監督するチャック・キャンフィールド長老は、計画を押し進める決断を下した。

「実はその後、天候が回復したのですよ」とキャンフィールド長老は語った。吹雪は収まり、気温も上昇した。その日の夜、作業を終えるに当たって祈りをささげるまで二度と雪は降らなかった。

丸太は、1997年2月にスミス家の農場を取り囲む森の中から切り出され、同年ニューヨーク州ケズノビアの請負業者が斧で適当な長さに切断していた。そして彼らは開拓時代の建築技術に倣い、丸太を加工して二重の平たい壁を造った。

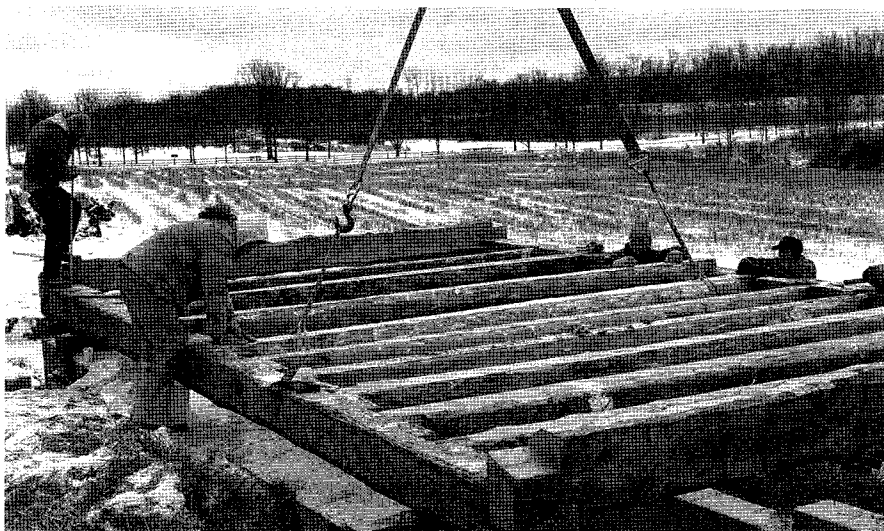
またエンダース兄弟はこのように話している。「小屋はいろいろな種類の木を使って造りました。悪天候の中でも耐え得るほどしっかりしていて頑丈な種類の木材を使用する必要がありました。ストロブマツ、鉄樹、かし、くるみ、などがおもに選ばれました。そのほか、ぶな、とねりこ、ヒッコリーなどの硬木は壁を造るために使用され、かえでの木はたるきを造るために用いられました。」

丸太小屋の複製はスミス家の農場に運ばれる前に、請負業者の手ですべて一度組み立てられ、丸太の一つ一つにラベルがはられ、分類され、教会の注文に合わされていた。

建築現場で請負業者は地元の教会員の助けを受けて、トレーラーから土台を築くために用いる木材を持ち上げ、丸太小屋の複製建築に取りかかった。

次の日の午後、最後のたるきがしかるべき場所に設置されると、複製完成の姿を一目見ようと集まった人々の間から一斉に喚声が起こった。祈りをささげた後、作業中やんでいた雪が再び降ってきた。

「多くの点で、複製の建築は原型であるスミス家の丸太小屋を建築するのと似ていました」とハーバートソン長老はこれまでのことを振り返りながら語った。どちらも、地元の人々が力を合わせて一生懸命働いた結果できたものであり、収穫の時期から春になるまでの間に建てられた。



二日足らずで、丸太が設置され完成を見たスミス宅。
写真/ボブ・ウォーカー。『チャーチニュース』(Church News)の厚意により掲載。

「この家は神聖な場所です」とエンダース兄弟は語った。「ここは父なる神と御子イエス・キリストがジョセフを訪れた特別な地です。天父が訪れた場所が世界中に一体幾つあるでしょうか。」

この家こそ、福音が回復されるといふ神聖な約束を主から賜ったジョセフが、聖なる森から帰って来たあの家なのである。□

『チャーチニュース』(Church News)の厚意により、1998年1月24日付けの記事より掲載。

丸太小屋に8年間住んだスミス家

シオン・D・スタール

何年も凶作が続いたため、1816年にジョセフ・スミス・シニア一家はバーモント州を離れ、ニューヨーク州パルマイラ近郊の農場へ移住せざるを得なかった。

移住先の村は、当時人口約600人の小さな村だった。しかしエリー運河の建設に伴ない、この地域は農業および商業の重要な中心地としての発展が見込まれていた。

スミス家の財源は乏しく、そのために家族内で働ける人は様々な仕事に就いていた。父ジョセフ・スミス、アルビンそしてハイラムは日雇い労働者として井戸を掘り、石材の壁や暖炉を作り、作物の収穫をし、また木を伐採し、販売して生計を立てていた。

移住から数か月後の1818年の秋には、40ヘクタールの土地を購入する交渉を始めた。

その土地はパルマイラの南に位置し、馬車が通ってきた起伏のあるわだち沿いにあった。1817年から1818年の冬の期間、スミス家は土地の一部を平らにして、丸太小屋の建設に取りかかった。しかし春から秋の農繁期には、様々な支払いを済ませるために働き出かけた。

1818年の秋には丸太小屋が完成した。スミス一家はこの農場に12年間住み、そのうちの8年間、つまり1818年の後半から1825年の春、および1829年の春から1830年後半にかけてこの丸太小屋で過ごした。1825年から1829年までの間、一家は農場の近くの白い木造家屋に住んだ。そして今日、聖なる森を訪れる観光客がこの家に立ち寄り、小屋の建設のため、一家は木を切り倒し、数日かけて馬や牛で運んだ丸太を建築用に整えた。

当時家を建築する際は、近隣でかわるのが習慣であったために、周囲の人々は当然のようにスミス家の家屋建築に手を貸してくれた。

スミス家は貧しさにもかかわらず、当時としては珍しい特徴が備わった丸太小屋を建てた。この小さな家は半2階建てで、階段を通じ1階、2階にはそれぞれ2部屋あり、床面積は5メートル×9メートル四方であった。

スミス家は引き続き農地を開墾し、1820年の春には約12ヘクタールの土地が整備された。

教会歴史部主任調査員のドナルド・L・エンダース兄弟によると、目覚めの春はこのような状況の中で、またこのように農地での厳しい労働のさなかに訪れた。14歳のジョセフが静けさを見いだした場所は、丸太小屋にほど近い場所、前日に父や兄たちが開墾を済

ませた場所付近に位置する森だった。

その森で、ジョセフが初めて声に出した祈りにこたえ、天父と御子が少年ジョセフに御姿を現し、ジョセフには偉大な業が備えられていることを伝えられた（ジョセフ・スミス—歴史1：14, 20参照）。

それから2, 3年間、出稼ぎで息子が数人留守になる時期を除き、この丸太小屋はこの10人家族でひしめき合うことになる。

1823年9月、預言者の家族が収穫で忙しいこの時期に、丸太小屋の寝室でジョセフは天使モロナイの訪れを受けた。

エンダース兄弟の話では、この夜、ジョセフは一日の仕事を終えて、家族とともに暖炉を囲み宗教の話をしていたようであった。ジョセフはその晩いろいろ思いを巡らしていた、とジョセフの母は語っている。

家族が床に就き、兄弟たちも皆眠ってしまったから、ジョセフは祈りがこたえられるという確信をもって祈った。すると神の使いと名乗るその方が現れ、部屋中が明るくなった。

エンダース兄弟は次のように説明した。モロナイはジョセフに秩序ある、正しい生活をするように勧告した。そして神はジョセフの祈りを聞かれたと伝え、慰めを与えた。そして神はまた、この大陸の先住民にもたらされた完全な福音が記された古代の記録をこの世にもたらすために、ジョセフを選ばれたことを告げた（ジョセフ・スミス—歴史1：27, 47参照）。

この経験はこの家族全体の生活全般を変えていくことになる。豊かな農場と快適な家を築き、地域社会での立場を確立していくことは、神から賜った神聖な任務を遂行していくことに比べ、さほど重要な意味を持たなくなっていた、とエンダース兄弟は付け加えた。

9月の神聖な経験の後、一家は悲劇に見舞われることになった。11月にジョセフの25歳の兄、アルビンが亡くなった。臨終に立ち会った医師は模範的な青年アルビンについて、パルマイラの中で最も素晴らしい青年の一人と表現した。

しかし少なくともアルビンが亡くなる1年前には、アルビンは丸太小屋のすぐ南に、家族のための白い木造家屋を建て始めていた。アルビンが亡くなったときには、大きな柱はすでに建てられ、木材はすべて仕上げが済み、現場に運ばれていた。アルビンの死の衝撃が和らぐと、一家は近所の人を雇い、家を完成させた、とエンダース兄弟は述べている。

快適な暮らしを求めたスミス一家の努力もむなしく、農場は1825年12月20日にレムエル・ダーフィーの手に渡ってしまった。農場を失うことになった理由は明らかにされていない、とエンダース兄弟は語った。

預言者ジョセフ・スミスが1827年1月の結婚後すぐにエマを迎え入れたのが、この木造の家であった。またその年の9月、ジョセフとエマが生活していたその家で、モロナイがジョセフに金版を託した。

ジョセフは古代の歴史を守るために、金版を炉のれんがの下に置き、後に道を挟んだ向かい側の店の屋根裏部屋へと移した。

しかし迫害や嫌がらせがひどくなり、1827年12月、ジョセフはエマと金版をペンシルベニア州ハーモニーのエマの両親の家へ移した。

スミス家の両親は、1829年の春には木造の家を離れなくてはならないと知っていた。それは数か月前に同意済みのことだった。そして丸太小屋に戻る準備を始めた。

1829年の夏、『モルモン書』の翻訳が完成に近づいたころ、ジョセフは8人の証人に金版を見せるように指示された。ジョセフの父ジョセフ・シニア、兄のハイラムとサムエルはこの8人の中に選ばれた。

証人たちはスミス家の農場に集まり、預言者の家族が個人の祈りをささげるためによく行く場所へと向かった。そこで彼らは金版を目にし、手にすることができたのである。

1829年から1830年にかけての冬が過ぎ、春が訪れたときには『モルモン書』の印刷が完成していた。ジョセフはハ

ーモニーから戻り、丸太小屋で幾度か説教をした。多くの人がこれらの集会に集まり、1階の2部屋を埋め尽くすことがほとんどだった。時には聴衆のあまりの多さで、家の周囲の広い土地や東側の道路にも人々があふれ出すほどであった。

教会が組織された1830年4月6日の歴史的なニューヨーク州フェイエットでの大会の後、ハイラムと父ジョセフは丸太小屋へと戻って行った。

1830年の秋、スミス家がこの農場で過ごしたすばらしい時期は幕を閉じた。9月の下旬、この設立間もない教会の2回目の大会がフェイエットで開かれた。ハイラムは、父母と9歳のルーシーを農場に残し、家族をニューヨーク州コールズビルへ連れて行き、そこで指導者を補佐するように命ぜられた。

父母たちもジョセフの指示どおり、フェイエット近郊のウォータールーへ移り住む予定であった。しかし父ジョセフ・シニアと母は、穏やかなパルマイラでの終幕をともに迎えることはできなかった。

ある知人がジョセフ・シニア所有の14ドルの手形を手に入れ、巡査官とともに農場を訪れ、早急な支払いを要求した。ジョセフ・シニアがすぐに支払えない旨を伝えたとこ、この男は信仰を撤回することを条件に、借金の免除を認めると申し出た。ジョセフ・シニアがその申し出を断ると、巡査官に逮捕され、30日間拘留された。

エンダース兄弟によると、拘留中、ジョセフ・シニアは囚人二人を改宗に導いた。

夫の監禁中、母スミスは農場を去るための最終的な準備に取りかかった。サムエルは荷物をまとめ、家畜を集め、家族を招集した。

教会員と合流するためにウォータールーへ向けて、東へと旅路に就いたスミス家は、彼らの丸太小屋に別れを告げたのであった。□

『チャーチニューズ』(Church News)の厚意により、1998年1月24日付けの記事より掲載。



グラシオサ島で孤独感にさいなまれることなく

カルビン・C・クレグ

ポルトガル沖約1万3,000キロに位置するグラシオサ島は、アゾレス諸島と呼ばれる群島の一部である。大西洋に囲まれたグラシオサ島は、総人口が5,000人を少し上回る程度である。そのうちのアントニオ・メロと妻のフェリスミナおよび二人の子供、パトリシアとウーゴは、現在島に住む唯一の教会員である。

メロ兄弟は1週間島を訪れていた宣教師に対し次のように語った。「現在の状況を神からの試練であると同時に機会でもあると受け止めています。人生では、最も困難な事柄が最大の幸福をもたらすときがあります。」

ポルトガルのリスボンで親友から福音を紹介され、メロ家族は1987年11月22日にバプテスマを受けた。

「家族全員が白い衣をまとった姿はとても美しかったです。新しい希望と新たな観点から、新しい人生が始まるのだと感じました。」とメロ兄弟は当時の様子を語った。

その後の2年間はリスボンで、メロ兄弟はポルトガルのリスボン・オエイラスステーク、アマドラワードで第二副監督の責任を果たして信仰を培った。家族は福音にしっかりと根を下ろしていった。そしてメロ兄弟は生まれ故郷の地に帰り、グラシオサ島プライアで学校長に就任した。

一つの宗教しか信仰されていない島に移り住み、十分確立されたワードの保護から離れるという現実が家族の上に重くのしかかった。しかし主に信頼を置き、メロ兄弟は校長職を引き受けた。「この地に来たのは、恐らく仕事以上の理由があったのでしょうか」とメロ兄弟は語る。

メロ家族が島に移り住んだことは、たちまちに島中の話題となった。一家の宗教についてのうわさは広まり、家族が地域になじもうと努めても、すぐには歓迎されなかった。最初の数か月間は、孤独と誤ったうわさに耐えることが彼らにとって最大の試練のようだった。しかしメロ家族の家が礼拝堂となり、聖なる場所となった。

「教会の集会は、特に自宅で開かれるとなると、大きな影響をもたらします」とメロ兄弟は語った。「日曜日の朝、普段とは異なった日になると認識しながら目を覚まします。そしてあたかも教会堂に出席するかのよう準備をします。」

これまでの8年間、メロ家族は忠実に教会の定例集会を開いてきた。開会行事は10時半に始まり、その後家族は神権会と扶助協会のクラスに分級する。この2、3年は子供たちがリスボンの大学に進学し家を離れているため、レッスンや集会は、両親だけで行っている。普段、メロ姉妹が扶助協会を2階で開き、メロ兄弟が1階に残る。そして各々手引きから直接学ぶのである。

「毎月断食安息日にはともに断食をします」とメロ兄弟が説明した。「これまでの8年間、集会での話、証、賛美歌や祈りはすべて日記に記録してきました。日曜日はバプテスマの聖約を新たにする日であり、この世の問題を忘れる日です。この場に100人の会員と集えなければ、二人で集います。それがわたしの義務であり、特権です。」

メロ家族が人目につかない親切を絶えず施してきたため、地域社会から次

第に受け入れられ、敬意を払われるようになった。今日、彼らは島の人々から信頼を受けている。メロ兄弟が毎週火曜日にラジオで宗教番組を担当することから、より理解されるようになった。回復された教会の預言者の言葉や賛美歌が電波を通じて流れるようになっていく。

メロ兄弟は次のように説明した。「それはモルモン^{ごんもん}のラジオ番組です。以前、人々は福音について個人的に話そうとはしませんでした。わたしは正直、労働、信仰などについての話をすることから始めました。今日では、何の問題もなく、すべての事柄について話せます。」このラジオ番組は常に多くの視聴者に支持されている。

組織された教会の支部で最も近い所は、80キロ離れたテルセイラ島にある。メロ家族は同島のポルトガル・アコレス地方部アングラ支部所属の活発会員と位置づけられている。いつも関心を寄せるテルセイラ島の指導者たちと、常に密接な連絡を取り、この8年間、宣教師から時折訪問を受けた。宣教師の訪問は霊的な助けとなり、宣教師、メロ家族ともに強化されてきた。メロ家族は、将来宣教師がグラシオサ島に定住して、伝道できるように願っている。

メロ兄弟はこのように述べた。「この教会は世界中に発展する教会です。そしてイエス・キリストの教会です。たとえ礼拝堂がなくとも、わたしたちには家庭があります。そして強い証があります。ジョセフ・スミスは神の預



言者であり、ゴードン・B・ヒンクレー大管長が現代の預言者であることに、何の疑いもありません。わたした

ちは大西洋の真ん中にあるアゾレス諸島の最も小さな島に住んでいても、この真理を知っています。いつの日か、

グラシオサ島に住むさらに多くの人々が、今日わたしたちがお話したことを同様に語れるよう願っています。」□

「分かち合いの時間のためのアイデア」追加分 1998年6月

以下は、初等協会の指導者が『聖徒の道』1998年6月号に掲載の「分かち合いの時間」とともに使用できる、「分かち合いの時間のためのアイデア」追加分である。これらのアイデアに対応するレッスン、指示、活動は、この号の「こどものページ」の8ページ「しゅをしんらいしなさい」を参照する。

1. 子供たちが箴言第3章5節と6節を暗唱できるよう助けるために、子供たちを4つのグループに分け、それぞれのグループに聖句の一部を暗記するよう割り当てる。練習のため、割り当てられた聖句を静かにグループ内の全員で一斉に繰り返させる。その後、それぞれのグループを順番に立たせ、割り当てを斉唱するように指示する。同様にしてさらに1,2度繰り返す。次に全員が聖句全体を暗唱できるよう以下の練習をする。あるグループに黙っているよう指示し、そのグループに割り当てられている聖句をほかの全員に斉唱させる。一巡するまで続け、最後に全員が聖句を正しい順序で斉唱して終わる。

2. 何枚かの紙に、子供たちが知り、尊敬している人々の名前を一つずつ書く。例として、監督、ヒンクレー大管長、聖文の中や教会歴史初期の英雄などの名前が挙げられる。名前を書いた紙を入れ物に入れる。一人の子供にその入れ物から名前の紙を1枚引かせ、書かれた名前を大きな声で読み上げさせる。読み上げた名前の人物の良い点を一つ挙げるよう、子供たちに指示する。別の子供を選び、次の名前を引かせる。入れ物にある名前がすべてなくなるまで同様に続ける。そして子供たちに次の質問をする。「みんながあなたの名前を聞いたとき、何と言ってもらいたいですか。」もし正義を選ばな

らば、自分自身に対して良い気持ちを抱くことができ、ほかの人々も自分に好感を抱くことを話す。

3. 司令官モロナイと自由の旗の話をする（アルマ46章参照）。話をした後、子供たちに聖典からアルマ書第48章を開かせる。手にマイクを持つ振りをして部屋の中を移動する。そして以下の質問をしてから、一人の子供にマイクを向けるそぶりをし、その子供に答えとしてふさわしい節を読ませる。その答えに続き、ほかの子供たちにも聖典からその節を読ませる。質問「モロナイとはどんな人でしたか。」(11節)「モロナイは、自分は何もせずに、部下たちに仕事を押し付けるような指導者でしたか。」(12節)「自分の権利と宗教を守るため、モロナイはどんな決心をしましたか。」(13節)「ニーファイの民はどのような民でしたか。」(14節)「自分を守る以外に戦うことを好まなかったニーファイの民は、どのように自分たちを守りましたか。」(15節)「戦うのを助け、どこへ行くべきか教えてくれたのはだれですか。」(16節)「これらのことから司令官モロナイについて、どんなことが言えますか。」(17節)もし主を信じ、主の戒めを守るならば、わたしたちもモロナイのようになることを子供たちに思い起こさせる。時間があれば、子供たちに旗を作らせる。旗に「しゅをしんらいしなさい」、「いましめをまもりなさい」、またはモロナイの書いた言葉と同じもの（アルマ46：12）を書かせる。小さな子供たちには、旗に書いた言葉に添った絵を描かせる。

4. 使徒ペテロ（『新約聖書』）とハイラム・スミス（預言者ジョセフの兄で祝福師）はどちらも、同じような経

験を多く持った強い指導者である。以下の言葉が書かれたカードをそれぞれ2枚ずつ作る。「福音のために殉教した」「宣教師」「福音を宣べ伝えた」「指導者を守った」「牢に入れられた」「ほかの人々に仕えた」以下の言葉を書いたカードをそれぞれ1枚ずつ作る。ペテロ「漁師」「ガリラヤに住んでいた」「キリストの時代に生きていた」「教会の使徒長」「彼の名前は岩を意味する」。ハイラム「農夫」「二つの神殿の建設を助ける」「アメリカに住んでいた」「教会の大管長の補佐」「ジョセフ・スミスの時代に住んでいた」「彼は天国の柱のように強かった」黒板または壁に欄を二つ設け、二人の名前と、できれば絵もそれぞれはる。カードを1枚掲げ、子供たちにどちらの名前の下にはるべきか考えさせる。正解した子供に、正しい名前の下にそのカードをはらせる。（両方の名前に該当するカードもある。）カードに書かれた内容の中、どのような事柄を知っているか子供たちに尋ね、教師の説明を加える。小さな子供が参加する場合、できればカードに言葉を書く代わりに絵をはる。この二人は天父の偉大な僕であり、わたしたちもその模範に従えることを全員に思い起こさせる。

5. 天父を知る方法の一つに、天父の戒めを守ることがある。このテーマに関する資料として、「分かち合いの時間——せんたくとけっか」『聖徒の道』1997年3月号、こどものページ8、9を参照する。また、主を信頼するというテーマに関し、ほかのアイデアとして、「何度もいのりなさい」『聖徒の道』1997年3月号、こどものページ2および「主を信頼する」『聖徒の道』1996年1月号、17-19を参照する。□

特集

セミナー・
インスティテュート町田ステーキでセミナー
100パーセント達成

ステーキの登録者42人全員がそろって修了

工藤久子

セミナーの卒業式が3日後に迫った3月末のある日、一人のセミナー教師から「今日最後の生徒が修了条件をクリアしました」と電話がありました。「姉妹、ほんとうにありがとうございます。お疲れ様でした。生徒さんも最後までよく頑張りましたね。」わたしたちは大きな喜びに満たされました。

昨年の秋ごろ、セミナーもそろそろ終わりに近づいたとき、登録している「42人全員が修了できそうだ」とかすかな希望を持ったのが現実になりました。これは、何より生徒さん一人一人が頑張った証拠でしょうが、同時に教師の皆さん、ご両親が熱い思いをもってセミナーに取り組みされた結果であり、彼らを支援した指導者の熱意の賜物でもありました。

教師の方々は大きく二つのグループに分かれました。一つは、モルモン2世の若い教師たち。自分も青少年のときにセミナーを学び、「そのとき教えていただいた喜びをすべて伝えたい」「そのときしてほしいと思ったことを形にしたい」という望みを持った、帰還宣教師と近々伝道に出る予定の教師の皆さんでした。それぞれの教師の熱心さや年齢の近さが、生徒たちの圧倒的な支持を得ました。一人の姉妹は「自分は年も若く、伝道にも出ておらず、福音の知識も少ないけれど、生徒たちと友達になることはできる。生徒一人一人と良い友達になろう」と決心してセミナー教師を始めました。そして学期

の終わりごろには、ある生徒たちから「自分も先生のようにになりたい」とまで思われるほどの大きな信頼を得ました。またもう一人の姉妹は、自分の宣教師当時の豊かな経験を生かして、準備したたくさんの教材、音楽、ゲームなどをフルに活用し、またゲストを招くなど楽しいレッスンを毎朝展開してくださいました。時には朝食が準備されていることもありました。生徒たちの興味が増し、眠気が吹っ飛んだことは言うまでもありません。

もう一つの教師群は、御自分で自分のお子さんを教えられた教師の皆さんです。こちらは「子供たちに福音を規範とした生活を築いてほしい」「聖文をいつも学んで証を強めてほしい」という親の強い願いが原動力になりました。昨年4月のあるワードの学期前集会でセミナー担当高等評議員の兄弟が「自分たちが子供たちに残せるものは、子供たち一人一人を愛しており幸福になってほしいと思っていること、この福音に添って生活することが幸福を得る唯一の道であること、そのためには親はどんな犠牲をもいとわれないと言うことを伝えること」と御霊あふれる証を述べてくださいました。この証によって多くの親の皆さんが励まされ奮い立たされました。そして、毎朝5時に起きて食事の用意をしたり、教会まで車で送り迎えをしたりして子供たちをサポートしました。また、朝早くから頑張っている教師や子供たちのために食べ物

用意したりもしていただきました。

それぞれのセミナークラスは、各ワード指導者の高い関心を集めながら進められましたが、これは特に教師や生徒一人一人にまで関心を寄せてくださった担当のステーキ副会長、高等評議員の力添えが大きく影響しました。助けや励ましを与え、良いアイデアを出し、声を頻繁にかけられ、時にはクラスにも出席していただきました。

町田ステーキでは、ここ2年ほど、夏休みにセミナー集中スクーリングを開いてレッスンの補習、予習などを行っています。昨年は8月に2日間にわたって開かれました。セミナー指導主事の兄弟やほかの教師の皆さんの助けによって、延べ11クラスが開かれ、各クラス平均10人の生徒の参加がありました。各クラスで行われたレッスンも工夫を凝らしたすばらしいレッスンでしたが、一緒に昼食やレッスン後の活動は、生徒たちにとって仲間と過ごす楽しい時間となったようです。これで遅れを取り戻し、後半に向けて新たな決意をもって臨む生徒たちも何人かいました。

セミナーを修了したときには、生徒一人一人の心の中に福音を学ぶ喜びと福音に添って生きようとする希望の芽が大きく膨らんだように思います。わたしたち一人一人が主の前に従順に努力しようとするときには主は大きな祝福を下さることが分かります。(レポーター：工藤久子 町田ステーキ、セミナースーパーバイザー)



ユースカンファレンスにおけるセミナー修了・卒業式にて。

マレーシアからの留学生がインスティテュート10年皆勤賞を受賞!

堀田 徹

今から十数年前のある日、わたしのインスティテュートのクラスに陳姉妹、黄姉妹という二人の大学生が登録して来ました。二人とも、来日して東京で日本語の勉強を1年ほどして来たとのことで、その日本語はたどたどしく、とりわけ黄姉妹は、たぶん言葉のせいもあってか静かな姉妹でした。二人とも名古屋の公立大学で薬学を学びながらクラスに通って来ました。その大学の薬学部は入学の競争率も高く、入学してからの授業も難しく、外国人が日本語で修学していくことは容易ではなかったと思います。ましてや専門課程になった3年、4年では実験も多く、とても忙しそうでした。

当時二人は『聖書』も末日聖典もすべて中国語のものを使っていました。見せてもらおうと、漢字がびっしりと細かく並んだ聖典で、大変驚きました。

そして彼女たちにとって最初のコースがよりもよって『教義と聖約』でした。それも今のような口語体ではなく、文語体のものでした。日本人でさえ理解に苦しむ文章も随所に見られました。例えば「見よ、汝われに尋ねてその度毎にわが『みたま』によりて教えをうけたればなり。もし然らずば、汝今日居る所に来らざりしならん」といった具合です(教義と聖約6:14)。反語も頻繁に使われ、二重否定もあり、するべきか、しない方がよいのかさえ考えなければ分からない聖文でした。わたしが札幌伝道部に働いていたころ、宣教師訓練集会でこのような文語文をしばらく読めば、数人の外国人宣教師は意味が理解できず、すぐ居眠りが始まったものでした。

ところが、この二人のマレーシアからの留学生は異なっていました。彼女たちは静かな涼しいひとみを開いて、一言一言を理解しようと食い入るような学習態度でした。わたしは、この二人が一体どんな世界からやって来た靈なのだろうか、と不思議に思うほどで

した。恐らく最初のころの『教義と聖約』のコースは彼女たちにはほとんど分からなかったのではないかと思います。しかし彼女たちは毎週やって来ました。決して休みませんでした。二人とも、中国語、マレーシア語、英語を話すことが分かったので、難しいところは時々、わたしの下手な英語で説明したり、教材の英文資料をコピーして渡したりしましたが、2年、3年とたつうちにそんなことをしなくても理解できるようになったようでした。わたしがちょっとした冗談を言ったりすると即座ににっこり笑ったり、靈的な経験を話していると、彼女たちの目にも日本人と同じく光る涙を見たりすることもしばしばでした。わたしは、「ああ、御霊の助けを受け、ともに霊の喜びを感じ一つとなって福音を学んでいるな」と実感することができました。

二人とも留年することもなく、4年間の大学生活を見事に終えて卒業しました。日本人でさえ留年する人もあるというのに、二人は初志を貫きました。そして薬学士の学位を得た後、日本の薬剤師国家試験に挑戦しました。そうした中でも決してインスティテュートのクラスは休みませんでした。普通、大学の卒業研究だの論文作成年度だの資格試験だの定期試験などになるとインスティテュートを欠席することも考えられますが、二人は必ずやって来て並んで座りました。そして試験にも見事に合格しました。マレーシアからの二人の女性が日本語で受ける国家試験に合格したという話題は新聞に大きく採り上げられ、写真入りで報道されました。わたしは報道されなかった彼女たちのもう一つの面、つまり福音を学び、イエス・キリストの教えを探求しようとするすばらしい姿勢と、その涙ぐましい努力に心からの感動と喜びを覚え、胸の内ではひそかに大きな拍手を送りました。

3年前、黄姉妹に面接して、早朝セ

ミナリーの教師をお願いしました。わたしが面接の意志を伝えると彼女はすぐ「危ないな」(つまりセミナー教師の責任が来るんじゃないか)と気づいたそうです。

そのときまで彼女は中国語の聖典を使っていましたが、日本人に日本語でセミナーを教えるために日本語の聖典を使おう、と切り替えました。大学卒業後は、日赤の血液センターの薬剤師として働きながら、朝6時から7時までの早朝セミナーを続けました。セミナーの後、名古屋市から瀬戸市の近くまで自転車、電車、バスと乗り継いで通勤し、残業もこなします。そんな毎日の中で、次のクラスのために外国語(つまり日本語)で書かれた手引きや教材を研究し準備をするのは容易ではなかったと思います。また、絵の上手な彼女はしばしば教会でポスター作りなどを頼まれますし、ステークの神殿訪問にもよく休みを取って参加します。静かに、しかも主に忠実にまた人に誠実に奉仕する彼女には、「献身」という言葉がぴったり当てはまります。

そうした中、インスティテュートにも休むことなく出席してきました。6年、7年、8年、9年と皆出席でした。1997年度、前・後期をついに無欠席で通し、去る2月8日の名古屋地区レギュラーインスティテュート修了・卒業式において10年皆勤賞を受け、日本地域ディレクターから表彰されました。わたしの知る範囲では「10年皆勤」という話は聞いたことがなく、恐らく日本でインスティテュートが始まって以来の快挙であろうと思われます。

その経緯は単純ではありませんでした。しかし、そこに織り込まれた縦糸横糸の成す靈的な織物には、イエス・キリストの道を歩む者、信仰という道を進もうとする人々の心に訴える大切な響きがあると感じます。民族や国籍を超えて、末日聖徒は主の民として一つであり、その献身と奉仕は美しいも

のです。今日の末日聖徒の開拓者に混じって静かに主の業を進めている、こうした人に、主に愛される神の娘の一人として、大いなる祝福と恵みを受けていただきたいと心から願うものです。(レポーター：堀田 徹 名古屋インスティテュート教師)

12年間学び続けて

名古屋西ステーキ御器所ワード

黄 瑩儀



なぜインスティテュートを12年間(編集室注—黄姉妹はインスティテュートに登録して1年目は皆勤でしたが2年目、マレーシアに帰帰して1日だけ休んだため、通算記録は10年皆勤となります)も続けてきたか、自分自身でもはっきり言えませんが、わたしは教会に入った当初、教義についてまだよく分かりませんでした。日曜日の3時間プログラムでももちろんいろいろなことを学べますが、聖文をよく研究し、一つ一つの聖句をよく味わうことができるのは、やはりインスティテュートだと思います。神様がこのプログラムを与えられたのは、わたしたちにもっと深く福音を理解してほしいと願っておられるからだと思います。

インスティテュートに出席して、あることを何度も経験しました。自分が疑問を持っている幾つかのことがありましたが、そんなときインスティテュートのレッスンに出席して、その疑問の答えをし

しば見つけたことです。とてもうれしく思いました。そのとき、心が開かれたように、目の前が明るくなったように感じました。急に目が覚めたような感覚でした。その新鮮さと喜びは今も覚えています。

そして、一つの目標を立ててそれを一生懸命やるときに、途中で障害があるかもしれませんが、神様は必ずその道を開いてくださいます。この12年間を通して何が得られたかは一言で言えませんが、福音を勉強し真理を知っていくうちに自分の信仰を強めることができました。中国にこのようなことわざがあります。「学無止境」——学ぶことには終わるという境界はないという意味です。確かに福音を学ぶことは教会員歴や年齢とは関係ありません。一生を通してずっと学び続けるのです。この教会は真実の教会であって、ジョセフ・スミスは神と御子に会って福音を回復した預言者であることを証します。(ウン・ジョン・イー)

特選 セミナリー・インスティテュート

模範によって教えられ、行いによって学ぶ

セミナー・インスティテュート卒業式における親と子へのメッセージ

元名古屋西ステーキ扶助協会会長 堀田幸子

先日、長野オリンピックが終わりました。わたしはオリンピックが好きです。感動があるからです。そこには努力した者、頑張った者が勝利を得るといふ原則があります。その努力は並々ならぬ、継続する努力です。そして成功への情熱があります。それは目標へ向けての情熱です。100分の1秒、1,000分の1秒を争うとき、そこには人の力以上のものがあるのを感じます。神様の助けがあると表現した選手がいます。神という言葉が何度も語られました。最大限の努力をし、限界まで挑戦し続けた人々には、努力のうえに神様の助けがあることを感じる瞬間があるからだと思います。これは、日の栄えという目標に向かってるわたしたちの人生に似ています。オリンピックの賞は人が与えるものですから、完全に公平でないところもあるかもしれませんが、でも神様の与えられる賞は

完全に公平です。努力は必ず等しく報われます。

オリンピックでメダルを取った選手たちのことが数々報道されました。それとともに、コーチとして彼らを育てた父親のことも度々話題になりました。共通して言えるのは、大変厳しい父親だったということです。痛で病床にある父親を見舞いに来た息子に対して「何しにここに来た、そんな暇があるなら練習に行け」と突き放した父親。4歳でスキー靴を履いた娘に「オリンピックに出るんだぞ」と言い聞かせ、大人の男性でも尻込みするような急なでこぼこの斜面にも容赦せず、突き落とすように滑らせた父親。夏は山道を走らせ、自転車と伴走し、ついて行けなくなると「山頂の岩を触って戻って来い」と言いつけ、娘の姿を双眼鏡で追った父親。鬼のように厳しかった父親と表現した選手もいました。

でも同時にその父親たちは、ただ厳しいだけではなくたと報道されていました。「厳しいコーチ、そして優しい父親」「厳しさの中で失われなかった信頼」「お父さんが好きで、そばにいたかった」と表現されていました。亡くなったお父さんの写真を胸のポケットに忍ばせ、お父さんのくれたピアスを付けて滑った選手がいました。この親たちの態度から、学ぶものがあると思いました。

わたしたちは人生のゴールを目指して歩いている子供たちを育てています。親はたぶん、先に死ぬでしょう。その後も頑張って目標に向かって歩き続けることができるような子供たちに育てておくことが人生のコーチとしての親の責任ではないでしょうか。そこには厳しさが必要だと思います。そして同時に、親と一緒にいたいと感じさせ、大好きと思わせるような優しさが必要

伝道に出る末の息子さんを見送る堀田姉妹(写真中央)とご家族。左端が文中の手紙をくれた二女の小緒望姉妹。



だと思えます。死んでしまった後もお父さんを喜ばせたいと思いつけてくれるような信頼関係が必要だと思えます。

金メダルの目標を抱いても、そこに至るまでの努力がなければ実現は不可能であるのと同じく、永遠の命と昇栄の目標を持っていても、努力がなければ到達できません。生涯を通して神様を愛し、その戒めを守り続け、主に似た者となるように人格を完成させていく努力を続けなければならないのです。それは簡単なことではありません。やり遂げるにはエネルギーが必要です。成功への情熱です。絶えることのない熱意です。この情熱と熱意のないところに成功はありません。そのためにはどうしてもエネルギーの基となる確固とした証あかしを築く必要があると思えます。どうすればそれができるでしょうか。

それは、神様の言葉に従って、また預言者の勧告に従って自分でやってみることだと思えます。人はいくら人から聞いても、自分でやってみないかぎり納得しないし、学ぶことはできないからです。自分でやってみて初めて分かり、心の底から学び、理解し、知ることができるのです。

「聖典を読みましょう」と勧められています。読むのです。預言者の勧告に従うように勧められています。まず、勧告を知るために『聖徒の道』を自分で読むのです。そしてその勧めに従って行ってみるのです。対象年齢になったらセミナーやインスティテュートで学ぶように勧められています。学ぶのです。伝道に出るように特に兄弟た

ちは勧められています。ふさわしく生活に必要な準備をして、出るのです。

どれも簡単ではありません。つらいです。しない方がずっと楽です。必ずだれにでも障害があります。しないためのもっともらしい理由が次々出てきます。なぜならサタンが大いに妨げる業だからです。だまされてはいけません。心配しなくていいのです。神様を信頼し、勇気を出して障害を克服し、やってみることで。簡単でないからこそ、わたしたちが成長する機会になります。

お父さん、お母さんに申し上げたいと思えます。子供たちは親のものではありません。神様からお預かりしているのです。ですから神様の方法で育てる必要があります。最も子供を愛しているのは親ではありません。神様です。

親が自分の言葉で強く言う子供は反発します。あまり言い過ぎると親に背き、ついでに教会のことも嫌いになります。教会のことを嫌いになってもらっては困るので、優しく甘く導けばいいのでしょうか？ 選択の自由があるので好きにさせてあげればいいのでしょうか？

これは神様の方法ではありません。自分の言葉や自分の考えではなく、神様の方法に従えばいいのです。家族で朝晩祈りをささげること。週に1回、家庭の夕べをして、子供たちと楽しく過ごし福音を教えること。日々のあらゆる場面において主の戒めを守るよう教え続けること。教会にともに集い、教会の指導者を敬うことを教え、従順を教えるのです。

人は聞いて学ぶのではなく、自分で行って初めて学ぶのですから、学ぶ機会を与えることです。すなわち大変でもやってみる機会を与えるのです。口でやりなさいと言うだけではなく、やれるように親も最大限の努力をすることです。口で言うだけの親は口で言うだけの子供を育てます。暴力を振るう親は暴力を振るう子供を育てます。強制と暴力は反抗を生みます。でも厳しくても愛と信頼関係があつて、親も努力していれば大丈夫です。聖典を読む子供を育てたかったら自分が読むこと

です。主の勧告に従う子供にしたかったら自分も従うことです。早朝セミナーで学ぶ子供がいたら、親も早起きするくらい決心をし、送り迎えが必要ならしましょう。彼らは多くの場合、まだ自分ではやりたいと思っていないし、その結果も分からずにいるのですから、あらゆる方法で助けましょう。

そのようにして彼らは学び証を得ます。純粋ですから教えられるままに学びます。もし親が否定的なら、そのことも純粋に受け入れてしまいます。教会の批判、指導者の批判はしないことです。主に従うことを教えるのです。伝道に出ることを勧め、助言し助けることです。自分でお金をためて出るように助けるのです。もしできなければ親が助けてでも出られるようにしてあげることです。お金に換えられない証を得て帰ります。そのときにすべての努力は報われ、大きな喜びに変わります。

受験期で忙しくて疲れている子供を、毎朝早朝セミナーに送り出す親の気持ちは「山頂の岩に触って戻って来い」と言いつけて双眼鏡で見守っていた親の気持ちに似ています。子供を伝道に出す気持ちは、急なでこぼこの斜面を突き落とす気持ちに似ています。外見は大人のように見えても、まだまだ弱い手足と心で出て行く子供たちです。親に信仰がなければとても耐えられません。ジャンプで悪天候に阻まれ失敗し、肩を落としていた原田選手を見ているように、はらはらすることがあります。挫折を乗り越えて成長していきたくて信じて見守り、応援します。挫折があるからこそ乗り越えたときの喜びがどんなに大きいかを知っているからです。神様の守りを求めて、毎朝毎晩熱心に祈ります。

伝道に出ている娘からの先日の手紙にこうありました。「伝道って難しいね、やっぱり人間、人に嫌われたくないもので。でも宣教師は必ず嫌われ、ばかにされ、変人扱いされます。常識的なことを愛しているわたしにとって悲しいことです。でも一つ冷たくされ、ばかにされる度に『よし、天に宝を積んでいるぞ!』と思うことにしています。

大変だからこそ祝福があるんだもんね。……まだまだ弱いけど、傷つきやすいけど、傷ついたときこそ証が強くなるのを感じます。神様の助けが必要だと感じ、よく祈ります。伝道に出てから『心が苦しい』というのがよく分かるようになりました。好きじゃないけど必要なんだよね、きっと。いつも泣きながら頑張っています。』

親のそばにいては決して学べない多くのことを学んでいます。伝道から帰るとほんとうに大人になります。まさに主の訓練です。犠牲と思ったすべては、実は大きな祝福であったことが分かります。伝道の経験は人生の宝となります。伝道から帰った長女はよく、「伝道で失うものは何もない」と言っていました。

中学生、高校生の皆さんに申し上げたいと思います。親が完全でなくても、またたとえ自分のそばにいる指導者が完全でなくても、好きでなくても、この教会は真実の教会であり、教えは真実です。親が気に入らないから教会に

行かないとか、教会でふてくされた態度でいるなんて子供っばいです。たとえ親に反抗の気持ちを抱いていても、神様に反抗しないでください。親に欠点があったら、親を超えるような人格を築いてください。それが神様の御心にかなうことです。

親が完全でなくても赦してあげてください。子供は親のものではありませんが、自分のものと勘違いするほど一生懸命世話をしてきたのです。子供が成長して、自分でできるようになったのに気づかないほど大切にしてきたのです。少々、口うるさくても我慢してあげてください。

そして、自分で聖典を読み、『聖徒の道』を読み、預言者の教えに従ってみてください。やってみればこの教えが真実であることが分かります。そして大きな喜びがわき上がってきます。

多くの預言者によってすでに予言されているように、世の中に悪がはびこっています。ちょっとおかしい方向に急速に向かっている、とだれもが気づ

くほどになっています。宗教教育、つまり何が正しいのかきちんと教えること、またルール、標準が必要だと叫ばれています。でも人が集まって考えても、きっと決めることはできないし、そうしているうちに世の中はもっとも悪くなるでしょう。標準はこの世を造り、わたしたちに命をお与えになった御方によってすでに与えられているのです。そのことを知っているわたしたちはしっかりそれに従い、わたしたちの行いの模範によって一人でも多くの人々に、この教えをお伝えする必要がありますと思います。世の中がどう変わろうと、主の教えに従って日々継続して努力すれば、必ず祝福を受けると、心から証いたします。最終の目標を心に抱き続け、賞を頂けるように、皆さんとともに努力したいと思います。(ほった・さちこ 扶助協会第一副会長)

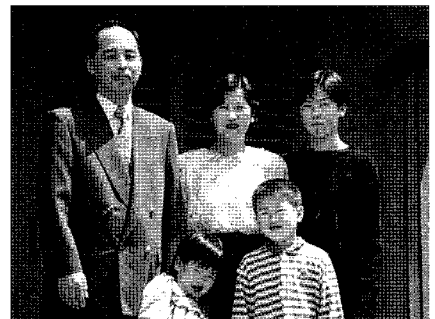
*この記事は、今年3月の名古屋・三重におけるセミナー・インスティテュート卒業式ほかで、堀田姉妹が当時、ステーキ扶助協会会長としてお話されたものを基にしています。

「これらの最も小さい者のひとりに……」

京都ステーキ下鴨ワード
西村まさみ

西村ご家族

後列中央がまさみ姉妹、その右が京子姉妹



わたしには4人の子供がいます。長女の京子が高校3年生のときは、大学受験を控えて精神的に少し気を使うこととなりました。

京子はいつその前まで教会を休みがちでしたので、わたしは何も今さら慌てて教会に集わなくても、進路がはっきり決まってから少しずつ集ってくれるようになればいいかな、と思っていました。

そのころ、ワードの伝道主任さんが京子のバプテスマパスデーにカードを持ってわざわざ訪問してくださいました。京子はそれに驚くと同時に、とてもうれしかったようです。それがきっかけで少しずつ教会に集うようになり、教師の方の熱心なお勧めで、早朝セミナーにも参加することになりました。

正直に言ってわたしはそのとき、受

験勉強と教会の両立だけでも大変なうえに、朝早くから毎日セミナーに出席するなんてとても無理ではないかと思いました。また主人は教会員ではありませんので、これでもし受験に失敗でもしたらしばらく教会に集うのが難しくなるのではないかと、と要らぬ心配もいたしました。

やがて早朝セミナーが始まり、本人も頑張る集い始めましたが、やはり少し無理をしたためか最初のころはよく熱を出しました。それでもセミナーも学校も休むことはありませんでしたが、よく保健室のお世話にはなっていたようです。

またそのころ、自分の進路についていろいろ悩む中で、祝福師の祝福を受けることができ、様々な指針も与えていただきました。

この1年ほんとうに大変でしたが、ずっと教会をお休みして忘れられそうな小さな存在であった子に、多くの兄弟姉妹の助けと励ましを頂けて心から感謝しています。結局、祝福されて本人の希望する大学で学べることになりました。また将来は伝道に出たいとも話してくれました。

この1年、セミナーを通して多くの祝福を頂き、ここまで成長してくれたことを心から感謝しています。この教会教育プログラムが多感な時期にある青少年にとってほんとうに必要なことを心から証いたします。(にしむら・まさみ 初等協会第一副会長)

「無償の愛」を頂けたセミナー

京都ステーク下鴨ワード 西村京子

高校3年生になったとき、わたしは受験のことで頭がいっぱいでした。早朝セミナーに時間を割くことについて最初はかなりの迷いがありました。

当時わたしには、まだ小学2年の小さな弟と幼稚園児の妹がいました。母も子育てに振り回されて大変な時期でしたが、セミナーのために毎朝わたしを車で教会まで送ってくれました。

またセミナーの後、学校へ行くために教会の兄弟が駅まで送ってくれました。

早朝セミナーの生徒はほとんどわたし一人でしたが、そのためにたくさん兄弟姉妹が教会に集い、わたし一人のために助けてくださって、すごく不思議でした。セミナー教師の兄弟は、わたしの受験の家庭教師にもなって夜遅くまで勉強を教えてください、それからレッスンを準備されて、次の早

朝に教会で待っててくださいました。

みんなが「無償の愛」を示されました。「受けるよりは与える方が、さいわいである」とあります(使徒20:35)。わたしは受けるだけでこんなに幸せを感じました。彼らの模範に従い、わたしも与える方になりたいと思います。

またわたしたちの年代は様々な問題を抱えています。毎朝教会で聖典を分かち合ってから学校へ行くことで、神の国と神の義を優先した選びができたことに感謝します。(にしむら・きょうこ 初等協会教師)

御霊を常に伴侶として

松山地方部宇和島支部

川崎江利子

わたしは今高校1年で、セミナーをしています。ほんとうは中学3年のときに始める予定だったのですが、朝早く起きるのがつらく、途中で断念してしまいました。今ではとてもそのことを悔やんでいます。

セミナーを始めてまだ1か月足らずですが、わたしはこの間に、すごく信仰を強めることができました。

わたしは中学3年の受験シーズンから今に至るまで、御霊があまり感じられなかったように思います。その理由は、わたしが神様を信じていながらも行動にはその信じていることを表さなかったからだだと思います。

わたしは少し前のクリスマスのころに、「我が家のクリスマスと母親」について証をしました。そのときの気持ちは今でも胸に焼きついてます。母親への感謝の思いと御霊で胸がいっぱいになりました。御霊を感じたのはそのときが初めてではありませんが、あれほどすばらしい御霊を感じたのは初めてでした。わたしは自然と涙が出てきました。そして神様が生きておられることを体全体で感じ取ることができました。思えばこのころから、わたしが教会活動に活発になる兆しがあった

のかもしれない。

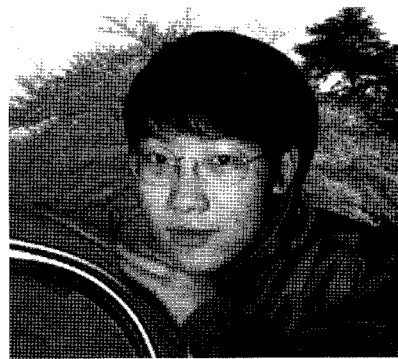
年が明けて2月に入り、今まで伝道に行っていた姉妹が帰って来ました。そしてわたしたち青少年クラスの教師をしてくれることになりました。

姉妹はわたしたちに、「目標を作るように言いました。わたしはセミナーをすること、決まった時間にお祈りをする、そして『モルモン書』を読むことを約束しました。どれもわたしには欠けていたことでした。

わたしは2年目にしてやっとセミナーに取り組むことになりましたが、両親は多忙で教師ができないので、自主学習ですることになりました。わたしはセミナーを始めてから「教会に行きたい」という気持ちが強くなりました。今までは怠惰な心を起こしてしまっていて、活発に——というわけにはいきませんでした。今は「与えられた責任は全部したい」「もっと福音について学びたい」と思うようになりました。

またわたしには5人の妹がいますが、今までは妹が泣いていても、わたしの気分次第でどなりつけることもありました。しかし今では慰めることができます。このことはほんとうに天のお父様からの祝福だと思います。またわた

川崎姉妹



しは、人を救ふことと、他人のために祈ることを覚えました。わたしはセミナーをすることによってほんとうに霊的に成長することができました。

今わたしは、いつも御霊をそばに感じることができます。今わたしからセミナーを離したら、それは罰を与えているのと同じことです。それくらいセミナーはわたしにとって重要なものとなりました。わたしは聖典を通して、また御霊を通して天のお父様やイエス様がおられることを証できます。わたしはまだ『新約聖書』しか勉強していませんが、セミナーの年齢が過ぎてもずっと学びたいと思います。そしていずれは伝道に出て立派な宣教師になりたいと思います。

「あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい。」(マタイ5:48)

わたしはセミナーをすることによって少しずつでも神様に近づきたいです。また家族が永遠であることを証します。(かわさき・えりこ)

「父はその者に火と聖霊を与えられる」

福知山地方部相生支部
石原章雅

神の面影を受け

わたしはこれまでの人生の中において主の驚い恵みを受け、主の深い憐れみと知恵について知りました。わたしは主が確かに生きておられ、わたしたちがほんとうの幸福を得るように望んでおられることを知っています。そしてわたしは自分が書く記録が真実であることを知っています。

1994年にわたしは福音を聞きました。宣教師のひとみの中に何か特別なものを感じたわたしは、二人の勧めに耳を傾けていきました。初めて主イエス・キリストについて学んだとき、その深い愛に感動しました。賛美歌にあるように、「主イエスの愛にただ驚く」ばかりでした。そして二人の宣教師からその愛を感じる事ができました。わたしも主のように、二人の宣教師のようになりたいと心から望みました。

わたしは勧められるままに『モルモン書』を読み、祈り、福音を学び続けていきました。ある日、レッスンが終わって帰る途中、「今までにこんなに幸せと喜びを感じたことはなかった。今わたしは心からの最高の笑顔をしている」と思いました。そして部屋に帰り、鏡の中の自分の顔を見たとき、非常に驚きました。自分の顔と重なるように、愛にあふれ、ほほえみを浮かべた主の顔が映し出されているように感じたからです。そのときのわたしはまさに「神の面影を受けていました(アルマ5:14)。

わたしは御霊を感じ、戒めを守るうちに心に変化していきました。イエス・キリストを信じる信仰が築かれ、悔い改め、バプテスマに導かれ、新しく水によって生まれる事ができました。それは、心の中に喜びという命の水が永遠にわき出て、決して終わりが無いといった気持ちです。

混乱と試しの中から

わたしはその喜びをだれかに伝えたくて、また同じように味わってほしくて、『モルモン書』をたくさんの人に渡し始めました。『モルモン書』を読めばみんなきっと分かってくれると思ったからです。しかしなかなか思うようにはいきませんでした。同じ主を信じているクリスチャンの人ならばこの記録を理解してくれるかと思い、あるとき機会を作って話すことになりました。

わたしには知恵も知識もなかったもので、ただ天父に熱烈な助けを祈り求め、自分にできる最善を尽くしました。ところがその人はわたしの言葉を理解するどころか反論し、「それは誤りである」と説き伏せてきました。特に『モルモン書』とジョセフ・スミスに対する攻撃は厳しいものがありました。わたしは「そんなことはない」と思いつつも何も言うことができず、残念な気持ちで終わりました。

その後、「もしかしたら、あの人の話はほんとうかもしれない」「ジョセフ・スミスはサタンに欺かれて『モルモン書』を書いたのかもしれない」などと疑いの気持ちが出てくるにつれ、思いも暗くなりました。今まで好きだった絵の中のジョセフがわたしをにらんでいるように見えました。そしてついに、次の日曜日は教会を休もうとまで考えてしまいました。

わたしはその混乱の中で、忘れていた祈りをするよう導かれました。少年ジョセフのように、主への信仰を持って、どの教会がほんとうの教会であるか、心からの祈りをささげました。

するとそのとき、インスティテュートに行った方がいいと感じたのです。インスティテュートのことは以前から聞いていていつも心の中にありましたが、仕事の時間の都合と折り合わず、またコースもその年は『教義と聖約』で、改宗したばかりのわたしには難しく感じられ、行く気持ちになれなかったのです。

御霊の力によって学ぶ

翌週のインスティテュートの日、わたしは仕事が終わるとすぐ、ここに祈りの答えがあると信じて教会に向かいました。知らない人がたくさんいる教室に一人で入って行き、教師の話に耳を傾けました。

講義では、ミズーリでの迫害やリバティーの監獄でのジョセフ・スミスについて語られていました。わたしはその時間、ずっと心の中に熱い燃えるようなものを感じていて、ついには涙が頬を伝いました。

わたしはそのとき、ジョセフ・スミスが確かに神の預言者であることを御霊の力によって知ったのです。わたしの心の中の、疑いや不信仰という不純物が、精錬者の火によって溶けていったようでした。「わたしを信じる者は父をも信じるのである。その者に、父はわたしのことを証されるであろう。父はその者に火と聖霊を与えられる。」(3ニーファイ11:35)

わたしは、イエスがキリストであられ、ジョセフ・スミスが真の預言者であること、『モルモン書』が真実であること、この教会が唯一まことの生ける神の教会であること、ゴードン・B・ヒンクレー大管長がすべての神権の鍵を持つ預言者、聖見者、啓示者であることを証します。

わたしはこれらの証をインスティテュートを通して得ました。福音を学ぶ楽しさを教えてくれたインスティテュートプログラムに心から感謝しています。わたしはその後伝道に召されましたが、インスティテュートで学んだことは、伝道のすばらしい備えとなったことを証します。わたしは皆さんの祝福を願い、ヒンクレー大管長と同じようにお勧めします。「あらゆる機会を見つけて聖文の学習に励んでください。セミナーやインスティテュートを受講するよう頑張ってください。」(『聖徒の道』1998年1月号, 68) (いしはら・あきまさ 支部伝道主任)

専任宣教師

1998年4月(223期生)25人, 海外3人 ●上から氏名, 任地(伝道地), 出身ユニット



あおやぎ
青柳明弘
神戸伝道部
東京東ステーキ
市原支部



あつみ
渥美道代
札幌伝道部
名古屋ステーキ
豊田支部



飯塚浩貴
神戸伝道部
山台ステーキ
長町ワード



池端美絵
東京南伝道部
札幌西ステーキ
手稲第1ワード



今井里美
東京北伝道部
大阪堺ステーキ
河内長野ワード



うにゆき
上田訓之
仙台伝道部
福岡ステーキ
井尻ワード



おきつ
興津賢児
神戸伝道部
秋田地方部
秋田支部



おさわ
小笹正美
神戸伝道部
福岡ステーキ
藤崎ワード



熊沢幸恵
福岡伝道部
横浜ステーキ
横浜第1ワード



おさわ
小阪 翼
東京南伝道部
大阪堺ステーキ
和歌山ワード



かん
金絵理子
福岡伝道部
秋田地方部
秋田支部



さとう
佐藤健哉
福岡伝道部
大阪ステーキ
東大阪ワード



しづの
志津野誠
神戸伝道部
東京東ステーキ
鎌ヶ谷ワード



白澤有子
名古屋伝道部
札幌西ステーキ
森路支部



杉浦英樹
神戸伝道部
東京東ステーキ
千葉ワード



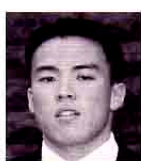
みなみ
瀬川優恵
岡山伝道部
札幌西ステーキ
室蘭ワード



たかひこ
辻 孝尚
東京南伝道部
札幌西ステーキ
新琴似ワード



長嶺顕真
東京北伝道部
沖縄那覇ステーキ
小塚ワード



橋本浩司
岡山伝道部
町田ステーキ
町田第2ワード



星 直紀
岡山伝道部
東京北ステーキ
浦和ワード



土田ミチル
イリノイ州
シカゴ北伝道部
新潟地方部
三条支部



うちやま
堀井識史
福岡伝道部
大阪北ステーキ
豊中ワード



増田 匠
札幌伝道部
我孫子ステーキ
つくばワード



森村賢二郎
東京北伝道部
高松地方部
丸亀支部



かずき
横沢一毅
福岡伝道部
盛岡地方部
北上支部



和田健太郎
岡山伝道部
新潟地方部
長岡支部



下川健一
カリフォルニア州サン
フランシスコ伝道部
リックスカレッジ第5
ステーキ第36ワード



高良理沙
イリノイ州
ベオリア伝道部
沖縄那覇ステーキ
名護ワード

役員の異動

1998年4月8日から5月6日までに管理本部会員統計記録課に通知のあった役員
の異動(敬称略)

- 札幌西ステーキ函館ワード
監督: 高松信孝
- 大阪ステーキ関目ワード
監督: Bennion, Samuel Owen
- 日本東京北伝道部
第一副部長: 吉田憲博
- 日本石川地方部
第一副部長: 竹内章浩
第二副部長: 高嶋英明

ユニットの変更

1998年4月26日付けで旧横浜ステーキ
が分割され, 横浜ステーキと横浜南ス
テーキが組織されました。

- 日本横浜ステーキ: 川崎ワード(旧
小杉支部), 高津ワード(旧川崎ワー
ド), 都筑ワード(旧横浜第1ワード),
神奈川ワード(旧横浜第2ワード), 鶴
見ワード(新設), 横浜中ワード(新設)
- 日本横浜南ステーキ: 上大岡ワー
ド, 保土ヶ谷ワード(旧横浜中央ワー
ド), 鎌倉ワード, 戸塚ワード(新設),
旭ワード(新設), 横須賀支部

皆さんの原稿を募集しています

◎あて先: 〒106-0047 東京都港区南麻
布5-10-30 末日聖徒イエス・キリ
スト教会 『聖徒の道』編集室

TEL.03(3440)2666
FAX.03(3440)3275

おわびと訂正

●『聖徒の道』5月号, チャ
ーチ・ニュース13ページ, 写
真のキャプションに「左から
松永兄弟, 山新田姉妹, 久野
兄弟」と記載されましたが,
「右から」の誤りでした。お
わびして訂正いたします。